



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

第9号

岐阜大学

国際交流年報

2023



Gifu University Organization for Promotion of Globalization GU-GLOCAL

岐阜大学 グローカル推進機構

Table of contents

目次

学長メッセージ

岐阜大学国際交流年報 第9号の発行にあたって

I	国際化推進体制	5
1.	岐阜大学の国際化推進体制	5
	各部門の活動報告	6
	学内の国際化をサポートする体制（日本語・日本文化教育体制／保健管理体制）...	10
2.	海外大学・機関等との学術・学生交流協定	13
	本年度に新規締結した協定大学等	13
	大学間学術交流協定締結大学・機関マップ	14
	部局間学術交流協定締結大学・機関マップ	16
	外国人留学生在籍数	18
	岐阜大学学生の海外派遣実績	19
	 トビタテ！留学 JAPAN とは？	22
	岐阜大学教職員派遣実績	23
	外国人研究者・来訪者受入実績	23
	国際協力活動（JICA 事業）	24
	短期研修プログラム（サマースクール／Collaborative Video Making Program／ Winter School／Spring School Program）	25
3.	国際交流活動	28
	国際協働教育・地域国際化関連	28
	留学推進・国際企画関連	30
	留学生就職促進プログラム関連	33
	日本語・日本文化教育センター関連	34
	学内の国際化の取り組み	35
	大学の世界展開力強化事業	39
	全国大学 JDP 協議会	40
	留学生就職促進プログラム	41
	岐阜地域留学生交流推進協議会	42
II	各学部・研究科等の主な国際交流活動	43
1.	教育学部	43
2.	地域科学部	44
3.	医学部・医学系研究科	45
4.	工学部	48
5.	応用生物科学部	49

6. 社会システム経営学環	50
7. 連合農学研究科	51
8. 保健管理センター	52

III 大学の国際化と学生支援	54
新たな国際展開へ向けて	神原信志 54
南フロリダ大学との交流	山本眞由美 56
ノーザン・ケンタッキー大学	巽 徹 65

IV 資料	68
1. 令和5年度グローバル推進機構名簿	68
2. 協定一覧	70
3. 本学の国際関連活動	73
学長表敬訪問（来訪・往訪）	73
令和5年度国際関連事業一覧（全体）	73
4. 大学間学術交流協定先との交流状況	76
5. 海外オフィス・研究施設	78
6. 国際共同研究等の採択実績	78
（公財）田口福寿会	78
7. 留学生の地域貢献	78
8. 令和5年度における各種広報資材	79

学長メッセージ

ソーシャルインパクトの創出に向けて

岐阜大学は名古屋大学と法人統合し、国立大学法人東海国立大学機構として、将来の国立大学の新たなモデルとして発展を続けています。「Make New Standards for the Public」というミッションを共有し、ビジョンを「地域共創、特色ある研究、イノベーション、教育を戦略的に推進し、地域と人類の課題解決に貢献する『地域活性化の中核拠点』となる」と定めました。

1949年の創立以来、受け継がれてきた岐阜大学のモットーは「人が育つ場所」、育成の目標は「学び、究め、貢献する」人材です。Society 5.0の時代を担う人材育成として、国際通用性のある質の高い教育を実践します。それにより「国際化を通じてより一層の地域貢献」を行う地域中核大学として、国内外で活躍する次世代を担うリーダーとなり得る人材を育成することを目指します。とくに国際化の進捗状況を確認する基礎資料が岐阜大学国際交流年報であり、2015年度版から刊行が始まりました。日本国内の一定地域と海外の一定地域とが教育、研究、あるいは社会・経済活動についてマッチする課題を共有し、また認識し、それを解決することによって得られる成果が双方の地域振興に結実するという実践的な国際化が目標です。

2022年からの第4期中期目標・中期計画が始まり、岐阜大学においては、国際展開が加速しています。「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択され、インド工科大学グワハティ校、岐阜・東海地域及び北東インド地域の産官学と連携した各種取り組みを行っています。本学とインド工科大学グワハティ校の連携が首相官邸の海外向けPR動画に取り上げられました。大変名誉な事です。JDP（Joint Degree Program）を中心とした人材育成を主導しており、岐阜大学は全国大学JD協議会の会長を担当することとなりました。

大学間協定は、19カ国49大学、部局間では25カ国60大学、さらに個人レベルでの共同研究は、極めて多く行われています。新たな交流として、駐日モロッコ王国特命全権大使（ラシャッド・ブフラル氏）が本学を訪問（2023.5）され、ラバト国際大学との交流が始まりました。また、フィリピンのマリアノ・マルコス州立大学学長等が本学を訪問（2023.7）されました。フランスのリール大学の使節団も来学（2023.7）され、リトアニアのヴィータウタス・マグヌス大学と共に、将来的にJDP実施を目指して協議しています。2023年度には、ラバト国際大学（2023.12）、南フロリダ大学（2024.1）、インド工科大学グワハティ校（2024.2）を訪問致しました。2024年度は、サマルカンド医科大学、リール大学、ヴィータウタス・マグヌス大学、マレーシア国民大学などを訪問し連携協定締結・更新予定です。

さて我が国は、2023年4月に教育未来創造会議第二次提言として、「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ（J-MIRAI）」をとりまとめ、コロナ後の新たな留学生派遣・受け入れ方策や、留学生の卒業後の活躍に向けた環境整備、教育の国際化の推進などが提言されました。すなわち、世界最先端の分野で活躍する高度人材から地域の成長・発展を支える人材まで厚みのある多様な人材を育成・確保し、多様性と包摂性のある持続可能な社会を構築する。そして、我が国の更なる成長を促し、国際競争力を高めるとともに、世界の平和と安定に貢献していくことが盛り込まれました。さらにこれまでの留学生交流については、量を重視するのみならず、質の向上を図ることも重要視されます。いずれにしても、より強力に高等教育段階の人的交流を促進し、世界に伍する水準への改革を進め、海外に留学した日本人学生の就職の円滑化や日本で活躍を希望する外国人留学生の国内への定着が促進されます。これらの指針に沿った形で、岐阜大学も東海地区の大学などの連携を深め協働し、国際展開を推進します。



岐阜大学長 吉田和弘

2024年5月20日 岐阜大学長 吉田 和弘

岐阜大学国際交流年報 第9号の発行にあたって

岐阜大学の国際交流に関する年報「岐阜大学国際交流年報」も第9号刊行を迎えました。発行母体である岐阜大学グローバル推進機構（Gifu University Organization for Promotion of Glocalization: GU-GLOCAL）は、平成31年4月1日に「大学の国際化とその地域還元」の理念のもと、国際戦略本部の組織改編によって誕生して6年を迎えました。地域の中核拠点大学として、大学の国際化を進める方向性とその目的を込めた名前を持つこの組織では、全学の国際化活動の支援に加えて、様々な学外者と連携しながら地域の国際化の推進を図っています。この年報では、岐阜大学の国際化に関わる活動を記した、岐阜大学国際交流ニュースレター記事やグローバル推進機構の各部門及び学内部局が発信した記事などの掲載を中心に、令和5年度の国際活動（教育、研究、地域貢献）についてまとめています。

令和5年は、コロナ禍により停滞していた海外大学との交流を再開する年となりました。令和4年度に採択された、大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」の活動を中心に、渡航を伴う様々な事業に取り組んだのがその代表例です。大学の世界展開力強化事業は博士課程2専攻、修士課程1専攻を実施するインド工科大学グワハティ校と連携して、新しい国際協働教育を構築する野心的なものとなっています。具体的には、地球規模課題を理解しそれを地域の問題として解決する人材を「グローバル人材」と定義し、Glocalist（学士）、Glocal Expert（修士、博士レベル）を国際連携修了書（International Joint Certificate）として保証するプログラムを開発・実施するものとなっています。令和8年度までの事業期間に、新しい教育の仕組みを構築しながら、日印の架け橋となる高度人材の養成に注力する予定です。本件の準備として、自然科学技術研究科では対応する科目が新設されました。本プログラムの一環として、ウィンタースクール（短期招聘）、スプリングスクール（短期派遣）プログラムを実施し、さらにジョイント・ディグリープログラム（JDP）を中軸として産官学金が議論を深める岐阜JDシンポジウム及びグワハティJDシンポジウムを実施しました。ウィンタースクールには、JD実施大学であるインド工科大学グワハティ校（IITG）・マレーシア国民大学（UKM）の学生が参加し、スプリングスクールには、教育学部、地域科学部、医学部、工学部、応用生物科学部、社会システム経営学環の学生がIITGへの派遣プログラムに参加しました。このような取り組みを通じて、国際通用性が高い人材育成とともに、本学の国際化の成果を地域に還元することが期待されます。

末筆になりますが、この原稿を書いている時点で1米ドルは160円近辺で推移しています。コロナ前の水準より5割は下落して円安が進んでいます。各国で進むインフレ・物価上昇の影響もあり、留学プログラムによってはコロナ前の3倍近くの学生負担が必要な状況がでてきました。本学が目指す、「地域社会に根差した国際化」を担うことになる、学生さんたちの留学の機会の維持は、重要な課題になると考えられます。様々な面で、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



グローバル推進機構長
小山 博之

I. 国際化推進体制

1. 岐阜大学の国際化推進体制

岐阜大学はジョイント・ディグリープログラム（JDP）を基軸としたグローバルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により、地域に根ざした国際化を実現することを「岐阜大学のミッション・ビジョンと戦略」に掲げている。グローバル推進機構では、教員と事務職員が協働し、地域に根ざした国際化と成果の地域還元を推進するため、グローバル推進機構長のもとに、国際協働教育推進部門、地域国際化推進部門、留学推進部門、国際企画部門の4部門を設置し、全学的な組織として各部局との連携により岐阜大学のさらなる国際化を目指している。



グローバル推進機構ホームページ



THE 世界大学ランキング日本版掲載：冊子



YouTube チャンネル

各部門の活動報告

令和5年度国際協働教育推進部門活動報告

部門長 柳瀬 笑子
(応用生物科学部 教授)

1. 活動内容及び成果

国際協働教育推進部門では、グローバルな視点を持つ学生を育成するための国際協働教育の推進と、各部署が行うジョイント・ディグリー（以下、「JD」という。）専攻の運営に必要な側面支援をミッションとしており、教員・学生の相互派遣、合同シンポジウム、広報などを実施している。

令和5年度は、インド工科大学グワハティ校（以下、「IITG」という。）から修士課程5名及び博士課程3名並びにマレーシア国民大学（以下、「UKM」という。）から博士課程2名の合計10名のJD学生が来日した。岐阜大学（以下、「本学」という。）側からは、修士課程の日本人学生3名及び博士課程1名がIITGへ渡航した。また、今年度9月には本専攻博士課程の初めての修了生として、UKM側から入学した国際連携材料化学工学専攻のJD学生2名が学位を取得した。

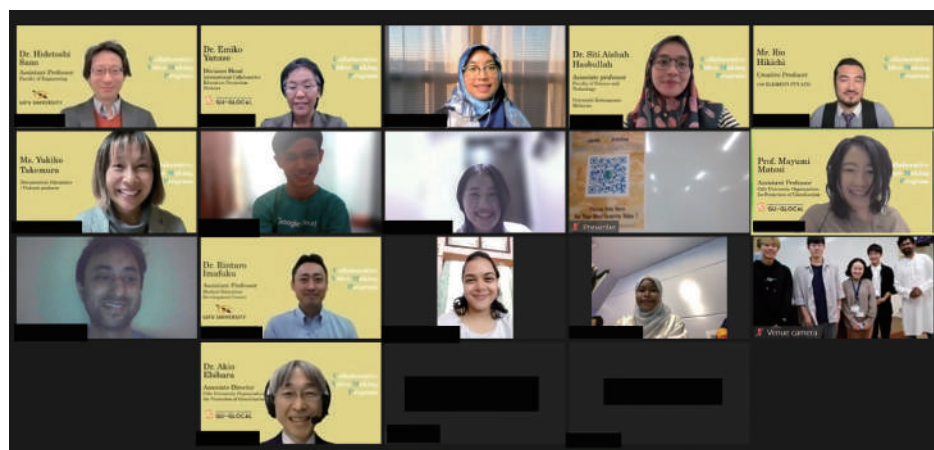
8月から3か月間にわたり、Collaborative Video Making Program (CVMP) を実施した。今年で4回目の開催となる本プログラムでは、本学6名、名古屋大学1名、IITG1名及びUKM4名が参加し、4グループに分かれて動画の共同制作を行った。岐阜大学祭の開催に合わせて11月5日に、制作した動画の発表の場としてFinal CompetitionがZoom Webinarを利用したハイブリッド開催で行われ、本プログラムの関係者及び視聴者合わせて約50名が参加した。特別審査員として、海老原章郎グローバル推進副機構長、Dr. Siddhartha Singha (IITG)、Dr. Siti Aishah Hasbullah (UKM) 及びドキュメンタリー映画製作者兼ポッドキャストプロデューサーである竹村由紀子氏が参加し、動画作品の講評を行った。

11月16日～11月17日に行われた岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023サテライトシンポジウムでは、その一部をGILP (Japan-India Educational Collaborated Certificate Programs) 主催セッションとして行い、博士課程学生3名が日頃の研究成果を発表した。

今年度のウインタースクールは、12月6日から約2週間、IITG6名及びUKM2名が参加して実施した。今年度は「日本の伝統を科学する」をテーマとし、日本文化体験や企業訪問、日本人学生との交流など多くの体験を行った。最終日には最終報告会として、本プログラムを通して学んだことを発表した。

2. 課題及び次年度の取組方針

CVMP やウインタースクール等、これまで当部門で継続的に実施しているプログラムについて、実施体制等を含めて見直すことで、より効果的な国際交流を推進する。



令和5年度地域国際化推進部門活動報告

部門長 海老原 章郎

(応用生物科学部 教授)

1. 活動内容及び成果

地域国際化推進部門が中心となって実施した活動を以下に挙げる。

(ア) グローカル化のための SDGs 勉強会

本勉強会は通年で6回程度の話題提供を行うウェビナーで、今年度で4回目を迎えた。東海国立大学機構の構成校である名古屋大学を含む学内外の専門家を講師として招き、バイオエコノミーへの転換や脱炭素化社会の実現に貢献する技術を中心に構成した。例えば、「農地の温暖化ガス問題とその対策とは?」(講師 名古屋大学生命農学研究科 村瀬 潤教授)、「海上輸送業者からみたバイオマス燃料の現状と、竹をはじめとした新燃料導入の課題」(講師 愛知海運株式会社 鈴木 英司氏)など、グローカル化におけるSDGsを支える基盤技術に関する理解を深めることができた。さらには、「食卓からひろがる多文化共生」(講師 株式会社フードピクト 菊池 信孝氏)を通して、今後予想される共生社会の実現に向けた取り組みについても認識を新たにした。

(イ) 岐阜ジョイント・ディグリー (以下、「JD」という。) シンポジウム (特に産官学金連携セッション)

本シンポジウムは、国内外の6大学から「食品科学」「防災」「エネルギー」関連分野の最先端の研究報告で構成される学術セッション「持続可能な地域開発:SDGsとその先に向けて」(11月16日～11月17日、ウェビナー、参加者92名)に続き、「地球課題を解決する人材育成を目指すジョイント・ディグリー ～教育研究の国際化と地方創生～」と題したメインシンポジウム(12月7日、ウェビナー)では、文部科学省高等教育局参事官(国際担当)小林 洋介氏からの基調講演、JD プログラム (以下、「JDP」という。) 修了生・現役生からのメッセージ動画の紹介に加え、文部科学省及び JDP 実施3大学による JDP の出口戦略に関する意見交換を行った(参加者75名)。12月8日には「産官学金連携セッション (岐阜大学シンポジウム)」をハイブリッド開催し、地球課題の解決を視野に入れ「脱炭素社会実現へのグローカルな取り組み」及び「インド竹資源の産業化取り組み状況」と題したパネルディスカッション(参加者128名)と、東海地域を中心とした企業・団体25社によるブース展示を実施した。

(ウ) インド・JD シンポジウム

2024年3月3日～2024年3月5日にはインド工科大学グワハティ校(以下、「IITG」という。)においてインド JD シンポジウム「JDP プラットフォーム (JDP 実施を通して構築された連携関係)に基づく産学連携を通じた日・北東インドのバイオエコノミー的技術協働」を共同開催した。吉田 和弘 岐阜大学学長並びに岡田 亜弥教授(名古屋大学大学院 国際開発研究科長)を含む本学からの出席者13名に加えて、日本大使館、JETRO、日本企業5社、インド企業・団体5つ及びインド教員・学生約70名が参加し、二国間の産学・産産連携を深めた。特に、岐阜 JDP コンソーシアムメンバーの竹資源利用技術に大きな注目が集まった。シンポジウム期間中、吉田学長・Rajeev Ahuja IITG 学長が会談し、情報学分野、医療科学分野などの連携と自治体間連携の橋渡しについて合意した。さらに、IITG の研究施設及び生物農薬を開発するインド企業を訪問し、北東インドにおける産学連携の状況を議論した。

(エ) 愛岐留学生就職促進コンソーシアム事業における岐阜県内ワークショップ

岐阜県、岐阜県経営者協会、JETRO 岐阜及び本学が共催する本ワークショップを10月25日に対面方式にて開催した。JETRO 本部職員及びグローカル推進機構 日本語・日本文化教育センターの松尾 憲暁助教を講師として、東海圏における高度外国人材の活用に向けた企業支援と留学生支援について理解を深めた。続く企業ブース展示(岐阜県の10社)では、留学生20名が参加し、就職マッチングを含めた留学生・日本企業間交流を行った。

2. 課題及び次年度の取組方針

令和6年度も上記(ア)～(エ)の活動を実施・連動させ、グローカルの視点から地球課題を解決する人材育成とグローカル産官学金連携の両面から地域国際化を推進する。

令和5年度留学推進部門活動報告

部門長 嶋 睦宏
(工学部 教授)

1. 活動内容及び成果

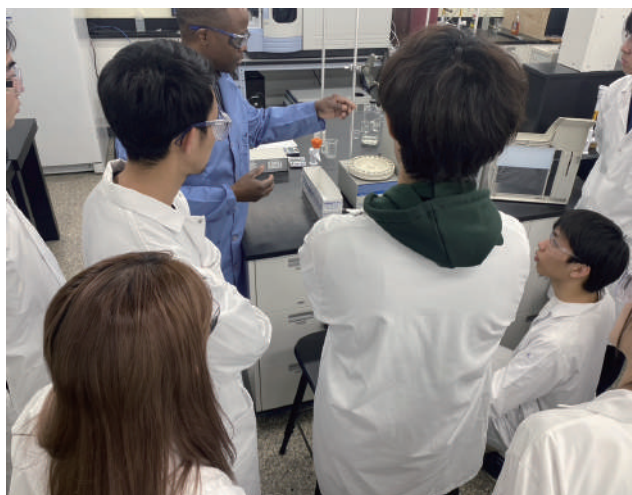
コロナ禍後の国際交流再活性化が進む中、令和5年度は留学推進部門における活動についても現地での対面形式によるプログラム実施を行った。具体的には、英語研修プログラムにおいては8月～9月に夏季アルバータ大学 ESL プログラム (Summer Alberta ESL) 及びグリフィス大学 ESL プログラム (Summer Griffith ESL) を、2024年2月～2024年3月に春季アルバータ大学 EST プログラム (Spring Alberta EST) を実施し、Summer Alberta ESL 10名、Summer Griffith ESL 37名及び Spring Alberta EST 3名の計50名が参加した。春季 EST プログラムでは、今年度初めて、愛媛大学等と連携して各大学で参加者募集や派遣を実施し、プログラム実施可能な参加数確保や渡航時におけるグループ対応、オンラインによる事前研修など、学生にとってさらに有益なプログラム提供が可能となったと考える。プログラム参加者は全員無事元気に帰国し、その多くからは貴重な学びと経験を得ることができたとの声が聞かれた。一方、春季アルバータ大学 EFN プログラム (Summer Alberta EFN) については、参加希望者が他大学も含めた最少催行人数に達せず実施されなかった。

岐阜大学サマースクール受入プログラムについても、ノーザンケンタッキー大学 (米国)、広西大学 (中国) 及びマレーシア国民大学 (マレーシア) から計7名の参加者があり、対面形式で岐阜大学にて実施した。また、同プログラムの宿舎として初めて岐阜大学指定寮 U・TOPIA LAND 別館を利用した。

本学に在学する外国人留学生の生活支援についても、特に国際交流会館などの住環境をはじめとする修学環境のさらなる整備などについて活発な意見交換を行った。また、「危機管理基本マニュアル (学生関係) 海外渡航編」や「留学ガイドブック」の更新についても、部門活動の一環として着実に貢献した。

2. 課題及び次年度の取組方針

課題として、コロナ禍前の交流レベル以上を今後も達成すべく、協定大学との連携を更に強化し、次年度も引き続き派遣と受入の両プログラムの更なる充実を図り、実質的な人的交流を進めたい。具体的には、より多様性が尊重される国際社会へ向けて次世代の人材育成が大学においても重要な使命となる中、国際語としての英語の語学学習にとどまらず、広く異文化への理解にも重点を置いたプログラムの提供へ向けてさらに努めたい。また外国人留学生の生活支援やプログラム改善についても、更なる環境整備に努める。



令和5年度国際企画部門活動報告

部門長 小林 恵子
(グローバル推進機構国際企画調整役)

1. 活動内容及び成果

本部門は、学術交流・協定支援、国際交流に関する IR、国際広報及びキャンパスの国際化支援を担当した。令和5年度は、10名の教員と5名の事務職員から構成され、部門長は事務職員である国際企画調整役、副部門長は松井 真弓助教、部門員には担当事項（年報、学術交流・協定、IR、広報誌、HP 及びキャンパス国際化）を決めて対応願うこととした。基本的には部門長、副部門長、国際総務室及び留学支援室で構成する部門 WG（月1回開催）を中心に活動し、必要に応じて国際企画部門会議等により担当部門員や全部門員への意見照会を行った。

部門 WG で1年間定型的に取り上げた事項は、①学術交流・協定支援、②国際交流に関する IR（国際交流年報を含む）、③国際広報（ホームページ、NEWS LETTER、チラシ）、④卒業した留学生のネットワークづくり、⑤キャンパスの国際化支援（事務職員の英語力強化を含む）、⑥国際月間及び⑦年度計画への対応である。

①については、毎月、学術交流協定の更新状況を確認し、協定大学の担当者と連絡を取りながら、協定書の更新作業を行った。②については、国際交流年報及び国際 IR データブックを刊行し、継続的なデータ収集とその活用を行った。③については、NEWS LETTER の発行、ウィンタースクール報告書の作成、インド工科大学グワハティ校（IITG）及びインド工科大学ハイデラバード校（IITH）で行われた日本留学フェアにおいて岐阜市を PR することを目的にチラシを作成した。④については、NEWS LETTER のデータを卒業生に送付したほか、本学卒業生が事務局を務める上海事務所による広報活動等への支援を行った。また、8月には、インドネシア同窓会の事務局長及び同窓生がグローバル推進機構を訪問し、小山 博之 グローバル推進機構長及び関係職員と今後の活動や交流についての意見交換などを行った。⑤については、40歳未満の全事務職員を対象に TOEIC Listening & Reading Test をオンラインテストで実施した。また、協定大学であるアルバータ大学によるオンライン英会話研修を実施した。本学の職員とともに名古屋大学の職員も参加し、東海国立大学機構の職員間の交流も行われた。⑥については、脳科学者の茂木 健一郎 氏、経営者の塩野 誠 氏及び吉田 和弘 岐阜大学学長による特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのかー ChatGPT 時代を生き残れ！国際化に必要な能力は本当に英語なのか？ー」並びに生協による世界の料理フェア、ランチキッチンカーによる国際料理フェア、岐阜モスク見学会、インドネシアの文化を知ろうー民族楽器「アンクルン」の演奏ー、岐阜地区ワークショップ及びペタンク体験&大学対抗ペタンク大会を実施した。国際月間という形式は今年度を最後とし、次年度以降はイベントを1か月に集中させずに年間を通じて効果的なタイミングで実施することとした。

2. 課題及び次年度の取組方針

国際企画部門では、次年度は教育未来創造会議第二次提言「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ〈J-MIRAI〉」に掲げられた目標の実現に向け貢献していきたい。具体的には、グローバル推進機構の取組が学内のみならず、地域社会・自治体・産業に多様な波及効果（ソーシャルインパクト）を構築することを目指し、文化交流イベントの開催、学術交流協定大学との連携強化、海外からの訪問者への機能的な対応、教職員研修プログラムの実施と受講推進及び留学生ネットワークの構築などを検討していきたい。

学内の国際化をサポートする体制

【日本語・日本文化教育体制】（日本語・日本文化教育センター）

岐阜大学（以下、「本学」という。）における日本語・日本文化教育は日本語・日本文化教育センター（以下、「日文センター」という。）が担っている。日文センターでは、対象学生によって異なる様々なコースやプログラムを提供している（日文センターの活動等については、センターのホームページを参照ください）。



（１）日本語研修コース

本学に在籍する大学院生、研究生及び交換留学生を対象とした１学期間のコースで、前期・後期に開講される。１週間の授業数が異なる「集中コース」と「一般コース」がある。前者は、集中的に日本語を学び、日本語の習得・向上を目指す（週10～11コマ必修）。後者は、専門の研究が中心であるため、まとまった日本語学習の時間が取れない学生向けの、授業数を選択できるコースとなっている（週1～10コマ選択）。集中コースは初級（A）、初中級（B）及び中級（C）の３レベルのクラス並びに一般コースは初級前半（A1）、初級後半（A2）、初中級（B）、中級（C）及び中上級（D）の５レベルのクラスに分かれている。学期が始まる前に学内公募が行われ、指導教員の申請によってコースが決定し、プレイスメントテストの結果によって当人のレベルにあったクラスが決まる。

（２）日本語・日本文化研修コース

自国の大学で日本語・日本文化を専攻する文部科学省奨学金留学生と交換留学生を対象とした、毎年10月に始まる約１年間のコースである。日本語授業や全学対象の授業を受けることにより日本語能力を向上させ、日文センターより提供される多彩な文化科目の受講、地域への見学旅行等により、日本文化・社会について深い見識を養うことができる。コースの終わりには、担当教員の指導のもと、日本語・日本文化に関わる修了論文を完成させ、研究発表を行う。

（３）日本社会文化プログラム

日文センターに所属する交流協定大学の交換留学生（日本語・日本文化学習を希望する日本語初級～中級レベルの学生）を対象としたプログラムである。「異文化理解」と「日本文化理解」の二つのステップで、日本の社会や文化に関する知識を身につけることを目的に、半年ないしは１年間の研修期間で実施する。日本語を学ぶだけでなく、日本文化の授業や、能楽や十二単などを実際に体験する「日本文化ワークショップ」にも参加し、日本文化を実践的に学ぶ。

（４）全学共通教育（日本語・日本事情クラス、人文科学科目）

各学部 に在籍する留学生と交換留学生を対象とした、上級レベルの日本語と日本事情に関する科目（３科目）を開講している。また、人文科学科目（５科目）も開講しており、その中には留学生と日本人学生の合同授業もある。

（５）交流ラウンジ

授業以外での日本語・日本文化教育の場として、日文センター内には「交流ラウンジ」が設置されている。外国人留学生と日本人学生との交流、日本人学生チューター（ラウンジチューター）による勉学・生活支援及びパソコンの利用等、多様な活動ができ、留学生と日本人学生双方にとって有意義な場所となっている。また、ラウンジチューターが中心となって、夏は七夕まつり、冬はお正月イベントを開催するなど、学生主体の日本文化学習の場所にもなっている。

【保健管理体制】（保健管理センター）

保健管理センターでは、日常業務の中で特に本学の外国人留学生及び研究者並びに海外へ渡航する学生及び教職員の保健管理支援に注力している。

（１）外国人留学生・研究者に向けた英語での情報提供（保健管理センターニュース等による）をホームページなどで公開すると同時に、タイムリーな情報は適宜メールで配信している。

救命救急（AED）の案内

Health Administration Center News
No.156
2024/02/7

It has been installed AED 23 locations on campus!

AED MAP

23 locations are marked on the map, including:

- Health Administration Center, Main Entrance
- Faculty of Education, Health and Physical Education Building, 4th Floor
- Medical Course Building 2nd Floor, School of Medicine
- Faculty of Engineering, Main Entrance
- Faculty of Engineering, General Research Building 1, 1st Floor
- Faculty of Applied Biological Sciences, Main Entrance
- Health Administration Center, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance
- Center for General Education, Main Entrance

センターの利用案内（英語版）

Health Administration Center, Gifu University

For Faculty and Staff

The Health Administration Center provides health management services for the faculty and staff.

Occupational Health (The Industrial Safety and Health Act)

Occupational physicians and health nurses will assist with health checkups on the basis of their annual health checkup results. Please understand the importance of this health management activity by the Health Administration Center.

First Aid for Injuries or Illness at Work

In the event of a sudden illness or injury at work, please contact the Health Administration Center and provide first aid and refer them to an appropriate medical institution.

Health Consultations

The industrial physicians provide work-related health consultations and address your health problems. We will provide information about medical institutions and prepare a referral form. To ensure enough time for consultation, please make an appointment before coming.

Reservation and Questions

Tel: (+81) 56-265-2174, 2172 (Shen S. Ogino)
Fax: (+81) 56-265-2177
E-mail: healthcenter@gifu-u.ac.jp

保健管理センターニュース英語版

《令和5年度発行実績》

No.	発行日	タイトル
-	2023.4.7.	YOGA class in April
153	2023.4.12.	Notification of Special Health Checkup in 2023
154	2023.4.25.	Wearing a mask on Campus after April 1st, 2023
-	2023.5.2.	YOGA class in May
155	2023.5.2.	About Infectious disease reporting format
157	2023.5.24.	Measles and Rubella
-	2023.6.2.	YOGA class in June
-	2023.7.5.	YOGA class in July
160	2023.7.26.	Headache
-	2023.7.26.	YOGA class in August
161	2023.7.31.	Let's prevent COVID-19 during summer vacation
162	2023.7.31.	Preparing for Study Abroad/Overseas Travel
-	2023.8.29.	YOGA class in September
-	2023.9.28.	YOGA class in October
163	2023.10.6.	Notification of Special Health Checkup in 2023
-	2023.10.30.	YOGA class in November
-	2023.12.5.	YOGA class in December
-	2023.12.15.	YOGA class in January
-	2023.12.18.	Nutrition advice service is available for new 2nd year students in annual health checkup
-	2023.12.18.	Information of annual checkup 2024
-	2023.12.25.	Annual Health Check Map
-	2024.2.1.	YOGA class in February
-	2024.3.18.	YOGA class in March
164	2024.3.18.	To all new students
165	2024.3.19.	Free HPV Vaccination for Cervical Cancer
166	2024.3.27.	It has been installed AED 23 locations on campus!

Health Administration Center News
No.155
2023/4

When you have an infectious disease, inform to Gifu University

If you have an infectious disease, inform it to the Health Administration Center through the following URL. It is mandatory based on the School Health and Safety Act in Japan.

<https://forms.office.com/r/qvMc5WKK7D>

List of infectious diseases which you have to inform.
URL: <http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/pdf/202304210641.pdf>

Students should inform also the Academic Affairs of their department. Since appropriate accommodation should be provided for sick leave, don't visit the university while you have symptoms to avoid spreading the infection.

The health behavior for the coronavirus infection after May 6, 2023.

If you are infected, until 5 days have passed since the onset and 1 day has passed since the symptoms improved.

Infected people may have enough volume of virus to transmit others from 2 days before the onset to 10 days after the onset, careful behavior is recommended including wearing a mask during this period.

Close contact person will not be picked up. However, those who had contacted with an infected person should be careful not to spread the infection.

If you are infected, please report it to the university.

Health Administration Center News
No.161
2023/7

Let's prevent COVID-19 during summer vacation

During summer vacation, the opportunities to come in contact with people increase resulting from activities such as traveling, returning home, and participating in events. Therefore, your chances of contracting COVID-19 also increase. Since May, the number of infected people has been increasing.

To prevent the spread of infection

- Wash your hands using soap, gargle with fluids, wear a mask, and ensure good ventilation.
- Get vaccinated (Consider booster vaccination, especially for those who have received less than 3 doses).
- Wear a mask when you come in contact with the elderly at nursing home or patients at hospitals, or while using public transportation.
- If you feel sick, stay at home, visit medical institutions, and have a good rest. Prepare antipyretics and food for about 3 days.

The incidence of some infectious diseases such as pharyngoconjunctival fever and food poisoning increases during summer. Understand the nature of the pathogens and take preventive measures. Enjoy your summer vacation!



(2) 外国人留学生・研究者来日時の健康診断（胸部 X 線、感染症抗体検査含む）受診の徹底

外国人留学生・研究者には、来日後速やかに、本学新入生と同じ質の高い健康診断とその結果に基づく健康管理指導を提供している。特に、全員に麻疹、風疹、流行性耳下腺炎及び水痘の抗体検査を実施し、抵抗力（抗体価）が不十分な者には追加予防接種を積極的に勧奨している。結核蔓延国から来日する者もいるので、来日直後の胸部 X 線写真撮影は義務づけるとともに、所見があれば速やかに精密検査の手配を支援している。生来初めて健康診断を受けるという留学生も少なくないので、目的や結果について英語で丁寧に説明している。

(3) 「Health Management on Campus」の提供

外国人留学生・研究者全員に英語の健康啓発本を来日直後に無料で提供し、自己健康管理、健康意識の向上につなげている。外国人留学生に対しては同伴家族の案件も含め幅広い健康相談に対応している。

(4) 海外渡航に向けた「健康の手引き」を用いた渡航時の健康管理指導

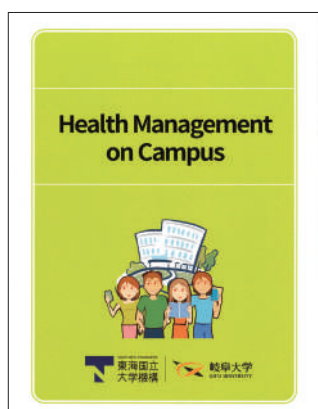
海外へ渡航する学生及び教職員に向けて、海外渡航時に健康面で注意すべき事項をわかりやすくまとめたパンフレットを提供し、予防接種準備を含め渡航先に応じた健康管理について個別に面談指導している。

（健康の手引き 2021年 4 月 第四版： <http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/img/tebiki.pdf>）



(5) 外国人受け入れ教職員向け冊子「International Students(海外からの留学生)への健康管理の手引き」の提供(2020年 9 月 第一版: http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/img/tebiki_ryugakusei.pdf)

教職員の資質向上のために、留学生の健康管理支援に必要な知識とスキル情報について詳述された冊子をホームページで公開すると同時に、適宜、学内教職員に提供し、留学生支援環境向上に役立てている。



2. 海外大学・機関等との学術・学生交流協定

岐阜大学では、組織的・計画的な研究者・学生の交流及び教育研究に関する情報交換等を推進するため、積極的に大学間学術交流協定を締結している。2024年3月31日現在、19ヵ国49大学との大学間学術交流協定を締結しているほか、各部局においても様々な学術交流協定を締結している。

一覧はⅣ. 資料に掲載し、本年度に新規締結した協定大学等の詳細を以下に記載する。

本年度に新規締結した協定大学等

大学間

令和5年度に学術交流協定の更新を完了した大学

	協定大学名	国・地域	最新発効日	有効期間
1	サンディエゴ州立大学	アメリカ	2022年9月1日	5年
2	ユタ州立大学	アメリカ	2023年4月17日	5年
3	広西大学	中国	2023年7月1日	5年
4	ハノイ工科大学	ベトナム	2023年7月1日	5年
5	スブラスマレット大学	インドネシア	2023年7月8日	5年
6	バイロイト大学	ドイツ	2023年7月12日	5年
7	マリアノ・マルコス州立大学	フィリピン	2023年9月10日	5年
8	江南大学	中国	2023年9月28日	5年
9	カセサート大学	タイ	2023年9月30日	5年
10	サラマンカ大学	スペイン	2023年10月11日	4年
11	フエ大学	ベトナム	2023年11月12日	5年
12	アッサム大学	インド	2023年11月20日	5年

部局間

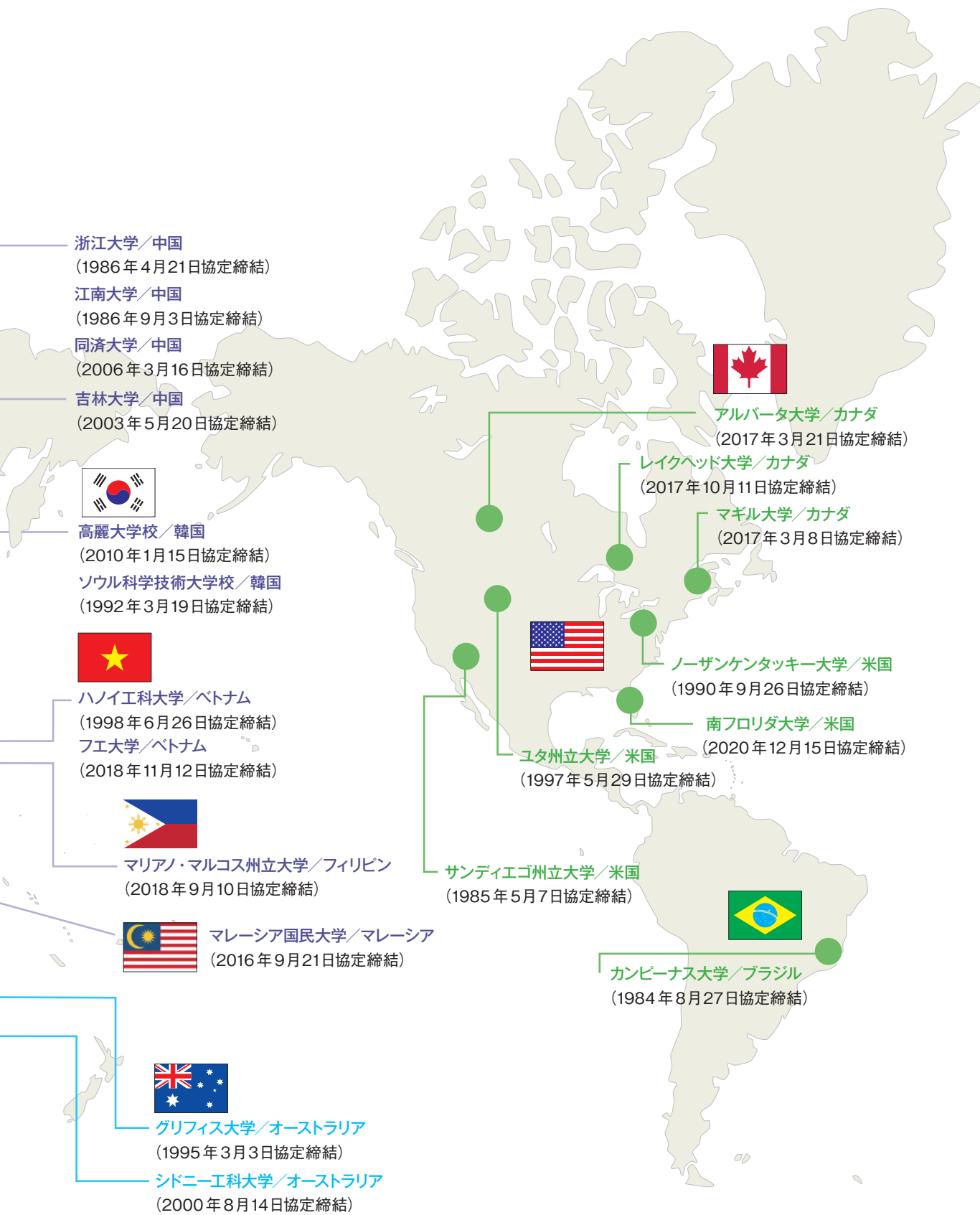
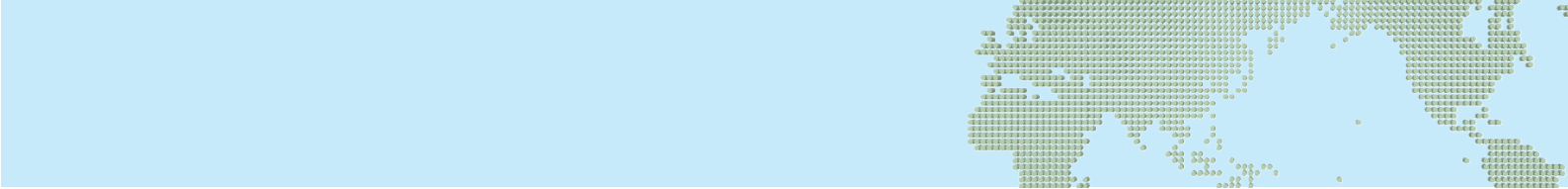
令和5年度に新規に締結した学術交流協定大学等

部局	締結先	国・地域	締結日
工学部	ジョモケニヤッタ農工大学	ケニア	2023.8.1
連合農学研究科	キングモンクット工科大学ラカバン校 産業教育学部	タイ	2023.8.9

I

大学間学術交流協定締結大学・機関マップ (2024年3月31日現在 19ヵ国49大学)





部局間学術交流協定締結大学・機関マップ (2024年3月31日現在 26ヵ国1地域63学部)



表示アイコン	協定部局	表示アイコン	協定部局
	教育学部		連合創薬医療情報研究科
	地域科学部		流域圏科学研究センター
	医学部		保健管理センター
	工学部		インフラマネジメント技術研究センター
	応用生物科学部		複合材料研究センター
	連合農学研究科		地域連携スマート金型技術研究センター
	連合獣医学研究科		科学研究基盤センター
	共同獣医学研究科		地方創生エネルギーシステム研究センター



 山西師範大学／中国
 浙江大学 医学院／中国
 南京師範大学 エネルギー機械工学院／中国
 中国科学院水利部 水土保持研究所／中国
 中国水利水电科学研究院 岩土工程研究所／中国



 忠北大学校 医学部／韓国
 全南大学校 工学部／韓国
 慶北大学校 工学部／韓国
 忠南大学校 工学部／韓国
 柳韓大学校 工学系列／韓国
 国立獣医科学検疫院 獣医科学研究所／韓国
 ソウル大学校 医科大学／韓国



 台湾国立高雄科技大学 先端金型研究開発センター／台湾
 長庚大学 工学部／台湾
 国立中央大学 文学院／台湾



 シカゴ大学 医学部／米国
 アメリカ国立衛生研究所
 国立心肺血液研究所／米国
 アーカンソー大学
 フォートスミス校／米国

 ハワイ大学 医学部／米国

 南フロリダ大学 医学学群／米国



 チュイロイ大学／ベトナム
 基盤 タイビン医科薬科大学 医・薬科学技術センター／ベトナム



 南太平洋大学 自然科学・工学・環境学群／フィジー



 ブルネイ・ダルサラーム大学 理学部／ブルネイ・ダルサラーム



 東ティモール国立大学 工学部／東ティモール

外国人留学生在籍数

5月1日現在の岐阜大学の外国人留学生在籍者数は294名（総学生数7,464名の3.94%）で、前年5月1日現在の292名と比べ2名（1.01%）増加した。

出身国別に見た場合、上位3カ国は1位中国115名（39%、前年度+3名）、2位インドネシア43名（15%、前年度+1名）、3位ベトナム21名（7%、前年度-1名）であった。地域別に見た場合、89.8%がアジアからの学生であり、次いでアフリカ（5.5%）、ヨーロッパ（3.1%）、という内訳となっている。

学部・研究科別内訳

2023年5月1日現在

	学部		修士 専門職学位		博士		日研究生	その他	合 計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規			
教育学部／教育学研究科（専門職学位・修士）	0	3	0	6					9
地域科学部／地域科学研究科（修士）	10	7	20	1					38
医学部（医学科・看護学科）／医学系研究科（修士／博士）	7	0	0	0	6	0			13
工学部／工学研究科（博士）	19	5			60	0			84
応用生物科学部	7	1							8
社会システム経営学環	0	3							3
自然科学技術研究科（修士）			63	2					65
共同獣医学研究科（博士）					4	0			4
連合農学研究科（博士）					56	1			57
連合獣医学研究科（博士）					0	0			0
連合創薬医療情報研究科（博士）					3	0			3
流域圏科学研究センター								3	3
日本語・日本文化教育センター							5	2	7
合 計	43	19	83	9	129	1	5	5	294

その他は、学部・研究科以外所属の非正規生（日研究生除く）

連合大学院別内訳

研究科	正規		非正規	
	学生数	内配置大学が 岐阜大学	学生数	内配置大学が 岐阜大学
共同獣医学研究科（博士）	4	4	0	0
連合農学研究科（博士）	56	43	1	1
連合獣医学研究科（博士）	0	0	0	0
連合創薬医療情報研究科（博士）	3	3	0	0
合 計	63	50	1	1

岐阜大学学生の海外派遣実績

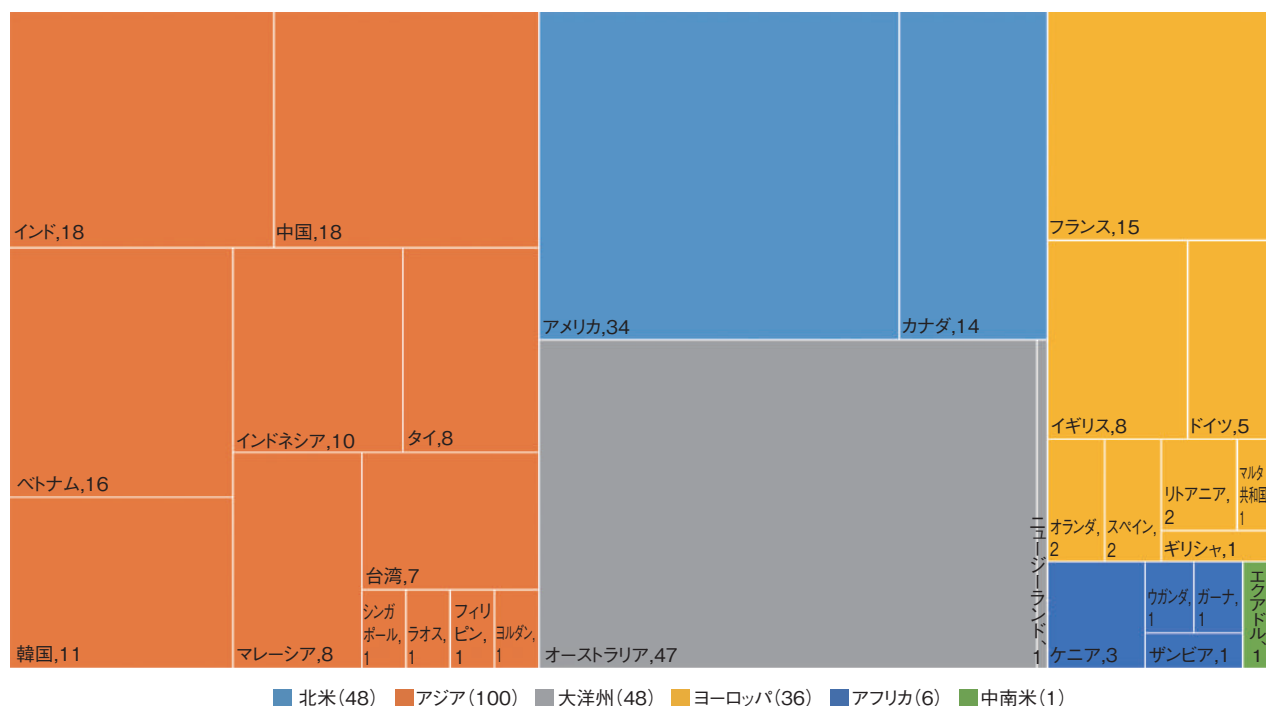
岐阜大学学生の大学を通じた海外渡航実績は以下のとおりである。なお、岐阜大学基金等の海外渡航における助成金においては、私事渡航に対しても申請があり採択された場合、支援を行っている。

表1 岐阜大学学生の海外渡航者数（プログラム別・延べ数）

種別			渡航者数
全学	大学間学術交流協定に基づく交換留学		7
	岐阜大学春季派遣プログラム	春季アルバータ大学 EST プログラム	3
		春季アルバータ大学 EFN プログラム *	0
	岐阜大学サマースクールプログラム	夏季アルバータ大学 ESL プログラム	10
		夏季グリフィス大学 ESL プログラム	35
		夏季アルバータ大学 EST プログラム *	0
		夏季アルバータ大学 EFN プログラム *	0
	岐阜大学スプリングスクールプログラム	インド工科大学グワハティ大学との交流プログラム	10
	世界展開力強化事業	グローバルエキスパートプログラム (サンドイッチ・プログラム)	2
岐阜大学次世代地域リーダー育成 プログラム・グローバルリーダーコース	フエ大学学生交流プログラム	10	
部局	教育学部・教育学研究科	総合文化海外実習	8
		短期留学・研修	2
	地域科学部	部局間学術交流協定に基づく交換留学	0
	医学部	海外臨床実習	15
		看護学科主催短期派遣プログラム	8
	工学部・自然科学技術研究科・ 工学研究科	【工学部・自然科学技術研究科】 工学系協定校学生交換留学プログラム	6
		【自然科学技術研究科 / 工学研究科】 グローバルリーダー養成のためのインストラクショ ナル・インターンシッププログラム	3
		【自然科学技術研究科 / 工学研究科】 国際学会発表奨学金プログラム	21
		【工学研究科】 ジョイント・ディグリープログラム	0
	応用生物科学部・自然科学技術 研究科	【応用生物科学部】 国際獣医学インターンシップ演習	4
		【自然科学技術研究科】 ジョイント・ディグリープログラム	3
	連合農学研究科	ジョイント・ディグリープログラム	1
その他	トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム		2
	バロー・V ドラッグ		2
	研究留学		35
	学会		19
	調査		16
その 他	個人留学		7
	研修		1
	インターンシップ		4
	名古屋大学主催短期派遣プログラム		5
合計			239

* 令和5年度は参加希望者が他大学も含めた最少催行人数に達せず実施されなかった。

図1 本学学生の海外渡航先（延べ数）



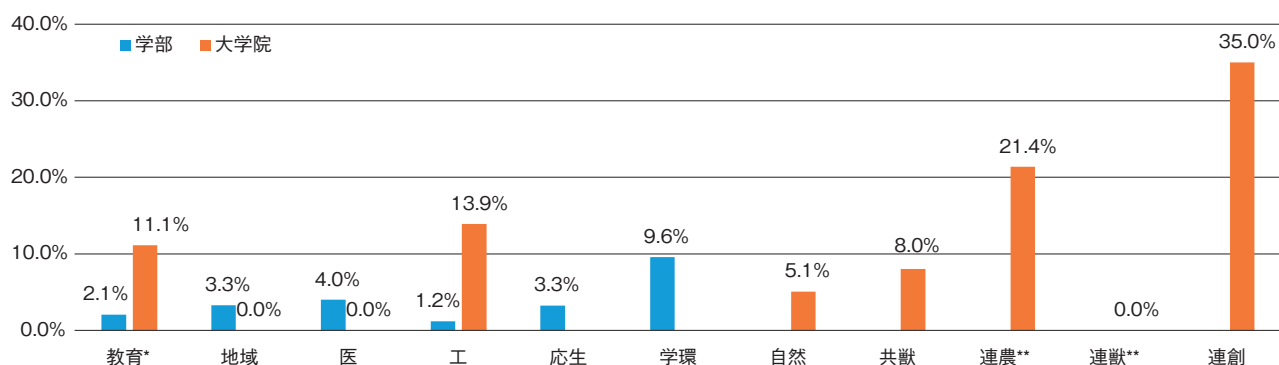
本学学生の渡航先地域（図1）としては、昨年度に比べ北米が18名、アジアが66名、太平洋州が10名、ヨーロッパが20名、アフリカが3名、中南米が1名増加と全エリアで渡航者が増加した。昨年度は太平洋州が最大の渡航先エリアであったが、今年度はアジアが最大の渡航エリアとなった。2019年より、インド工科大学グワハティ校とのジョイントディグリー・プログラムが開設され、また2022年より、令和4年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に採択れたため、インドへの渡航者数が年々増加している。また、アジアの渡航先としてフィリピン、ヨルダンが、太平洋州の渡航先としてニュージーランドが、ヨーロッパの渡航先としてギリシャが、アフリカの渡航先としてザンビアが、中南米の渡航先としてエクアドルが新たに加わった。

表2 本学学生の海外渡航者数（部局別・延べ数）

部局	学部生数	大学院生数	全学部生数	全大学院生数
教育学部 / 教育学研究科（専門職学位・修士）	20	2	970（－31）	85（＋21）
地域科学部 / 地域科学研究科（修士）	15	0	456（－2）	33（－2）
医学部（医学科・看護学科）/ 医学系研究科（修士・博士）	39	0	975（±0）	257（＋23）
工学部 / 工学研究科（博士）	26	16	2233（－17）	115（＋5）
応用生物科学部	29	－	891（－5）	－
社会システム経営学環	9	－	94（＋30）	－
自然科学技術研究科（修士）	－	49	－	967（＋41）
共同獣医学科（博士）	－	2	－	25（＋4）
連合農学研究科（博士）	－	25	－	117（＋12）
連合獣医学研究科（博士）	－	0	－	5（－5）
連合創薬医療情報研究科（博士）	－	7	－	20（＋2）

全学部生数・全大学院生数は2023年岐阜大学概要の数値を使用
（ ）内は前年度からの増減を示す

図2 本学学生の海外渡航率（部局別）



全学部生数・全大学院生数は2023年岐阜大学概要の数値を使用

* 教育は大学院学生数から専門職学位課程を除いた数を使用

** 連農及び連獣は全配置大学の学生をカウント

今年度の本学学生の海外渡航率（図2）においては、昨年度より教育学部が1.3%、地域科学部が0.9%、医学部が4.9%、工学部が1.4%、応用生物科学部が1.1%、工学研究科が3.8%、自然科学研究科が2.2%、連合農学研究科が4%増加した。また、昨年度渡航実績が0人であった、社会システム経営学環、教育学研究科、共同獣医研究科、連合創薬研究科については、今年度は渡航実績ができた。

全体的に渡航者数が増えおり、コロナ化以前の渡航者数に戻りつつある。



トビタテ！留学JAPAN とは？

文部科学省は、意欲と能力のある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成することを目的として、平成25年10月より留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」を開始しました。本学の学生も数多く、この制度を利用し、世界に旅立っています。

本学の採用実績は次のとおりです。

平成26年度	2014年 9 月－2015年 3 月	メルボルン大学	オーストラリア
	2014年12月－2015年 9 月	メルボルン大学	オーストラリア
	2014年 9 月－2015年 9 月	ランガラカレッジ	カナダ
平成27年度	2015年 9 月－2016年 3 月	ベルリン自由大学	ドイツ
平成28年度	2016年10月－2017年 9 月	ワーゲニンゲン大学、 ルーヴァンカトリック大学	オランダ、ベルギー
	2016年10月－2017年 9 月	テュレーン大学	アメリカ
	2016年10月－2017年 9 月	国立衛生研究所	アメリカ
	2016年10月－2017年 3 月	シンガポール国立大学	シンガポール
平成29年度	2017年 9 月－2018年 8 月	アルバータ大学	カナダ
	2017年11月－2018年 9 月	デュボン小児病院	アメリカ
平成30年度	2018年 4 月－2018年 6 月	シドニー大学	オーストラリア
	2018年 9 月－2018年10月	ミネソタ大学ツインシティー校	アメリカ
	2018年 9 月－2019年 6 月	イエナプラン教育協会、 ヨーク大学附属語学学校、 Eric Hamber Secondary School	オランダ、カナダ
	2018年 9 月－2019年 9 月	スイス連邦工科大学ローザンヌ校	スイス
	2018年10月－2019年 9 月	国立衛生研究所	アメリカ
令和元年度	2019年 9 月－2020年 3 月	スウェーデン王立工科大学	スウェーデン
令和 2 年度	2022年 1 月－2022年12月	農場フィールドワーク、 ヘルシンキ大学等	フィンランド、フランス、 イギリス、スペイン
	2022年 2 月－2023年 2 月	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア
	2022年 4 月－2023年 3 月	ザンビア大学	ザンビア
	2022年 1 月－2023年 1 月	アイオワ州立大学	アメリカ
	新型コロナウイルス感染症の影響により採用辞退	国立衛生研究所	アメリカ
	新型コロナウイルス感染症の影響により採用辞退	国立神経学脳神経外科学病院	イギリス
令和 3 年度	2022年 3 月－2023年 3 月	スイス連邦工科大学ローザンヌ校	スイス
	新型コロナウイルス感染症の影響により採用辞退	バイトダンス	シンガポール
令和 5 年度	2024年 1 月－2024年 4 月	オックスフォード大学、 南フロリダ大学	イギリス、アメリカ



岐阜大学教職員派遣実績（令和5年度海外渡航者数調べ（延べ人数））

部局名	出張	研修	合計
教育学部・教育学研究科	34（2）	1（0）	35（2）
地域科学部・地域科学研究科	10（2）	1（0）	11（2）
医学部・医学系研究科	49（10）	1（0）	50（10）
医学部附属病院	46（5）	8（0）	54（5）
工学部・工学研究科	116（34）	2（0）	118（34）
応用生物科学部	41（12）	6（0）	47（12）
社会システム経営学環	6（4）	0（0）	6（4）
自然科学技術研究科	0（0）	0（0）	0（0）
共同獣医学研究科	0（0）	0（0）	0（0）
連合農学研究科	4（4）	0（0）	4（4）
連合獣医学研究科	0（3）	0（0）	0（3）
連合創薬医療情報研究科	9（0）	0（0）	9（0）
学術研究・産学官連携統括本部	1（0）	0（0）	1（0）
高等研究院	2（0）	0（0）	2（0）
糖鎖生命コア研究所	17（5）	0（0）	17（5）
流域圏科学研究センター	23（4）	0（0）	23（4）
地域協学センター	2（1）	0（0）	2（1）
教育推進・学生支援機構	4（1）	0（0）	4（1）
保健管理センター	2（2）	0（0）	2（2）
岐阜大学運営局	0（0）	0（0）	0（0）
グローバル推進機構*	11（11）	1（0）	12（11）
合計	377（100）	20（0）	397（100）

うち（ ）内は協定大学

* 令和5年度は、大学間協定大学であるアルバータ大学(カナダ)のオンライン研修を事務職員向けに開催し12名(岐阜大学から9名、名古屋大学から3名)が参加した。

外国人研究者・来訪者受入実績（令和5年度外国人研究者・来訪者受入数調べ（延べ人数））

部局名	研究者	来訪者	国（研究者）	国（来訪者）	合計
教育学部・教育学研究科	0（0）	0（0）			0（0）
地域科学部・地域科学研究科	0（0）	0（0）			0（0）
医学部・医学系研究科	0（0）	1（1）		アメリカ	1（1）
医学部附属病院	0（0）	15（0）		韓国	15（0）
工学部・工学研究科	1（0）	6（6）	中国	マレーシア、韓国、タイ	7（6）
応用生物科学部	0（0）	4（4）		ベトナム、バングラディシュ	4（4）
社会システム経営学環	0（0）	0（0）			0（0）
自然科学技術研究科	0（0）	0（0）			0（0）
共同獣医学研究科	0（0）	0（0）			0（0）
連合農学研究科	3（3）	18（18）	タイ、バングラディシュ	マレーシア、インドネシア、タイ、インド、バングラディシュ	21（21）
連合獣医学研究科	0（0）	0（0）			0（0）
連合創薬医療情報研究科	4（4）	0（0）	フィリピン	フィリピン	4（4）
学術研究・産学官連携統括本部	0（0）	0（0）			0（0）
高等研究院	0（0）	21（0）		マレーシア	21（0）
糖鎖生命コア研究所	0（0）	4（2）		フランス、イタリア、アメリカ	4（2）
流域圏科学研究センター	2（0）	1（1）	中国	インドネシア	3（1）
地域協学センター	0（0）	0（0）			0（0）
教育推進・学生支援機構	0（0）	0（0）			0（0）
保健管理センター	0（0）	0（0）			0（0）
岐阜大学運営局	0（0）	0（0）			0（0）
グローバル推進機構	0（0）	27（27）		インド、タイ、マレーシア、アメリカ、フィリピン	27（27）
合計	10（7）	97（59）			107（66）

うち（ ）内は大学間・部局間学術交流協定大学

国際協力活動（JICA 事業）

岐阜大学の理念である「学び、究め、貢献する」に基づき、グローバルな視点においても社会貢献、また、有為な人材育成を行うため、積極的な国際協力活動を行っている。これまで本学が行ってきた国際協力機構（以下、「JICA」という。）による専門家派遣、外国人研修員受入れ及び学位課程就学者受入れ等について、今後も引き続き協力を行うと同時に、海外の大学及び関係機関等と国際的なネットワークを構築し、教育研究の国際化を図ることで、世界に開かれた大学を目指す。

本年度に実施された国際開発協力一覧（JICA 事業）

種別	部局	国名	プロジェクト名	人数	協力期間
学位課程就学者受入	工学研究科	チリ	道路アセットマネジメントコース	1名	2023.4.1-2026.3.31
		東ティモール	科学技術イノベーション人材育成	1名	2020.10.1-2024.3.31
	自然科学技術研究科	東ティモール	科学技術イノベーション人材育成	1名	2022.4.1-2024.3.31
		ガーナ	ABE イニシアティブ	1名	2022.10.1-2024.9.30
		ザンビア	道路アセットマネジメントコース	1名	2023.4.1-2025.3.31
		フィリピン	道路アセットマネジメントコース	1名	2023.4.1-2025.3.31
受託研修員受入	工学部	東ティモール	東ティモール国立大学工学系大学院設立能力強化 電気・電子工学	1名	2023.11.7-2023.12.15
			東ティモール国立大学工学系大学院設立能力強化 機械工学	3名	2023.11.7-2023.12.15
専門家派遣	工学部	東ティモール	東ティモール国東ティモール国立大学工学系大学院設立支援アドバイザー運営指導調査	3名	2024.2.23-2024.3.3
				1名	2024.3.16-2024.3.24

JICA 東ティモール事業

『東ティモールでは1999年8月の独立を問う直接投票後の混乱により、多くの住民が避難を余儀なくされ、教育機関を含む物的インフラの7割以上が破壊・使用不可能となるなど甚大な被害を被った。東ティモール暫定行政統治機構（UNTAET/ETTA）は2000年11月に東ティモール大学を開校。国造りを担うべき技術系人材の育成の観点から、インドネシア時代の旧東ティモール・ポリテクニクを母体として工学部に電気／電子工学科、機械工学科、土木工学科を設置したが、東ティモールでは高等技術教育体制の整備・運営に係る経験・知識が不足しており、日本に支援を要請してきた。

日本としては、東ティモールの支援要請に応え、2001年より東ティモール大学工学部各学科のカリキュラムの策定、緊急無償資金協力による施設復旧・機材供与、電気・電子工学科に対して実習指導の専門家派遣を行ってきたところである。』¹⁾

本学は2003年から JICA 東ティモール事業「JICA 東ティモール大学工学部支援プロジェクト」、さらに2011年からは「東ティモール国立大学工学部支援プロジェクト」²⁾、2016年からは同プロジェクト第2フェーズ³⁾、そして2024年からは「東ティモール国東ティモール国立大学工学系大学院設立支援アドバイザー運営指導調査」の協力機関として、同国を支援している。

- 1) 東ティモール大学工学部支援プロジェクト：JICA HP 参照
(<https://www.jica.go.jp/oda/project/0601585/index.html>)
- 2) 東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト：JICA HP 参照
(<https://www.jica.go.jp/oda/project/1000106/index.html>)
- 3) 東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクトフェーズ2
(<https://www.jica.go.jp/oda/project/1600474/index.html>)

1)



2)



3)



短期研修プログラム

【サマースクール（夏期短期語学研修：派遣）】

サマースクールは、その国の言語や文化を集中的に勉強するプログラムであり、短期間海外で生活することで国際感覚を高め、言語力を向上させ、今後の国際交流・海外留学等への契機となることを目的に実施している。令和5年度については、令和元年度以来に、協定大学であるアルバータ大学（カナダ）において、理系学生向け実践科学英語研修である English for Science and Technology（EST）プログラムが開催され、岐阜大学から3名の学生が参加した。

大学名	グリフィス大学（オーストラリア）
プログラム名	English as a Second Language（ESL）
プログラム実施期間	8月19日～9月23日 ※移動日を含む
内容	一般英語研修
参加人数	37名（うち名古屋大学学生2名）

大学名	アルバータ大学（カナダ）
プログラム名	English as a Second Language（ESL）
プログラム実施期間	9月4日～9月30日 ※移動日を含む
内容	一般英語研修
参加人数	10名

大学名	アルバータ大学（カナダ）
プログラム名	English for Science and Technology（EST）
プログラム実施期間	2024年2月23日～3月27日 ※移動日を含む
内容	実践科学英語研修
参加人数	3名

【サマースクール（夏期短期語学研修：受入）】

令和5年度の岐阜大学サマースクール（受入）は、6月末から7月末までの期間で実施した（日本語及び日本文化の教育担当は日本語・日本文化教育センター）。本プログラムで養成を目指す人材は、日本を理解し応援してくれる海外の人々である。日本語授業はもちろんのこと、本物に触れる日本文化体験（現役能楽師によるワークショップ、鍛冶体験等）、地域性を生かした学外活動（郡上市における文化交流や民宿滞在等）、日本人学生との交流機会等を提供している。本プログラムは今回の実施が34回目で、岐阜大学の協定大学のうち3校から合計7名の学生が参加した。

【成果報告】

サマースクールレポート：グローバル推進機構 HP に掲載
https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/summer_school_program/



【Collaborative Video Making Program】

ジョイント・ディグリープログラムの相手大学であるインド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学、そして名古屋大学及び本大学の4大学の学生が参加するオンライン交流事業 Collaborative Video Making Program（以下、「CVMP」という。）を実施した。CVMPは令和2年度から毎年開催しており、令和5年度で4回目の開催となる。

このプログラムでは、4大学の学生が4グループに分かれ、“Thinking about SDGs”というテーマのもと、動画作品の共同制作を行った。

そしてFinal Competitionを、11月5日（日）にZoom Webinar及び岐阜大学祭会場を使用した対面のハイブリットにて開催した。学生が制作した動画作品の発表を行い、特別審査員が講評を行った。最後には、特別審査員による採点及び視聴者投票が行われ、グループ4の作品「Green Utopia」が最優秀作品に決定した。

また、本プログラムで制作された動画作品は、GU-GLOCAL Channelから視聴できる。



対象大学	インド工科大学グワハティ校（IITG）、マレーシア国民大学（UKM）、名古屋大学
実施期間	7月28日—11月5日
参加人数	14名：IITG 1名、UKM 4名、名古屋大学 1名、岐阜大学 6名

【GU-GLOCAL Channel】

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLrNWL5oYxiK9aHppLz9nEMlRcTuARBk3c>



【CVMP Web サイト】

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/videomaking/>



【Winter School (受入)】

ジョイント・ディグリープログラムの相手大学であるインド工科大学グワハティ校（以下、「IITG」という。）、マレーシア国民大学（以下、「UKM」という。）の学生を本学にて受け入れる、ウィンタースクールを実施した。第7回目となる本年は、12月6日（水）～12月22日（金）にかけて実施し、IITG から6名、UKM から2名の学生が来学した。

本年度は「日本の伝統を科学する」というテーマにて開催し、2週間という短い期間に、参加学生らは企業や日本学生との交流、研究活動、日本文化体験等のプログラムを行った。

最終日の12月22日には本プログラムを通して学んだことを発表する最終報告会を執り行い、ポスタープレゼンテーションにて発表を行った。



対象大学	インド工科大学グワハティ校（IITG）、マレーシア国民大学（UKM）
実施期間	12月6日～12月22日
参加人数	8名：IITG 6名、UKM 2名

[ウィンタースクールレポート]

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/folder1/>



【Spring School Program (派遣)】

全学を対象とした短期派遣プログラムであるスプリングスクールを実施した。本プログラムはジョイント・ディグリープログラム（以下、「JDP」という。）の相手大学であるインド工科大学グワハティ校（以下、「IITG」という。）へ2週間程滞在するプログラムである。2024年3月3日（日）から2024年3月15日（金）にかけて第3回スプリングスクールが開催され、本学学生10名が参加した。

IITG と岐阜大学との共同開催のジョイント・ディグリーシンポジウム2024会場での開校式から始まり、国立公園見学や民俗博物館などの見学、現地企業である、インスタント食品加工工場及び生物農薬メーカーの訪問を行った。学内では、デザイン学科での竹資源の活用方法のワークショップや、JDP 関連学科を中心としたラボツアーが開催された。また、本プログラムを通じて現地学生との交流も深めた。

最終日には、英語でのポスタープレゼンテーションを見事にこなし、修了証書を受け取った。



対象大学	インド工科大学グワハティ校（IITG）
実施期間	2024年3月3日～2024年3月15日
参加人数	10名

[Spring School Program Web サイト]

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/springschool/>



3. 国際交流活動

国際協働教育・地域国際化関連

5月～
2023年2月 グローカル化のためのSDGs勉強会

オンライン



地域のグローカル化の推進を目的に、本学が有する人的ネットワークを活用した「グローカル化のためのSDGs勉強会」がウェビナー形式で計9回実施され、延べ66名が参加した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/region/sdgs/session/>



4月5日 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻（修士課程）の学生（岐阜大学・IITG）が両校にて勉学を開始
7月24日

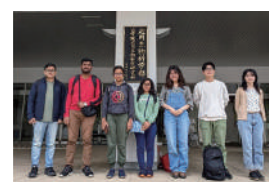
対面



4月5日に岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻（修士課程）の新年度ガイダンスが岐阜大学（以下、「本学」という。）で行われ、本学を主大学とする学生3名とインド工科大学グワハティ校（以下、「IITG」という。）を主大学とする学生4名が本学での勉学を開始した。そして7月24日には、本専攻の本学を主大学とする学生3名とIITGを主大学とする学生5名が、IITGでの勉学を開始した。日印学生は共に顔を合わせて学び合い、国際共同学位取得という共通目標に向かって切磋琢磨していく。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000678.html>

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000709.html>



9月15日～
9月16日 IITG との教育研究連携活動

対面

IITGにて、山内 恒生 准教授（応用生物科学部）が講義を行った。この活動は、生命科学関連分野における両大学間の教育研究の連携強化を図るものである。また、岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻（博士課程）初の日本人学生としてIITGに留学中である学生との研究打ち合わせを行った。山内 准教授は学生の本学側の指導教官として、IITG側の受け入れ教員とIITGでの研究の進捗状況や、今後の研究計画について本学生を交えて話し合いが行った。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000727.html>



9月16日
9月18日 IIT での日本留学フェアに参加

対面

IITG 及びインド工科大学ハイデラバード校（以下、「IITH」という。）で行われた日本留学フェアに海老原 章郎教授（グローカル推進機構 副機構長）と山内 准教授が参加した。9月16日、IITGで行われた日本留学フェア「Namaste Japan Education Interaction 2023」は、IITG、東京大学、本学の共催で実施した。本学からは、IITGを入り口とした国際ジョイント・ディグリープログラム（以下、「JDP」という。）3専攻及び本学への6か月研究インターンシップ（以下、「サンドイッチ・プログラム」という。）を紹介した。9月18日、IITHで行われた日本留学フェア「IITH Academic Day」は、IITHの主催で実施した。本学はIITGを入り口とした国際JDP3専攻及びサンドイッチ・プログラムを紹介した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000726.html>





9月30日～ 第2回 日印大学等フォーラム及びSTSフォーラム2023
10月1日 第20回年次総会

対面



9月30日、「第2回 日印大学等フォーラム」及び10月1日、「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム第20回年次総会（以下、「STSフォーラム2023」という。）」が京都市内で行われ、吉田 和弘 岐阜大学学長及び小山 博之 グローカル推進機構長が出席した。9月30日、2回目となる日印大学等フォーラムは、「日印間の頭脳循環の促進」をテーマとし議論が行われた。そして10月1日、STSフォーラム2023のセッションの一つとして実施された、大学学長会議に出席し、世界各地の77大学の学長が参加し、「人類とAIが作る未来」と題して議論した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000722.html>



10月11日～ IITG 主催 シンポジウム「Bioeconomy 2023」に本学教員が
10月12日 登壇

ハイブリット



IITG が主催したバイオエコノミーに関するシンポジウム「Bioeconomy 2023」に、本学教員4名が登壇した。今回のシンポジウムにはインド国内外の研究者、学生、企業人等が対面及びオンラインにて参加し、本学からは参加した教員4名は講演をオンラインにて行った。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/region/information/000735.html>



11月16日～11月17日
12月7日 岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023
12月8日

ハイブリット



11月16日～12月8日、オンライン（Zoom）及び一部対面にて、本年度で5回目となる「岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023」を開催した。11月16日～11月17日、オンライン開催した「学術セッション」では、「持続可能な地域開発：SDGs とその先に向けて」と題し、計10名の登壇者が最先端の研究報告を行った。12月7日、オンライン開催した「東海国立大学機構 JDP シンポジウム」では、「地球課題を解決する人材育成を目指すジョイント・ディグリー ～教育研究の国際化と地方創生～」と題し、基調講演や JDP 留学体験メッセージ、パネルディスカッションを行った。12月8日、オンライン及び本学講堂で開催された「産官学金連携セッション」は、「岐阜大学シンポジウム」としても開催され、本学グローバル推進機構の取り組み報告やパネルディスカッションを行った。また別会場では、東海地域を中心とした25社の企業・団体によるブース展示が行われ、地元企業と留学生が交流した。

参照：<https://www.jdsymposium.jp/>



12月8日 IITG 教員及びウィンタースクール参加学生学長表敬

対面



IITG チャンダン・ダス教授、スワラップ・バグ准教授、ウィンタースクール2023参加学生（IITG 6名、マレーシア国民大学（以下、「UKM」という。）2名）が吉田 学長及び教員6名と懇談した。教員とは、来年3月にIITGで岐阜大学生が参加予定のスプリングスクールプログラム、ジョイント・ディグリーシンポジウム2024（以下、「JD シンポジウム2024」という。）について話し合うとともに、ウィンタースクール参加学生とは、今回のプログラム参加を希望した理由や意気込みについて懇談した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000750.html>



2024年 3月3日
～ JD シンポジウム2024
2024年 3月5日

対面



岐阜大学及びIITGの共催にて、JD シンポジウム2024をIITGにて開催した。「JDPプラットフォームの下の産学連携を通じた日・北東インドのバイオエコノミー的技術協働」をテーマに開催し、3月3日、3月4日は、学術及び産業に関するシンポジウムを行い、同シンポジウム内でスプリングスクールプログラムの開校式を行った。3月5日は研究施設・企業訪問を行った。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/collaboration/information/000752.html>



留学推進・国際企画関連

4月26日
4月28日 2023年夏期 ESL・EST 説明会
5月8日

対面



アルバータ大学 English as a Second Language (ESL) / English for Science and Technology (EST)、グリフィス大学 English as a Second Language (ESL) を対象とした説明会を、4月26日と4月28日に開催し、アルバータ大学 EST のみを対象とした説明会を5月8日に開催した。4月26日は62名、4月28日は72名、そして5月8日は19名が参加した。多くの学生が、夏期休暇を利用し短期留学を経験できる本プログラムへ興味を示していた。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000675.html>



4月19日
11月29日 海外留学フェア春・秋

対面



4月19日、「海外留学フェア2023春～踏み出そう！留学への第一歩～」を開催し、79名が参加した。そして、11月29日、「海外留学フェア2023秋～広げよう、留学の輪～」を開催し、25名が参加した。本フェアでは、本学の留学プログラムや支援制度に関する説明、英語能力試験（TOEFL 及び IELTS）の概要、サマースクールプログラム詳細、交換留学及びバロー・V ドラッグ海外研修奨学金制度等により留学した学生の留学経験に基づく発表等が行われた。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000685.html>

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000743.html>



6月28日 海外渡航危機管理オリエンテーション

対面



「2023年度 海外渡航時の危機管理オリエンテーション」を開催し、79名が参加した。本オリエンテーションは、留学や海外旅行を予定している学生・教職員などを対象とし、事件や事故に巻き込まれないための意識啓発のほか、健康管理なども含め幅広く危機管理意識を醸成することを目的として開催している。医療的準備と自己健康管理、危機意識やリスク、安全対策などの講演が行われた。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000702.html>





5月2日 駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問

対面

ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問し、意見交換の後、学内の航空宇宙生産技術開発センター及び糖鎖生命コア研究所（以下、「iGCORE」という。）を見学した。意見交換においては、本学の概要紹介の後、モロッコの自然・エネルギー・産業・大学教育等の話題に触れながら、モロッコの大学と本学との今後の交流の可能性について話し合われた。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000686.html>

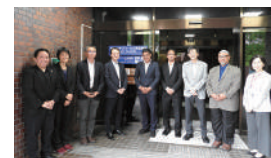


6月14日 UKM 副学長らが本学を訪問

対面

大学間学術交流協定を締結している UKM からモハマド・カシム 副学長（学術、国際担当）及び他3名が本学を訪問した。UKM と本学との交流について意見交換を行い、その後、地域科学部においても学部長、副学部長及び関係教員と意見交換・打合せを行った。意見交換においては、同大学と実施する博士課程の JDP をはじめとする各種事業について、これまでの交流状況、また、今後のさらなる展望などについて活発に話し合った。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000704.html>



7月20日 MMSU 学長らが本学を訪問

対面

大学間学術交流協定を締結しているマリアノ・マルコス州立大学（以下、「MMSU」という。）から、シャーリー・アグルーピス 学長及び他7名が本学を訪問した。MMSU と本学との交流状況や今後の展望などについて意見交換を行い、その後、大学間学術交流協定を更新するための署名式を行った。また、大学院連合農学研究科と大学院連合創薬研究科において、研究室・施設見学や研究科長及び関係教員との意見交換会が行われた。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000703.html>



9月8日 ULille 副学長らが本学を訪問

対面

大学間学術交流協定を締結しているフランスのリール大学（以下、「ULille」という。）から、ニル トゥールーズ 副学長（国際）及び他4名、そして、在日フランス大使館より、ベネディクト ギルマン プロジェクトマネージャー（科学技術部）及び他1名が本学を訪問した。ULille と本学との交流における今後の展望について話し合い、とくに、将来的な JDP の実施を目指した博士学生を共同で指導するシステム等について、活発な意見交換が行われた。その後、iGCORE において、ランチミーティング及び研究室・施設見学が行われた。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000715.html>



10月28日 本学留学生の奈良・薬師寺旅行

対面

本学留学生31名が奈良・薬師寺旅行に出かけた。往路では昼食会場に立ち寄り、参加者は日本食を堪能した。学生たちは料理の美しさに感激して、各々で写真を撮ったり、初めて出会う学生同士で交流を持ったりした。薬師寺では日本語ガイドのほか、英語ガイドも帯同し、留学生は興味深く話を聞き、時には熱心に質問をする姿も見られた。3時間の滞在時間はあっという間に過ぎ、もう一度薬師寺に來たいと話す学生もいた。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/studyabroad/information/000746.html>



10月30日

NKU 国際教育センター事務局長が本学を訪問

対面



大学間学術交流協定を締結しているノーザンケンタッキー大学（以下、「NKU」という。）国際教育センター フランソワ・ルファ事務局長が本学を訪問した。NKUと本学との意見交換では、これまでの学生交流の成果や、今後予定される交流プログラム、岐阜・東海地域とNKUの位置するグレーター・シンシナティエリアとの共通点を踏まえた様々な連携の可能性等について話し合った。その後、ランチミーティング、国際担当教員との打合わせ、教育学部での学生・留学生との交流及び航空宇宙生産技術開発センターの視察を行った。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000741.html>

11月9日

在名古屋中華人民共和国総領事館教育担当領事が本学を訪問

対面



在名古屋中華人民共和国総領事館より教育担当の関 長空（カン チョウクウ）領事、宋 静雯（ソン ジンウン）領事が本学を訪問した。本学と中国は、10大学と大学間学術交流協定を締結し、学生及び教職員の交流を行っており、学内では100名を超える中国人留学生在籍している。懇談においては、今後実施が予定される学生交流プログラムについて意見交換を行った。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000739.html>

12月16日～
12月18日

本学学長がラバト国際大学（モロッコ）を訪問

対面



吉田 学長、神原 信志 副学長、吉野 純 工学部附属応用気象研究センター長、小林 恵子 国際事業課長がラバト国際大学（モロッコ）を訪問及びラバト市等を視察した。今回の訪問は、2023年5月2日にラシャッド・ブフラル 駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問された際に、同大学との交流の提案があったことから実現した。同大学長への表敬訪問では、同大学の学長をはじめ副学長、学部長など合わせて18名が参加され、学生交流やエネルギー工学分野の共同研究を中心に学術交流の可能性を探り、大学間学術交流協定の締結に向けて準備を進めることを両大学が同意した。



参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/planning/information/000760.html>

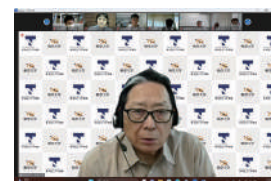
留学生就職促進プログラム関連

7月4日 岐留協総会

オンライン

本学が事務局を務める岐阜地域留学生交流推進協議会（以下、「岐留協」という。）の総会をオンラインにて開催し、31機関が出席した。会員は、岐阜県内に所在する関係大学等、地方公共団体、経済団体、国際交流関係団体及び民間団体からなり、設立以来、会長は岐阜大学長が務めている。今回行われた総会では、留学生インターンシップの活用や留学生を雇用した効果等活用事例に関する講演や、海外からの病虫害の侵入リスクや植物防疫法の改正等について、情報提供があった。その後、岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に係る財源確保及び運営方法、令和4年度事業報告及び決算、令和5年度事業計画及び予算について審議した。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/isepp/information/000699.html>



10月25日 岐阜地区ワークショップ

対面

本学全学共通教育講義棟において、第7回目である2023年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催した。2部構成で行われ、第一部ではジェトロ本部 高度外国人材課のスワスティック・クルカルニ氏と、松尾 憲暁 助教（グローバル推進機構 日本語・日本文化教育センター）にご講演をいただいた。第二部では、留学生が参加企業各社のブースを訪ねて面談を行った。本年度は企業から10社11名、留学生20名の参加があった。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/isepp/information/000744.html>



11月26日 第22回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会

対面

第22回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会が中日本自動車短期大学にて開催された。平成13年度より岐阜県内の教育機関に在学する外国人留学生の日本語学習意欲の喚起及び日本語の表現能力の向上を図ることを目的に行っている。留学生11名（5カ国）の本選出場者が約7分間の日本語のスピーチを行い、日頃の努力の成果を存分に発揮した。本学からは、交換留学生1名が参加し、日本語の表現能力の向上及び日本文化の認識につながる有意義な大会となった。

参照：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/isepp/information/000747.html>



日本語・日本文化教育センター関連

5月17日

郡上踊りワークショップ

対面



新型コロナウイルスの影響により、2020年度以降中断していた郡上踊りワークショップを、4年ぶりに日本語・日本文化教育センター（以下、「日文センター」という。）の和室において開催した。2022年11月にユネスコ無形文化遺産に認定された、国重要無形民俗文化財である「郡上踊り」のワークショップに、約20人の留学生が参加した。ワークショップが始まる前に、希望者は美濃市の国際交流支援グループ「せびあ会」の方々に浴衣を着つけてもらった。郡上踊り保存会囃子部・口明方囃子部の遠藤 光生 氏、熊澤 里重 氏を講師に招き、郡上市や郡上踊りの概要説明の後、郡上踊りの中でも代表的な曲「かわさき」と「春駒」の踊りを習った。ほとんどの留学生は初めて郡上踊りを体験したが、1時間半のワークショップを通して講師も感心するほど上達した。留学生にとって、日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となった。



参照：<https://www.gifu-u.ac.jp/news/news/2023/05/entry23-12409.html>

7月5日

留学生と日本人学生のための能楽（能・狂言）
ワークショップ

対面



日文センターでは、2005年度からプロの能楽師による能楽（能・狂言）ワークショップを行っている。今年度は4年ぶりに完全対面方式で開催し、約50名の参加があった。講師として観世流シテ方の味方 團 氏及び田茂井 廣道 氏（以上能の講師）、大蔵流狂言方の茂山 忠三郎 氏及び山口 耕道 氏（以上狂言の講師）の4名を日文センター和室にお迎えした。能楽・狂言の実演や、歴史や音楽の講義、能装束の着付けといった盛りだくさんの内容で、本物の日本の文化を間近で体験できる貴重なイベントとなった。



参照：<https://www.gifu-u.ac.jp/news/news/2023/07/entry13-12531.html>

12月13日

雅楽カルチャー体験コンサート（日本文化ワークショップ）

対面



日文センター和室にて、雅楽を楽しむ日本文化ワークショップを開催した。雅楽の普及活動を行っているオフィス菊理に依頼し、講師（近藤 泰史 氏、同 智佳子 氏）2名を迎えて行われた。

ワークショップでは、雅楽の歴史の講義や演奏の鑑賞だけでなく、楽器に触れたり、平安時代の衣装を身にまったりする体験もあった。学生たちは珍しい体験に、写真撮影の手が止まらない様子だった。人数の制限はあったものの、ウィンタースクール参加学生や日文センター所属学生、日本語研修コース履修生等、約40名が参加し、日本の美しい伝統文化を楽しんだ。



参照：<https://www.gifu-u.ac.jp/news/news/2023/12/entry21-12896.html>

上記の詳細や、その他のイベントについては『岐阜大学 日本語・日本文化教育センター紀要2023』を参照ください。



学内の国際化の取り組み

* 海外留学フェア2023春（4月19日）、海外留学フェア2023秋（11月29日）

「海外留学フェア春」は、交換留学や短期間の海外派遣プログラムに関する情報を提供し、留学の促進を図ることを目的として開催している。本イベントには、過去に留学を経験した学生が登壇し、自己の貴重な経験を振り返りながら、各プログラムの魅力について紹介した。今年度は新入生をはじめとし、学生・教職員合わせて79名が参加した。

また、秋についても「海外留学フェア秋」として、春と同様のイベントを開催し、学生・教職員合わせて25名が参加した。



海外留学フェア2023春プログラム	
開会挨拶	グローバル推進機構 小山 博之 機構長
留学に関する説明	留学支援係
留学に必要な英語力	
TOEFL	ETS Japan 合同会社 星川 朗 氏
IELTS	(公財) 日本英語検定協会からの提供動画
岐阜大学の留学プログラム	
オーストラリア・グリフィス大学 ESL プログラム	応用生物科学部 2年 川合 慶弥 さん
カナダ・アルバータ大学 ESL プログラム	応用生物科学部 3年 野中 美優 さん
交換留学	
オーストラリア・シドニー工科大学	自然科学技術研究科 2年 高山 蒼大 さん
スプリングスクール / ジョイント・ディグリー (JD) プログラム	
インド・インド工科大学グワハティ校	工学部 4年 桜井 大翔 さん
CVMP / フェ派遣プロジェクト	グローバル推進機構 松井 真弓 助教
バロー・V ドラッグ海外研修奨学金	
アメリカ・テキサス大学オースティン校	自然科学技術研究科 2年 伊藤 百音 さん
教育学部派遣プログラム	
アメリカ・ノーザンケンタッキー大学	教育学部 巽 徹 教授

海外留学フェア2023秋プログラム	
開会挨拶	グローバル推進機構 小山 博之 機構長
留学に関する説明	留学支援係
岐阜大学の留学プログラム	
オーストラリア・グリフィス大学 ESL プログラム	地域科学部 2年 唐木 菜々美 さん
カナダ・アルバータ大学 ESL プログラム	工学部 1年 山田 吏恭 さん
交換留学	
カナダ・レイクヘッド大学	地域科学部 3年 石原 紗和さん
中国・同済大学	地域科学部 2年 大井 一馬 さん (オンライン)
バロー・V ドラッグ海外研修奨学金	
リトアニア・ヴィータウタス・マグヌス大学	自然科学技術研究科 1年 菊永 桜香さん
トビタテ！留学 JAPAN	応用生物科学部 4年 川澄 光 さん
教育学部主催短期派遣プログラム	
アメリカ・ノーザンケンタッキー大学	教育学部 巽 徹 教授
看護学科主催短期派遣プログラム	
アメリカ・ワシントン大学	医学部看護学科 4年 税所 美帆 さん

*若手研究者支援（海外研修プログラム）

本学グローバル推進機構では、協働教育担当者の充実を図るために、「岐阜大学若手・中堅研究者海外研修プログラム」を実施し、海外研修を行う者への支援を行っている。これは、様々な制約から海外での研究経験を積む機会が乏しかった若手・中堅の教員を対象としたものである。令和2年度より新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となっている状況に鑑み、特例措置として海外研究機関との共同研究を促進するための支援として実施していたが、令和4年度より、海外研修を行う者へ海外渡航への支援を再開した。

令和5年度採択者

所属部局	氏名（職名）	共同研究機関（国名）	助成額
応用生物科学部	今泉 鉄平 （准教授）	ヴィータウタス・マグヌス大学農業学部 （リトアニア）	500,000円
応用生物科学部	島田 敦広 （准教授）	ウェイン州立大学 （アメリカ）	500,000円
保健管理センター	堀田 亮 （准教授）	南フロリダ大学心理学部 （アメリカ）	500,000円

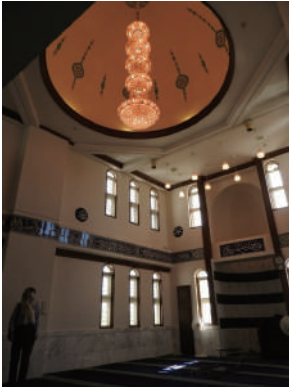
*海外協定大学連携強化交流事業

本学グローバル推進機構では、コロナ禍で交流が困難であった海外協定大学との連携強化を図るため、令和4年度より「海外協定大学連携強化交流事業（ポストコロナ対応）」を実施し、各部局等における海外協定大学等との交流活動の再開を支援した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となり、交流が困難となっていた海外協定大学への訪問及び招へいを実施して、協定大学との人的交流を全学的に活性化するための措置である。

令和5年度採択者

所属部局	氏名（職名）	共同研究機関（国名）	派遣／招へい	助成額
地域科学部	神谷 宗明 （教授）	ユタ州立大学 （アメリカ）	派遣	300,000円
医学部附属地域 医療医学センター	久保田 伊代 （特任助教）	南フロリダ大学 （アメリカ）	派遣	300,000円
工学部	岡 夏央 （教授）	マレーシア国民大学 （マレーシア）	招へい	189,000円
工学部	嶋 睦宏 （教授）	パンノン大学 （ハンガリー）	派遣	300,000円
応用生物科学部	中川 香澄 （助教）	キングモンクット工科大学 トンブリ校 （タイ）	招へい	176,000円
日本語・日本文化 教育センター	松尾 憲暁 （助教）	フエ大学 （ベトナム）	派遣	180,000円

*国際月間（グローバル推進機構主催イベント）

時期（参加人数）	実施内容
10月1日-10月31日	「学長からのメッセージの掲載」 外国人留学生及び外国人研究者に向け、吉田和弘 岐阜大学学長からのメッセージを掲載した。メッセージは岐阜大学の魅力や国際化への取り組みについて述べられた。 
10月12日 (7名)	「岐阜モスク見学会」 本イベントは、岐阜モスクの協力により初めて行われた。モスク内の礼拝堂の見学と、代表のオバリ・アブドルカーデル氏からのお話を通じて、イスラム教の基本的な知識やアラビア文字の読み方、イスラム教徒の方々の食事・礼拝などの生活ルールを学んだ。大学内でも教職員がイスラム教徒の留学生等と接する機会が多いなか、イスラム文化への理解が深まる体験となった。 
10月14日 (20チーム56名)	「岐阜大学ペタンク体験&大学対抗ペタンク大会」 岐阜大学ペタンク体験&大学対抗ペタンク大会を岐阜大学構内グラウンドで開催した。午前中には岐阜大学生の未経験者に向けて南フランス発祥のスポーツであるペタンク体験が行われ、フランス人教員 ジル・ゲラン准教授（地域科学部）の指導のもと、楽しんだ。午後からは本学ペタンクサークルが岐阜県ペタンク協会後援のもと、大学対抗ペタンク大会を本学で初めて開催し、岐阜県、愛知県、京都府の大学から参加した20チーム、計56名が白熱した試合を繰り広げた。 

時期（参加人数）	実施内容
10月18日 (約40名)	「インドネシアの文化を知ろう」 本イベントは、学内のインドネシア人留学生団体（Persatuan Pelajar Indonesia；以下、「PPI Gifu」という。）メンバーと共同で開催し、本学柳戸会館にて行われた。イベントの冒頭に鈴木 祥隆 助教(教育学部) より、本学のインドネシア人留学生及びインドネシアの伝統楽器アングルンを用いた活動について紹介があった。PPI Gifu メンバーによる同国についての紹介後、参加者にもアングルンが配られ、実際に演奏を体験した。最後に PPI Gifu メンバーによるアングルンの演奏があり、インドネシアの曲やポップミュージック、日本の歌謡曲が披露された。 
10月25日 (留学生20名、 企業10社11名)	「岐阜地区ワークショップ」 愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画する岐阜県、岐阜県経営者協会、ジェトロ岐阜、本学の4機関が共催し、今回で第6回目の実施となった。ワークショップは2部構成で進行し、第1部では「東海圏における高度外国人材の活用に向けて：企業支援と留学生支援の視点から」と題し、ジェトロ本部 高度外国人材課のスワスティック・クルカルニ氏と、本学の松尾 憲暁 助教（日本語・日本文化教育センター）が講演を行った。続く第2部では、留学生が参加企業各社のブースを訪ねて面談を行った。 
10月31日 (対面：約280名、 オンライン：約100名)	「特別シンポジウム グローバルは我々をどこに導くのか」 脳科学者の茂木 健一郎氏、経営者の塩野 誠氏、吉田 学長による国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか—ChatGPT 時代を生き残れ！ 国際化に必要な能力は本当に英語なのか？—」を開催した。本シンポジウムは、本学講堂、Glocal Lesson でのリアルタイム配信にて、約1時間半行った。本鼎談は、英語翻訳に生成 AI が利用できる時代に、なぜ英語を学ぶのか、留学するのかについて終始、熱い議論が交わされた。 

大学の世界展開力強化事業

令和4年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」とは：

文部科学省が公募する本プログラムは、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を5年間継続支援するものである。

本プログラムにおいて、岐阜大学はインド工科大学グワハティ校、岐阜・東海地域及び北東インド地域の産官学と連携した各種取り組みを通じて、高度人材育成及び地域・国際社会の発展に貢献していくこととし、採択された。

*プログラムのポイント

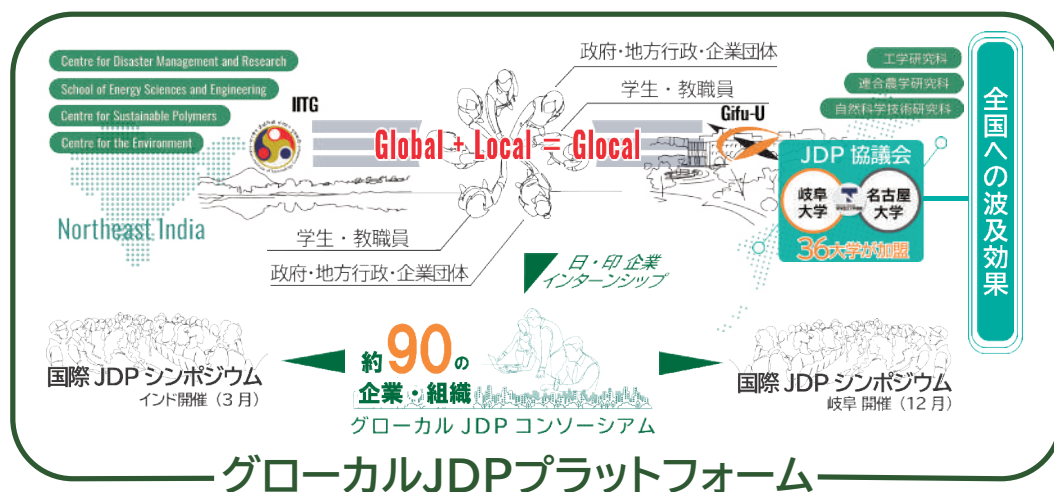
3専攻の国際連携専攻（以下、「JDP」という。）を設置・運営する岐阜大学とインド工科大学グワハティ校を中心に、岐阜を中心とする東海地域や北東インド地域の産官学（JDP コンソーシアム）が協働して国際連携教育に貢献するグローバル JDP プラットフォームを形成する。それを活用することにより「食品・サプライチェーンエキスパート」、「減災・防災エキスパート」、「サステナブルエネルギーエキスパート」等の修了証発行型教育プログラムを構築し、グローバル高度人材を育成する。

*主な取組

- ・地球規模課題の理解や国際的な共創体験ができる学部学生向けの短期留学や長期継続型オンライン交流プログラム及び産学連携・国際共同研究等のリーダー育成に向けた大学院学生向けの修了証発行型プログラムを構築し、段階的・体系的なプログラムを提供
- ・国際展開する JDP コンソーシアム加盟企業におけるインターンシップの実施とアントレプレナー教育により、国際的に活躍できるグローバル高度人材を育成
- ・国際シンポジウムの実施により、JDP コンソーシアム加盟企業・組織の相互交流機会を創出し、両地域の課題を世界的な視点で解決するアイデアの共創
- ・大学の国際化促進フォーラムや全国大学 JDP 協議会を活用し、グローバル JDP プラットフォームを全国の大学へ展開

グローバルJDPプラットフォーム

日印で定期開催するシンポジウムを通じて、産官学金、連携大学が参加する場、「グローバルJDPプラットフォーム」を形成する。



[大学の世界展開力強化事業 Web サイト] <https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/jdp-platform/>



全国大学 JDP 協議会

全国大学 JDP 協議会とは：

本協議会は令和4年4月に設置され、ジョイント・ディグリープログラム（以下、「JDP」という。）を開設、あるいは開設を予定している大学が、JDP の運用における課題の改善や情報共有、JDP の活用の方策並びに今後の展望についての検討、JDP に関する意見・要望等のとりまとめ及び文部科学省への提言、新規 JDP 立ち上げ校に対するアドバイスを目的として組織している。

*主な取組

12月7日、岐阜大学が会長大学を務める全国大学 JDP 協議会において、第2回総会をオンラインにて開催し、34大学1機関117名の出席があった。

総会では、文部科学省高等教育局 小林 洋介 参事官（国際担当）による「国際連携教育課程制度の見直しに係る大学設置基準等の一部改正について」と題し、ジョイント・ディグリープログラムの制度説明と改正概要等についての講演が行われた。

続いて協議事項へ進み、JDP 運用にあたっての問題点及び文部科学省への要望事項について協議された。その後、JDP 修了生の進路状況調査結果、令和4年度全国大学 JDP 協議会総会アンケート結果、JDP 関連のイベントの開催について報告があった。

本協議会は、今後も定期的に総会を開催し、JDP の成果やノウハウを共有しながら、より効果の高い JDP を全国に展開することを目指し、有意義な連携を図っていくこととしている。

[JDP 協議会 Web サイト]

<https://jdp-council.jp/>



留学生就職促進プログラム

愛岐留学生就職支援コンソーシアムとは：

文部科学省「留学生就職促進プログラム」の事業目的に賛同した愛知及び岐阜県下の大学、地方公共団体、経済団体及び企業団体が連携し、留学生の日本での就職支援を行うために設立されました（図1参照）。留学生就職促進プログラムは2021年度で終了しましたが、コンソーシアムの枠組みを活用し、引き続き就職支援の各種プログラムを実施します。

* 参画大学：

名古屋大学・岐阜大学・名古屋工業大学・名城大学・南山大学・愛知県立大学

* コンソーシアムの目的：

留学生の就職支援のための教育プログラムの開催

* 開催内容：

「ビジネス日本語教育」「キャリア教育」「インターンシップ」

愛岐留学生就職支援コンソーシアム

○平成29年9月11日設立

代表幹事 名古屋大学

副代表幹事 岐阜大学

名古屋工業大学、名城大学、南山大学、愛知県立大学、

愛知県、岐阜県、JETRO名古屋、JETRO岐阜、

愛知県経営者協会、岐阜県経営者協会、中部経済同友会、

中部経済連合会、愛知県社会保険労務士会

図1

* 岐阜大学の取組

岐阜大学では、国内で就職を目指す留学生に次のプログラムを提供した。プログラムの一部は、本学が参画する「岐阜地域留学生交流推進協議会」の構成大学の留学生へも提供した。

プログラム名	開催時期	取組内容
キャリア日本語	5月-7月 11月-2024.2月	キャリアプランニング、企業分析、エントリーシート、履歴書の書き方、グループディスカッション、面接練習など
夏インターンシップに向けた準備	5.24	日本で就職を目指す留学生へのキャリアガイダンス
就職活動支援講座	10.11, 11.8, 11.22, 12.6	「業界・企業分析」、「応募書類の作成」、「各種面接への対策」の3講座を実施
学生企業展 業界研究セミナー	12.16-12.17	200社以上が出展し、「視野を広げたい」「企業の雰囲気を知りたい」「新たな出会いの場が欲しい」というニーズに応えた
岐阜地区ワークショップ 共催：岐阜県、岐阜県経営者協会、 ジェトロ岐阜	10.25	第1部：「東海圏における高度外国人材の活用に向けて：企業支援と留学生支援の視点から」セミナー、 第2部：企業と留学生による交流会

開催件数：5件

岐阜地域留学生交流推進協議会

岐阜地域留学生交流推進協議会とは：

留学生交流推進会議は各都道府県46地域（2013年）に設置されている。岐阜県では平成2年2月に「岐阜地域留学生交流推進協議会」（以下、「岐留協」という。）が置かれた。

岐留協は、岐阜県内における留学生の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を目的とし、会員は、岐阜県内に所在する大学、地方公共団体、経済団体、国際交流関係団体等43機関からなる。会長は岐阜大学長が務め、本学が事務局を運営している。

* 岐阜地域留学生交流推進協議会総会を開催（7月4日）

7月4日にオンラインにて岐阜大学が事務局を務める岐留協の総会を開催し、31機関が出席した。

総会では、岐留協会長の吉田 和弘 岐阜大学学長による開会挨拶の後、土井康裕名古屋大学副総長補佐 / キャリアサポートセンター長 / 愛岐留学生就職支援コンソーシアム実務委員長による「企業における留学生受け入れ拡大～留学生の活用とインターンシップの役割～」と題した講演が行われた。続いて、西崎博則名古屋植物防疫所次席植物検疫官から、「名古屋植物防疫所からのお願い」と題し、海外からの病害虫の侵入リスクや植物防疫法の改正等について、情報提供があった。

その後、岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会に係る財源確保及び運営方法、令和4年度事業報告及び決算、令和5年度事業計画及び予算について審議し、承認された。

* 岐留協臨時総会を開催（メール会議：8月7日～9日）

8月7日～8月9日にメール会議にて岐留協の臨時総会を開催した。

岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会の運営にあたり、岐阜県経済同友会、岐阜県商工会議所連合会及び岐阜県経営者協会から御寄付を受けたこと、それを踏まえて大会の出場者数等の実施方法を変更することについて審議し、承認された。

* 第22回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会を開催（11月26日）

11月26日、中日本自動車短期大学において、本学が事務局を務める「岐留協」の取組みのひとつとして、「第22回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会」を開催した（幹事校：中日本自動車短期大学）。

本大会は、平成13年度より岐阜県内の教育機関に在学する外国人留学生の日本語学習意欲の喚起及び日本語の表現能力の向上を図ることを目的に行っており、中日本自動車短期大学、中部学院大学、国際たくみアカデミー、朝日大学、岐阜協立大学及び本学の留学生11名（5ヶ国）の本選出場者が約7分間の日本語のスピーチを行い、日頃の努力の成果を存分に発揮した。

なお、本弁論大会の実施にあっては、岐阜県経済同友会、岐阜県商工会議所連合会及び岐阜県経営者協会から御支援を得て開催した。

Ⅱ. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 教育学部

カールスルーエ教育大学日本語クラス交流会（6月12日）

教育学部は、2015年よりカールスルーエ教育大学（ドイツ）との部局間協定を締結しており、その学生交流の一環として、6月12日にはカールスルーエ教育大学の日本語コースの学生と、教育学部の留学経験者や留学に興味を持っている学生による『オンライン交流会』が行われた。

交流会ではドイツ語のレッスン、互いの国や大学に関する紹介、4人～5人に分かれてのグループ交流が行われた。特にグループ交流では教員を目指す学生同士で様々な交流を行うことができ、日本の教育のあり方について考えるきっかけとなった。



教育学部留学報告会（11月1日）

11月1日に、3月～9月の間に短期留学を行った教育学部の学生による『教育学部 留学報告会』が開催された。当日は大学間協定を締結しているインド工科大学グワハティ校（インド）、ノーザンケンタッキー大学（アメリカ）、アルバータ大学（カナダ）、グリフィス大学（オーストラリア）に留学した14名が、それぞれの留学先に関する発表を行った。

留学報告会には教育学部の教員・学生、他学部の教員・学生、留学生などが参加した。また、本学に表敬訪問をされていたノーザンケンタッキー大学 国際教育センター フランソワ ルファ事務局長にもお越しいただき、英語・日本語による発表をお聞きいただいた。



2. 地域科学部

留学説明会及び帰国者との交流会（7月26日）

7月26日に「留学説明会及び帰国者との交流会」を開催し、留学を終えて帰国した4年生3名、3年生7名とこれから留学する予定の2年生6名、8名が参加し、留学先での学習や生活、状況などについて交流を行った。留学経験者としてはレイクヘッド大学（カナダ）1名、ノーザンケンタッキー大学（アメリカ）1名、サンディエゴ州立大学（アメリカ）2名、シドニー工科大学（オーストラリア）1名、高麗大学（韓国）1名に加え、マレーシア国民大学（マレーシア）に留学中の1名がオンラインで参加した。

当日は、まず国際交流委員長より交換留学の概要やスケジュール、語学力向上のためのカリキュラムやサポート体制、奨学金等の留学支援制度についての説明を受け、その後、留学を経験した国際教養プログラム生が合流し、これから海外留学に出発する学生たちと地域ごとにグループにわかれて意見交換会を行った。海外留学経験者と直接対話することにより、留学への意欲向上につながられただけでなく、海外留学経験者ネットワークの充実にもつながった。



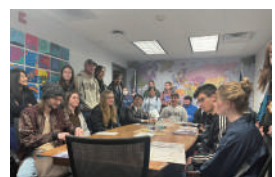
FD 兼留学報告会（12月20日）

12月20日に交換留学を終えて帰国した国際教養プログラム2期生について、学部内での情報共有と、今後留学を希望するプログラム学生への情報提供を目的としてFD 兼留学報告会を実施した。留学から帰国後の国際教養プログラム2期生3名（レイクヘッド大学、サンディエゴ州立大学、マレーシア国民大学）から留学先での勉強や生活の様子について、実体験を交えて報告された。報告会には教員36名、国際教養プログラムの地域科学部の学生8名が参加した。留学経験を学生教員間で共有するとともに、今後留学を考える際に有用な情報提供の機会となった。



ユタ州立大学、サンフランシスコ州立大学訪問(2024年2月15日－2024年2月23日)

2024年2月15日（木）から2月23日（金）にかけて、和佐田 裕昭 教授（地域科学部）及び神谷 宗明 教授（地域科学部）がアメリカ合衆国の岐阜大学学術交流協定校であり、現在国際教養プログラムの学生が留学をしているユタ州立大学とサンフランシスコ州立大学を訪問した。ユタ州立大学では留学中の学生と面談、大学構内、図書館、体育館、教室、大学内の食堂、大学付近のスーパー等の視察を行った。これらから同大学の学習環境、生活環境、安全性等を把握できた。また、同大学の国際交流関連オフィスを訪ねて、国際事務を担当する、ユタ州立大学 Office of Global Engagement の Senior Vice Provost の Janis L. Boettinger 教授、Monika Galvydis 氏、Katie Davidson 氏と面談をおこなった。これらを通して同大学への留学を希望する学生達に対して提供すべき今後の展望を含めた有益な情報を得ることができた。



引き続き、ユタ州立大学で日本語を学習している学生達との話し合い会が開催された。この会合には、約30人もの学生が出席して部屋に入れないほどの盛況になった。はじめに神谷国際交流委員長が約30分の岐阜大学説明を行なった後、60分弱にわたり岐阜の自然、産業、文化、歴史など様々な事柄に関して活発に質疑応答が行われ、岐阜大学への関心を高める有用な情報提供の機会となった。

3. 医学部・医学系研究科

海外臨床実習のための準備教育

医学教育開発研究センターは、6年次の海外臨床実習参加希望の医学生（5年生）を対象に、その準備教育として医療英語課外実習（計5回）を開催している。イギリスでの臨床経験があり本邦の医学英語教育に従事する Ying Foo 講師（慶應義塾大学）を招聘し、英語による医療面接や身体診察、症例報告の実施の仕方について学ぶ機会を提供した。2023年度は岐阜大学（以下、「本学」という。）21名及び名古屋大学3名の医学生が参加した。また、本学の留学生に模擬患者として協力いただき、英語による医師－患者コミュニケーションのロールプレイを行うこともできた。課外実習はオンライン開催と対面開催を織り交ぜながら、実践的な学習を取り入れ、医学生の医療英語コミュニケーションスキルの向上に寄与する機会が提供できたといえる。本課外実習を経て、延べ14名の医学生が、アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、タイ、ドイツの教育病院で臨床実習に参加することができた。



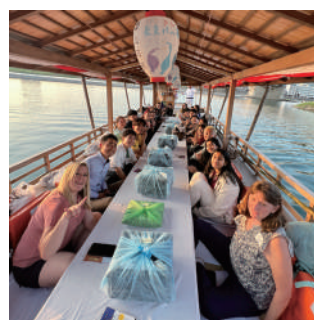
南フロリダ大学公衆衛生学部大学院生と岐阜大学医学部医学科生との交流会を開催（7月3日）

7月3日、医学教育開発研究センター（医学部本館8階）において本学保健管理センターに短期留学中の南フロリダ大学（アメリカ）（以下、「USF」という。）公衆衛生学部大学院生1名と、2023年にUSFの教育病院であるタンパ総合病院（アメリカ）（以下、「TGH」という。）での実習に参加した本学医学生2名（6年生）、2024年にTGHでの実習参加予定の3名（5年生）及び国際交流に興味のある1名（4年生）との交流会を開催した。USFとは2016年に部局間協定を締結して以来、本学医学部医学科の学生2名がUSFでの4週間の臨床実習及びUSFの学生2名が本学での4週間の短期留学を毎年継続的に実施し、相互交流を行っている。医学科学生にとっては、アメリカでの臨床実習2枠が確保されるため、とても貴重な学習機会となっている。本交流会では、今福 輪太郎 兼任講師（医学教育開発センター）、山本 真由美 教授（保健管理センター長）が出席する中、実習に参加した2名の医学科学生からTGHでの実習報告、USFの大学院生からは本学での学生生活やタンパでの暮らし・文化などの紹介があった。出席した本学教員や学生からは多くの質問があり活発な意見交換がなされ、親睦を深める貴重な機会となった。



南フロリダ大学公衆衛生学部学生との鵜飼観覧（5月16日）

5月16日にUSF公衆衛生学部学生15名と教員2名、本学医学部医学科学生9名と今福 兼任講師が鵜飼観覧を共にし、両校の交流を深めた。USFの参加者は、鵜飼について興味津々に本校の学生に質問している姿が印象的であった。岐阜の伝統文化を体験することができ、USFの参加者にとって貴重な時間になったといえる。また、学生たちは、お互いの学生生活や文化について英語での会話を通じて理解を深めることができ、本校の学生は将来海外臨床実習に参加したいという気持ちが強くなっていた。また、教員たちは、両校の教育システムや今後の交流の発展可能性について話すことができ、充実した時間を過ごすことができた。



日韓医学生交流イベント（8月11日－8月15日）

コロナ感染拡大で3年間中断していた、本学医学部と忠北大学医学部（韓国）の学生交流イベントが再開した。今回は本学医学部の学生4名と引率教員の千田 隆夫 教授（大学院医学系研究科）の計5名が、忠北大学（韓国）を訪問した。8月11日に中部空港からソウル・仁川空港に飛び、バスで清州にある忠北大学に到着した。忠北大学医学部の医学部長の Hye-Young Kim 教授に挨拶し、夕刻から忠北大学の学生・教員による歓迎パーティーに参加した。8月12日はバスで全州市に向かい、市内観光を行った。8月13日は学内で忠北大学学生と交流を深め、午後から夜には清州市内を観光した。8月14日午前中は、双方の学生4名ずつによる英語でのプレゼンテーション（日韓の学生生活の比較、コロナ禍での学生生活等）、午後は、附属病院を見学した。韓国で最後の夜はフェアウェルパーティーで盛りあがった。8月15日、すっかり親しくなった忠北大学学生に別れを告げて、本学医学生一行は仁川空港から日本に戻った。

来年は忠北大学医学部の学生を岐阜に招待することになる。



マギル大学（カナダ）における臨床指導医研修（10月28日－11月5日）

10月28日から11月5日まで、岐阜大学の協定校であり、カナダのハーバードと称されるマギル大学に岐阜大学医学部附属病院や岐阜県下の臨床研修指定病院等の指導医9名が9日間訪問した。そして1週間の指導医プログラム“Teaching in the Clinical Settings: A Practicum Course”に参加し、全プログラムを修了し Certification を授与された。本事業は、岐阜県医師育成・確保コンソーシアムが主催している。マギル大学の医学教育センターと岐阜大学医学教育開発研究センターで共同開発されたプログラムを、2014年度から2015、2017、2019そして2023年度まで総計50名の指導医が修了した。このプログラムでは、現地のマギル大学の病院や関連病院にて、参加者は実際のカナダの診療及び医学生や研修医に対する臨床指導をシャドーイングしつつ、講義や振り返りを重ね、今後の臨床指導医の在り方について理解を深めることができる。今年度も参加者は各所属機関にて伝達講習会を開催し、学びを岐阜県に広げた。



マギル大学（カナダ）とのオンラインフォーラム（9月29日）

9月29日、岐阜大学大学院医学系研究科医療者教育学専攻では、修士課程に在籍する学生である医師や多職種の指導者、そして岐阜県下の臨床研修病院の指導医を参加者に迎え、“医療者教育におけるイノベーション”を議論するフォーラムを開催した。講師には、マギル大学の内科指導医である Linda Snell 教授と Jeffly Wisemann 助教をオンラインでお招きした。事前にマギル大学の Web Grand Rounds Series の動画の一つである “Innovations in medical education: Changing the landscape for our learners” という YouTube 動画を共有して視聴しておいた。その後当日は、その内容に関して自由な意見交換を行った。様々な領域のエキスパートを交えたアイディアの着想から、医学教育のセオリーに基づくコース及びアウトカム評価の設計を学ぶことができた。初めての開催でしたが、新しいものを創りだすマギル大学のノウハウをたくさん吸収できた実りあるフォーラムであった。

南フロリダ大学（アメリカ合衆国）の施設視察及び教育交流の話し合い （2024年1月27日－2月3日、2024年2月5日）

2024年1月27日～2月3日の日程で、岐阜大学医学部と部局間学術交流協定を結んでいる南フロリダ大学（以下、「USF」という。）医学学群を訪問した。USF 医学部の世界最大の先進医療教育シミュレーションセンター（以下、「CALMS」という。）を訪問し、実際にシミュレーションに触れながら、そこで行なわれているさまざまな研修会についてお聞きした。CALMS と医学教育開発研究センター及び地域医療医学センターが、MOU 締結を行った。また看護学部や公衆衛生学部も訪問し、それぞれの施設見学や教職員との意見交換も行った。看護学部のシミュレーションセンターも見学し、充実した施設や教育プログラム、スタッフの配置に感銘を受けた。

またオーナーズカレッジ・公衆衛生学部の学生40人程度が、2024年度5月に研修のため来日する予定で、その際に医学科1年生との授業交流を計画している。その授業担当の Atsuko Sakai 助教と打ち合わせも行った。

さらにわれわれが訪問した後 CALMS の Okuda センター長が来日いただき、2024年2月5日にポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業のシンポジウム（名古屋大学）にてシミュレーションを用いた医療者教育についてご講演いただいた。



4. 工学部

スブラス・マレット大学（インドネシア）への訪問 （2024年3月25日－2024年3月31日）

山田 啓介 准教授（工学部）は、2023年度 協定大学開拓・関係強化事業の支援を受け、2024年3月25日から3月31日に大学間学術協定校のインドネシア、スラカルタ（ソロ）にあるスブラス・マレット大学（以下、「SMU」という。）に訪問し、ポストコロナにおける国際協働教育に向けて現状把握と今後の発展に向けて、各担当者と意見交換を行った。初めに、Ahmad Yunus 副学長と Sholihin As'ad 工学部長をそれぞれ訪問し（写真1）、意見交換を行った。

3月28日にはSMU 工学部にて、本学 Advanced Global Programs（以下、「AGP」という。）修了生の Pringgo Widyo Laksono 先生と Feri Adriyanto 先生の企画のもと、本学の自然科学技術研究科（修士課程）と工学研究科（博士課程）の国際協働教育プログラムである AGP の内容について紹介し、SMU 工学部の学生に向けて情報発信を行った（写真2）。加えて、「Nanomagnetic materials and their applications for developing spintronic devices」という題目で、研究内容についても講演を行った。参加者は、学生や教員を合わせて、会場で105名、オンラインで133名と数多くの聴講があり、多くの質問を得た。本学の国際協働教育プログラムや研究に対する興味と熱意をSMU 学生から感じ取ることができた。その他にも、SMU にある施設の「岐阜大学海外オフィス」を訪れ、2025年度春に AGP 修士課程進学希望の学生に説明を行い、質問に答えた。

今回の訪問では意見交換を数多く行ったことやSMU の多数の学生と交流したことで、大学間学術協定校における国際協働教育の課題・改訂点を検討するきっかけを得ることができた。今後も国際協働教育の活発化に向けて努めていきたいと考えている。

本訪問は、SMU の Komariah Kokom 先生と本学の リム リーワ先生のご尽力により実現しました。心より感謝申し上げます。



写真1：Sholihin As'ad 工学部長（左から2番目）との意見交換会。左：Komariah Kokom 先生、右：Pringgo Widyo Laksono 先生、右から2番目：山田 准教授



写真2：講演会後の聴講学生を含めたグループ写真

「Home-coming 短期滞在と研究強化」事業（11月、2024年3月）

本学部は「工業倶楽部」（工学部の同窓会組織）の支援により、工学研究科の修了生で、現在母国にて大学教員として勤務している元留学生を、2022年度に引き続き、本年度も招聘した。本事業は、設備不足などのため、帰国後に研究活動を継続することが困難な状況にある修了生を home-coming 短期招聘し、一層の関係強化を図るとともに、共同研究の活性化及び学生間の交流強化に繋げることが目的である。本年度は、インドネシアの Ahmad Dahlan 大学（ジョグジャカルタ市・ジャワ島）の Rahayu Aster 講師及びアンダラス大学（パダン市、スマトラ島）の Furqani Firda 講師が、それぞれ、4週間（2023年11月）及び2週間（2024年3月）滞在した。

Rahayu Aster 講師は、同僚1名及び大学院生2名と共に来日し、大学院生は2ヶ月間滞在し、実験を行うだけでなく、名古屋工業大学で開催されたキャピラリー電気泳動学会で研究発表も行った。さらに、その内の1名は、2024年度秋季、工学研究科を受験予定である。



大学院生



三重研修（伊勢神宮）

5. 応用生物科学部

海外留学相談会の開催（6月29日）

応用生物科学部グローバル推進室では、海外留学促進のため6月29日に海外留学相談会を対面で開催した。

本相談会は、学部、修士、博士学生向けに例年開催しており、本年度は、各種留学プログラム（ESL 及び EST、JASSO による研究留学、ジョイント・ディグリープログラム（以下、「JDP」という。））についての説明の後、4名の留学経験者（カナダ（ESL）、オーストラリア（ESL）、インド（JDP、スプリングスクールプログラム））との懇談会形式での質疑応答が行われた。当日の相談会の様子や、留学経験者へのインタビューを動画として記録し、後日オープンキャンパスで来場者に投影するとともに学部 HP 上でも公開し留学希望者に向けて広く情報を周知した。次年度以降も、学生が各種海外留学制度に触れる機会を積極的に設けていく予定である。



中国広西大学との合同研究シンポジウム「Guangxi University - Gifu University the 3rd Joint Research Symposium」開催（10月28日）

応用生物科学部は、広西大学（中国）との合同研究シンポジウム「Guangxi University - Gifu University the 3rd Joint Research Symposium」を10月28日にオンラインで開催した。

本学部の光永 徹 学部長による開会挨拶に続き、広西大学から2名の教員（Xiaogang WU 副教授と Jisen ZHANG 教授）及び本学部から3名の教員（日巻 武裕 助教、小林 佑理子 准教授、鈴木 史朗 准教授）が研究内容を紹介し、意見交換を行った。研究発表後は、修士ダブルディグリープログラム（DDP）の説明及び同プログラムにより本学へ留学中の学生による報告を行った。広西大学学生からの質問やコメントからは、日本への留学の関心の高さがうかがえた。

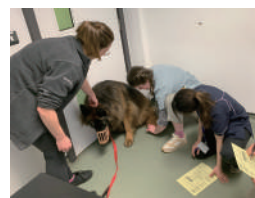
本シンポジウムはオンラインでの開催となったが、今後の研究・学生交流の可能性を確認する充実した機会となった。今後もこうした取り組みを両大学で協力して継続していく予定である。



国際獣医学インターンシップ演習（2024年3月4日 - 2024年3月8日）

応用生物科学部共同獣医学科では専門科目（選択）として、5年生後期に国際獣医学インターンシップ演習を開講し、ケンブリッジ大学附属動物病院（イギリス）での研修を実施している。本演習では、臨床獣医学に対するグローバルな視点を養うとともに、海外でのコミュニケーション能力を高めることを目的としており、3年ぶりに現地に訪問できた今年度は学生4名が参加した。

ケンブリッジ大学の獣医学生は附属動物病院の各診療科（内科、軟部外科、整形外科、神経科、腫瘍科、馬診断科、麻酔科など）を数週間ずつローテーションし、臨床実習を行っている。岐阜大学（以下、「本学」という。）の学生は5日間にわたり各自が希望する診療科の臨床実習を経験した。本学の学生たちも研修を通じて能動的に学習することの重要性を感じたようで、研修中自発的に疾患について調べ、研修先のレジデントや学生に質問する様子が見受けられた。グローバルな視点を養うという点以外にも、学習に対してより積極的な態度を引き出せたという点で、今回の演習は大変有意義であった。



6. 社会システム経営学環

フエ大学（ベトナム）の学生と観光プランを作成し現地でプラン検証 (2024年3月5日－2024年3月14日)

社会システム経営学環専門科目「観光デザイン実習」において、フエ大学観光学部（ベトナム）の学生らと共に「日本の若者をフエ誘致するフエ滞在型の3日間観光プラン」案をオンライングループワークで作成し、現地でプランの検証をした。

現地実習ではフエ市に2024年3月5日～3月14日までの10日間滞在し、フエの観光資源を探索すると共に自分たちが考えたプランの検証を行った。また、滞在中にフエ省人民委員会・観光局から同省の観光資源や現在の観光客の動向等を詳しく説明いただいた。最終日には、両大学学生間でブラッシュアップしてきた観光プランを発表会で提案した。アウトバウンドを経験したことにより、国際的な多様な価値を体験すると共に、日本国内観光への課題も振り返ることができた。今後も両国の観光交流が発展していくことを期待している。



7. 連合農学研究科

「IC-GU12 Roundtable 2023」等を開催（11月8日）

岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）は、11月8日（水）に、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（日本を含む南部アジア地域9カ国20大学）（以下、「IC-GU12」という。）による「IC-GU12 Roundtable Meeting 2023」（農学系博士教育国際連携円卓会議）（以下、「ラウンドテーブル」という。）を含む3つのイベントを開催した。

ラウンドテーブルでは、リエゾン教員等29名（対面16名、オンライン13名）が出席し、キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）の新規加盟や、加盟校とのダブルディグリープログラムの今後の方向性に関する議論などが行われた。

次に「IC-GU12 Joint Lecture Series 2023」（以下、「Joint Lecture」という。）では、ポストハーベスト工学をテーマに、Chairat Techavuthiporn 准教授（タイ・キングモンクット工科大学ラカバン校）、Pongphen Jitareerat 准教授（タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校）、Khandra Fahmy 准教授（インドネシア・アンダラス大学）、馬剛助教（静岡大学）が講義を行い、IC-GU12の学生を中心に対面で42名・オンラインで27名が聴講した。

最後に、本学流域水環境リーダー育成プログラムとの共催で行った「UGSAS-GU & BWEL Joint Poster Session on Agricultural and Basin Water Environmental Sciences 2023」では、学生19名によるポスターセッションを開催し、最優秀発表2名、優秀発表3名の表彰を行った。

ラウンドテーブルではコンソーシアムの今後のあり方に関する貴重な意見が得られ、Joint Lecture では熱心に質問する学生の姿が見られた。また、ポスターセッション受賞者から「コロナ禍では難しかった対面での意見交換を行うことができてよかった」「苦楽をともにしている仲間みんなのおかげで賞を取ることができた」と喜びのコメントが寄せられるなど、全体を通して有意義な一日となった。

今後も、コンソーシアム加盟校との協力を深め、新たなプロジェクトや共同研究の展開を見据えた国際的な研究交流を促進していく。



ラウンドテーブルの様子



Joint Lecture での Pongphen Jitareerat 准教授（キングモンクット工科大学トンブリ校）の講演



ポスターセッションの様子

8. 保健管理センター

南フロリダ大学との交流

岐阜大学と南フロリダ大学（University of South Florida; 以下、「USF」という。）は2016年に医学部・保健管理センターと部局間協定、2020年に大学間協定締結となった（「南フロリダ大学との交流」56～64頁参照）。山本 眞由美 教授（保健管理センター長）は、大学間協定のリエゾンを担当しているため、2023年度の保健管理センターと USF の交流を以下にまとめる。

USF 公衆衛生学部学生16人が来訪（5月15－5月18日）

教職員3人を含む総勢19人が5月15日に岐阜着。翌16日には岐阜城、岐阜大仏、うかいミュージアムなど歴史視察の後、本学医学科学生9人とともに鶴飼観覧船乗船と、学生の交流が深まった。17日は、山本保健管理センター長の講義「日本の医療保険制度について」の後、吉田 和弘 岐阜大学学長から挨拶と記念品授与、写真撮影、昼食時には邦楽部による琴・尺八・三味線の演奏を聴き、午後は看護学科3年生と医療英語実習の合同講義を実施した。医療英語担当の佐々木 彩子 准教授（医学部看護学科）の指導のもと、看護学生とUSF学生でグループを作り、英語で医療問診を聴取するロールプレイを実践した。その後、武道場へ移動して空手部、居合部の練習風景を見学。USFの学生にとっては、日本の伝統的武道がとても印象深かったようで感激していた。18日は郡上八幡国際友好協会の御支援により、郡上八幡小学校を訪問した。食育の講義を受けた後、給食準備を見学、給食を実際に食べ、掃除も小学生らと一緒に体験。米国ではこのような教育が無く、USFの学生らはとても感慨深げにしていた。地域のお囃子クラブのご協力で、ユネスコ世界無形文化遺産になった郡上踊り体験を小学5、6年生と挑戦。皆で踊りが盛り上がった時には、本当に感動的であった。USFの学生にとっても郡上八幡の小学生たちにとっても忘れられない思い出になったと思う。



琴・尺八・三味線の演奏



空手部、居合部の練習風景を見学

USF 公衆衛生学大学院生が保健管理センターへ研究留学（6月7日－7月10日）

公衆衛生学部修士2年生の Emma Underwood 氏が5週間、堀田 亮 准教授（保健管理センター）の指導の下、研究に打ち込んだ。本学学生のメンタルヘルス調査データの解析に取り組み、この成果論文は査読付き国際英文雑誌に掲載された（DOI:10.3390/healthcare12090902）。

USF 医学教育シミュレーションセンター奥田所長来訪（6月21－23日）

6月21日には、USF が誇る世界最大の医学教育シミュレーションセンター（Center for Advanced Medical Learning and Simulation; 以下、「CAMLS」という。）の奥田所長に特別講演「医療教育と体験学習の将来（The Future of Healthcare Education and Experiential Learning）」をお願いする機会に恵まれた。医学部関係者50人以上が参加し、活発な質疑応答があった。酒井 教授（USF オナーズカレッジ）も参加され、吉田学長、西城 医学教育開発センター長、牛越 地域医療医学センター長らと医学教育における今後の両大学の連携について議論が進んだ。奥田所長には、本学の医学シミュレーション教育棟や救急災害医療施設を視察いただき、情報交流を深めることができた。

吉田学長が USF を訪問、CALMS と協定締結（2024年1月29日－2024年2月1日）

吉田学長以下13人がUSFを訪問し、学部、大学院、ポスドク、教職員、あらゆるレベルでの交流を活性化すべく、USFのLaw学長と懇談。現在の医学部中心の交流に加え、大学院生の短期留学やオンラインプラットフォームによるバーチャル共修、サマースクール交換留学、ポスドク留学などの交流発展の可能性について議論が深まった。さらに、CAMLSと本学の協定が締結された。（署名者：吉田 和弘 岐阜大学学長）

堀田准教授の短期研究留学（2024年1月3日－2024年3月16日）

堀田准教授は、岐阜大学若手・中堅研究者海外研修プログラムの助成を受け、2024年1月3日から3月16日までUSFに短期研究留学した。Department of Child and Family StudiesのChih-Chin Chou博士のもとで研究活動に励み、新たな共同研究が開始された。また、カウンセリングセンターや障害学生支援室、心理学部も訪問し、研究と臨床実践の交流を深めた。



Chih-Chin Chou 博士と堀田准教授



Department of Child and Family Studies のメンバーと

Ⅲ．大学の国際化と学生支援

新たな国際展開へ向けて

副学長（国際、情報、評価（副））
神原 信志

1. はじめに

アフターコロナに移行した令和5年度は、国際交流の再開とともに新たな国際展開を迎えた年と言えるでしょう。インド工科大学グワハティ校（IITG）及びマレーシア国民大学（UKM）とのジョイント・ディグリープログラム（JDP）を基盤として、グローバル推進機構の教職員及び全学総勢70名にもものぼる兼務教員の熱意ある協力を改めて感謝する次第です。

岐阜大学の国際化は、わずか5年前、平成31年設置のグローバル推進機構の活動から本格化したと言えますが、COVID-19で出鼻をくじられました。それでもコロナ明けの令和4年には、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択、そして全国大学JDP協議会を発足し会長校を拝命する等、非常に積極的な活動を展開しています。それは本書第Ⅰ章、第Ⅱ章の活動記録からもわかるかと思います。

私は、令和4年、5年と2年間、国際担当副学長として多様な国際活動に関わることになりましたが、それらの経験で感じたこと、また今後の国際活動へのエールを送る思いを、ここに書き留めたいと思います。

2. 国際交流のスタイル

国際交流のスタイルとして、教員個人あるいは研究チームによる国際共同研究は最も一般的であり、目的や意義も明確です。しかし、中心的な研究者が定年などで役割を遂げると、往々にして交流は消極的になります。一方、ジョイント・ディグリープログラムのように、学生の教育を目的とする国際交流は、継続的な連携が担保され末永い交流となることから、理想的な国際交流のスタイルの1つと思います。

もう1つ、思いがけなく新しい交流スタイルがあることを知りました。古田岐阜県知事から吉田学長への依頼により、ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使の本学訪問を迎えました（2023年5月2日、訪問の様子は岐阜大学国際交流 NEWS Letter No.55, 2023を参照ください）。岐阜県は、2005年「愛・地球博」の展示品を「世界イベント村ぎふ」の秋祭りで出展したことがきっかけでモロッコと交流が始まり、2022年10月には岐阜県とモロッコ王国の友好交流のシンボルである「モロッコガーデン」が、ぎふワールド・ローズガーデン内に整備されました（写真は岐阜の旅ガイド HP より転載）。ラシャッド・ブフラル大使は、モロッコの首都にあるラバト国際大学と本学との交流を提案され、2023年12月、吉田学長、私、吉野工学部教授、小林国際事業課長で訪問を果たしました。次の写真は、ラバト国際大学での交流セッションの様子ですが、学長はじめ副学長や学部長など多くの先生方と深く交流することができました。2024年度中には大学間学術協定を締結し、学生交流や共同研究へと発展すると思います。



ゼリージュタイルで装飾されたモロッコガーデン（岐阜の旅ガイド HP より）



ラバト国際大学での交流セッション



ラバト国際大学の先生方と

このように、自治体の国際交流をパイプとして大学間交流に発展するケースは、リトアニア（ヴィータウタスマグナス大学）に次いで2件目と思いますが、このような取組は継続性ある交流となるとともに、地域貢献という観点から本学の役割を果たすことにもつながります。

これまでの大学間国際交流は教育研究が主体であり、本学では工学部と応用生物科学部、医学部が担っています。モロッコやリトアニアとの交流を通じて思うことは、自治体を交えた国際交流を進めることで、文化面での交流もでき、継続的かつ強力な関係を容易に築けることです。文化交流という観点では、地域科学部や地域協学センター、教育学部の国際交流も可能になります。

本学の国際展開は5年前に比べると相当に進展したとはいえ、地域中核大学という位置づけを考えると、まだまだ拡大する必要があります。「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ＜J-MIRAI＞（第二次提言）」では、日本人学生の派遣増、外国人留学生の受入れ・定着増及び教育の国際化高度化を目標に掲げていますが、教育研究面のみならず、自治体との協働による国際展開は、J-MIRAI 目標に貢献する効率の良い方策になるのではないのでしょうか。

南フロリダ大学との交流



保健管理センター・教授 / センター長
大学院連合創薬医療情報研究科医療情報学専攻・教授
医学部附属病院糖尿病代謝内科・併任教授
山本眞由美

南フロリダ大学 (University of South Florida、以下「USF」という。) は、岐阜大学 (以下、「本学」という。) の米国における協定大学のうち最大 (学生約 5 万人) の州立大学です。全米の研究重点大学上位 50 校 (National

Science Foundation)、「best buy college」上位 40 校 (Forbs) 及び近年の有望大学上位 5 校 (U.S. News & World Report 2012) にランクインした注目株の大学です。カーネギー財団からは、「高レベルの研究とコミュニティーに根付いた質の高い教育を提供する」大学の称号 (全米 25 大学のみ) を受けています。USF は、1956 年フロリダ州タンパ市に設立され、1964 年大学院設置、1971 年医学科開設と比較的新しい大学ですが、Research Institute University であることを積極的にうち出し、2022 年には全米トップ 100 大学にランクイン、公立大学では常にトップ 50 にランクインしています (US News & World Report)。

さて、USF と本学は 2016 年に部局間協定 (USF HEALTH と岐阜大学医学部・保健管理センター) を締結。2018 年には医学部の交換留学協定により、本学の医学科 5 年生が 4 週間、タンパ総合病院で臨床実習留学 (単位互換あり) できるようになりました。この実績から 2020 年に大学間協定を締結、2024 年 1 月には吉田 和弘 岐阜大学学長が USF を訪問し USF が誇る世界最大の医学教育シミュレーションセンター (Center for Advanced Medical Learning and Simulation、以下、「CAMLS」という。) と連携協定締結となりました (表 1)。両大学の交流の歴史は、30 年以上に及びますので代表的な出来事を表 1～4 にまとめました。その中で印象的な出来事をいくつか紹介したいと思います。

1. USF との交流 黎明期 (1980 年代～)

1980 年代後半、医学部第三内科の石塚 達夫 先生 (現、岐阜大学名誉教授) が USF 医学部内科学教室の Dr. Robert U. Farese の研究室へポスドク留学なされたことが、本学と USF の長い交流の礎です。その後、同研究室へ山田 浩司 先生、加納 克徳 先生、三浦 淳 先生が、同じ建物の Dr. Celso E. Gomez-Sanchez の研究室に山北 宜由 先生が、Dr. Denise R. Cooper 研究室には筆者も留学しました (表 2)。3 年間の留学中は、グラント申請から論文執筆まで、すべて自分でやらせてもらえ実力をつけることができました。Dr. Cooper は、女性教授として筆者の良きロールモデルであり、インドからの PhD 留学生だった Dr. Niketa A. Patel と 3 人でよく学会へ行きました。京都で国際学会があった際は、2 人に来岐してもらい本学の連合創薬医療情報研究科でセミナーを企画したことも思い出です。昨年 Dr. Cooper は引退 (米国は年齢による差別を禁じているので引退年齢は自分で決める) しましたが、その後の研究室は Dr. Patel が引き継いで発展させており、Dr. Patel は、本学の大学院生ならいつでも留学を受け入れると言ってってくれています。尚、筆者は、留学中に MBA for physician (臨床医のための経営学修士) を卒業しましたので USF の同窓生でもありますから、本学と USF の大学間協定リエゾンを仰せつかっております。

2. 視察・情報交換 (2008 年～)

本学は、2007 年から 4 年間、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」(文科省) に「生涯健康を目指した学生健康支援プログラム」が採択されたため、この取り組みを遂行するために、筆者は 2008 年 1 月 7 日に、医学部医学科の学生支援担当教授である Dr. Steven Spector にお会いし情報交換させていただきました。医学科はストレスの大きい学部であるため、学生の窓口を多く設けており、Dr. Spector 以外にも、

専任の臨床心理士と学生アドバイザーが常時対応し、さらに学外の営利会社と契約して心理士が学生からの相談電話に24時間対応する体制を整え、ウェルネスニュースレターを発行して学生の自己管理能力向上にも努めているとのことでした。全米の医学部は「学生が十分に運動できるフィットネスセンターと、休養できるラウンジを学内の便利な場所に設けていること」が設置基準にあるそうで、医学生のための素晴らしい設備を視察しました。教育資質向上プログラムを受けてトレーニングした教員25～30人が学生アドバイザーを担っており、この経験は教員評価の際に重視されるとのことで、教員参加型の学生支援体制の構築を考える際、大変参考になりました（表2）。この視察実現のために Dr. Spector を紹介してくださったのは、1985～2003年に USF 細菌学教室にいらっしゃった山本 容正 先生（現、大阪大学名誉教授、岐阜大学客員教授）です。



左) USF 医学部のフィットネスセンター 右) USF 医学部のリラクゼーションスペースラウンジ

2009年1月26日～1月27日には、本学の学生相談体制向上のために USF のカウンセリングセンターを保健管理センターの佐渡 助教とともに見学しました。精神科医4人、心理士10人及びソーシャルワーカー2人という充実した人員と多彩な支援内容に感心しました。心理療法や精神医学的診断、アセスメントを行う「Counseling Services」、ワークショップの開催や教員研修、学部へのコンサルテーションを行う「Workshop and Outreach Services」、薬物脱却のためのプログラムを企画しピアサポートを運営する「Center for Addiction and Substance Abuse」、軍隊入隊者への授業料免除や兵役から大学へ戻ってきた者をサポートする「Veterans Services」及び教職員対象のセミナー開催やカウンセリングを行う「Employee Assistance Program」など。教育学部心理学科の Psychological Services Center も訪問し、有料心理カウンセリングサービスと心理士養成の実態も詳しく知ることができました。面接のビデオ記録や、ワンサイドミラーによるスーパービジョンなど、日本とは違う心理カウンセラーの訓練施設も視察しました。この時、視察実現のために尽力くださったのは、USF 心理学部の清水 透 先生（現、副学部長）で、今も、本学から留学する学生の面倒を見てくださっています。

3. 部局間協定（2016年10月20日）と医学交換留学協定締結（2018年3月6日）

USF 公衆衛生学部長 Dr. Dona Petersen が来日し、2016年10月20日本学医学部長室で部局間協定署名が行われた後（表1）、両大学の交流は急速に進みました（表2）。

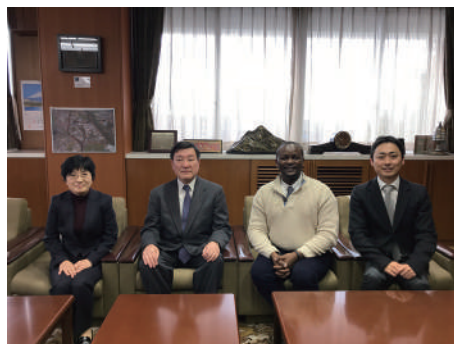
まず、学生の交流の可能性を探るために2017年8月7日～8月11日、看護学科の田島 准教授と筆者が USF を視察しました。USF は大学戦略として国際プログラム確立に注力しており、公衆衛生学部生（10-20人、5日間）やオナーズカレッジ学部生（15人程度、数日）の本学訪問、公衆衛生学修士大学院生研究留学（1-2人、2ヶ月程度）と明確な提案が示されました。本学側も、医学科5年生の学外臨床実習（4週間）の実現を強く要求しました。この時、医学部長だった Dr. John Sinnott は、「最近、タンパ総合病院の見学プログラムには中国、インド、タイからたくさん来ているので、（同盟国の）日本からも医学生に来てほしい」とおっしゃっていたことは印象的です。副学長補佐の Dr. Lynette Menezes は、Dr. Sinnott の研究室にいたため、本学との関係強化の使命感に燃えてくれたようでした。

一方、USF 公衆衛生学部からは Dr. Matawal Makut が2018年1月7日～1月13日、学部生の日本短期研

修の具体的な下見をするために来日。トヨタ産業技術記念館、ノリタケの森、徳川美術館、本学来訪（学長・副学長・医学部長表敬訪問、看護学科、附属病院見学）、岐阜城、鶯飼ミュージアム及び希望が丘こども医療福祉センター・希望が丘特別支援学校見学、と精力的に視察し、5月のプログラム実現を約束しました。



左) 鈴木副学長（当時）室表敬訪問



右) 森脇学長（当時）室表敬訪問

このような教員の相互訪問を経て、2018年3月6日に医学部医学科生の交換留学協定（クラークシップ協定）が締結となりました（表1）。本学医学科5年生はタンパ総合病院で4週間のベッドサイド臨床実習に、USF 医学部2年生は本学で4週間の研究実習に、授業料相殺で参加できるようになったのです。当初は2人枠でしたが、現在は5人枠にまで拡大しています。医学科のカリキュラムには学外臨床実習が必修単位で、海外での実習経験を希望する学生は少なくありません。これは世界的に同じ状況ですから、海外（米、英、加、豪など）の教育病院施設では、医学生のための臨床実習プログラムを有料で世界に向け公開募集しているところがあります。本学の医学生もこれに応募している学生がいますが、希望通りに行けるとは限りません。このような現状の中で、5人枠が保証され、かつ教育レベルも保証され、受け入れ側USFの状況も本学が良く承知しており、そして高額な実習費用が学費相殺免除になる点は本学の医学科にとって大きなメリットです。一方、USF 医学生も本学医学科で臨床見学と研究に4週間滞在します。データ解析や論文作成に参加し、査読付き国際医学雑誌に筆頭著者あるいは共著者になるという成果を積んでいます。

4. 公衆衛生学部生、オナーズカレッジ学部生の来日、来岐（2018年～）

2018年5月22日～5月25日、USF 公衆衛生学科学生17人（教員1名）を迎えました。多くの学生はメディカルスクールやロースクールなどの大学院進学を希望しており、学部生時代に国際体験学習を経験することは進学の際に有利になるそうです。日本でなければ経験できない内容となるよう工夫しました。医学部看護学科の講義「医療英語」（看護師—患者間のロールプレイに模擬患者役として参加）、「日本の医療保険制度」（筆者）、「日本の減災・防災対策」（流域圏科学研究センター 小山 准教授）の講義、医学部箏曲部演奏とランチタイムパーティ、長良川鶯飼体験及び医学部附属病院見学等を通して、総勢150名に及ぶ本学学生・教員との交流を深めました。例えば、医療英語では、USF 学生にあらかじめ、住所、氏名、症状、生活習慣及び既往歴等が記載されているシナリオを渡して患者役を担ってもらい、看護学生は、普段の授業で学んでいる医療英語を用いて聞き取り、実際に病院で使用されているのと同じ診療申込書や問診票に記入するまでを実践しました。また、我国の国民皆医療保険制度における強み（平等性、安定性、フリークセス、高度な質及び適正価格と自己負担額免除制度）についての体系的な講義では、米国の制度を考える機会をUSF 学生に与えたようでした。さらに学外では、岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター・希望が丘特別支援学校を見学。郡上市立八幡小学校も訪問し、日本の学校給食や校内清掃を小学生と共に体験するなど、多彩な内容を準備することができました。看護学科、郡上八幡国際交流協会など多くの方々にご協力いただいたお陰です。2019年5月の実施では、USF 公衆衛生学部11人（教員2人）とオナーズカレッジ学部生20人名（教員2人）の参加でした。訪問の目的も「日本の文化や生活環境を体験し、国際的な視野で医療や福祉、看護、教育等について考える能力を養う」と明確になりました。コロナ禍の3年間は休止期間がありましたが、これを乗り越え、現在まで、このプログラムは順調に継続されています（表4）。USF の参加学生と引率教員

の評価・満足度がとても高かったことは言うまでもありませんが、本学学生や郡上八幡小学校の生徒さんと先生方からも“貴重な体験機会であった”との声を伺っており、継続のエネルギーをもらっていると思います。



左) ウェルカムランチパーティの様子



右) 南フロリダ学生と本学看護学科学生

5. 大学間協定締結（2020年12月15日）

2020年新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的パンデミックにより、国際交流活動は危機的状況に陥りました。本学も4月～5月と閉校となりました。が、その時 USF の Stemen C. Currall 学長から森脇学長（当時）へ「この危機を乗り越えて、国際交流が自由にできる日を楽しみにしている」という手紙が届きました。これを機に、大学間協定締結に進みました（表1）。今後のリエゾンの活動を支えるために、筆者は USF HEALTH の客員教授にプロモートし、2022年9月に採用されました。

USF からの短期（4～8週間）研究留学生も順調に継続しています（表3）。Ms. Mausam Mehta は大学生の栄養摂取に関する研究、Ms. Cathelencia Wanna Francisque は大学生の脂肪肝に関する研究、Ms. Natalie Nagib と Ms. Emma Underwood は大学生のメンタルヘルスに関する研究で国際査読付き雑誌に論文採択されました。日本観光もできて、論文も書けるというわけで、USF の短期留学プログラムの中でもとても人気があると聞いています。

コロナ禍後2023年からは、本学医学科5年生のタンパ総合病院での臨床実習参加も再開となりました。USF 公衆衛生学部からの日本体験学習も5月16日～5月18日に学生16人と教職員3人が来日しました。岐阜城、岐阜大仏、鶯飼ミュージアム、鶯飼、講義、学長表敬訪問、邦楽部演奏、看護学科3年生と医療英語実践及び郡上市立八幡小学校（給食、お掃除）のプログラムは完全復活しました。復活後新たに、郡上八幡国際友好協会と市内お囃子クラブのご厚意により、小学校の体育館で郡上踊り春駒に挑戦することができ、感動的な盛り上がりでした。また、本学の空手部と居合部が練習を披露してくれ、USF 学生の歓喜の声が上がりました。



左) 邦楽部演奏



中央) 学長の挨拶



右) 学長から記念品贈呈

6. CAMLS 奥田センター長特別講演（2023年6月21日）

USF の世界最大 CAMLS は既に有名でしたが、新しく所長に日本人の奥田 康晴 先生（幼少期に米国へ移住された）が就任されたとのことで、USF リエゾンの Mr. Jesse Casanova が筆者に紹介してくれました。本学にはわが国唯一の全国共同利用施設「医学教育開発センター（Medical Education Development

Center；以下、「MEDC」という。）がありますから、早速2022年8月に見学に行ってきました。このご縁で2023年6月22日に本学で特別講演をお願いすることができました（表2）。ちょうど帰国していらしゃったオナーズカレッジの酒井 教授も参加してくださり、本学のMEDC（西城センター長）、地域医学医療センター（Center for Regional Medicine；以下、「CRM」という。、牛越センター長）との出会いもあり、教育・研究の両分野で交流が深まったため、本学とCAMLSの連携協定実現となりました。



7. 吉田学長のUSF 訪問、本学とCAMLSの協定締結（2024年1月29日）

2024年1月、吉田 学長以下総勢13人が本学からUSFを公式訪問し、空港への出迎えから、公式夕食会など、至れり尽くせりの歓待をうけました。13人それぞれの専門分野を満たすよう、様々な関係者への訪問や懇談を設定してもらえ、国際交流にける意気込みはもちろん関係者の意識の高さ、そしてそれを裏付ける豊富な予算背景に学ぶところ大でした。

2024年1月29日、本学とCAMLSの連携協定締結式が行われ、吉田 学長と奥田 センター長に加え、Charles Lockwood 医学部長も署名し、USF HEALTH 医学部としても並々ならぬ関心を寄せてくださっていました。特に、本学へ短期留学したUSF医学生は皆、国際雑誌論文に名前が載っているという実績も高く評価してくれたとのことでした。



左) CALMS 訪問写真



右) 本学とCAMLSのMOU締結



左・中央・右) MOU締結の様子

翌1月30日には、USFのLaw学長を表敬訪問しました。USFからは毎年7200人の学生を国際体験に送り出しているものの、日本の協定校で国立総合大学は本学のみであるから、本学との関係を大事にしたいと訴えられました。また、本学が既にインドと確立しているダブルデグリープログラムにも強い興味を持っているとのことでした。この表敬訪問には、前医学部長のDr. Sinnott（現、副学長）とUSF国際化を仕切るDr. Kiki Caruson 副学長、奥田CAMLS所長、オナーズカレッジの酒井教授も同席し、どんどん議論は膨らみ、ついに、Dr. Sinnottのタンパ市と岐阜市が姉妹都市になったらどうだろうか（どちらも人口40万人程度でベストマッチ）という発案に至ったほどです。



左) USF 学長室訪問



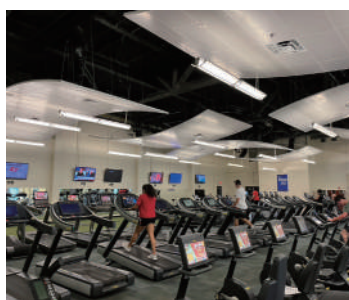
右) 吉田学長と Law 学長

今回の訪問では、メディカルスクール、タンパ総合病院、マフィット癌センター、アルツハイマー研究所、USF World、オナーズカレッジ、公衆衛生学部、看護学部、分子生物学研究部門、リハビリテーションロボット研究所、工学部、メンタルヘルスカウンセリングセンター及びウェルネスセンターとリクリエーションセンターを含む学生支援部門、などなど様々な分野を視察訪問しました。グローバル推進副機構長の嶋教授は工学部で特別セミナーもなさり、ちょうど保健管理センターの堀田准教授がメンタルヘルスカウンセリングセンターへ留学中であつたので、詳しい案内もしてもらいました。USF の日本語クラスの野津先生ともお会いし、早速、USF の学生を岐阜大学のサマースクールに送っていただくことになりました。学部教養教育の生化学教授である Dr. Meera Nanjundan からは、異文化交流学習 (Virtual International Exchange) の提案がありました。Web 上に学習プラットフォームを作り、参加学生が自由に書き込みをして議論を重ねるバーチャル国際共修です。書き込みが主体であるため、時差に関係なく、会話が得意でない日本人学生にも深みのある議論に参加することができ、文科省が期待する国際共修に合致する学習方法で、是非実現させたいと計画を進めているところです。このように、実際に訪問して議論し、現地の雰囲気、施設を見聞したことにより、USF との交流は両大学にとって有益であることを確認しました。今後は、学部、大学院、研究者、教員とあらゆるレベルでの交流が可能であり、全学的に共修を進めていけるものと確信しております。

本学のみなさまの御理解と御支援・御協力を賜り、益々両大学の交流が発展することを期待して、本報告を終わります。



左) ウェルネスセンター



中央) リクリエーションルーム



右) リクリエーションルーム剣道



左) 分子生物学研究部門訪問



右) 酒井教授、嶋教授、野津教授の懇談



南フロリダ大学と岐阜大学の交流の歴史

表 1 協定締結 (USF; University of South Florida, GIFU; Gifu University)

2016年10月20日	部局間協定 リエゾン：山本教授 (HAC)	GIFU 医学部及び HAC と USF メディカルスクールとの間で協定 USF HEALTH: Charles J Lockwood, MD (Senior Vice President, USF Health) USF HEALTH: Donna Peterson, ScD, MHS, CPH (Dean, USF College of Public Health) USF HEALTH: Lynette Menezes, PhD (Assistant Vice President International, USF Health) GIFU: Shinya Minatoguchi, MD, PhD (Dean, School of Medicine, GIFU) GIFU: Mayumi Yamamoto, MD, PhD, MBA (Director, HAC, GIFU)
2018年 3 月 6 日	医学交換留学協定 リエゾン：今福講師 (MEDC)	GIFU 医学生がタンパ総合病院で 4 週間臨床実習、USF 医学生が GIFU 医学科及び HAC で 4 週間研究留学 USF HEALTH: Charles J Lockwood, MD (Senior Vice President, USF Health) USF HEALTH: Lynette Menezes, PhD (Assistant Vice President International, USF Health) GIFU: Fumiaki Suzuki, PhD (Executive Director/Vice President, International Affairs and Public Relations, GIFU) GIFU: Shinya Minatoguchi, MD, PhD (Dean, School of Medicine, GIFU) GIFU: Mayumi Yamamoto, MD, PhD, MBA (Director, HAC, GIFU)
2020年12月15日	大学間学術交流協定締結 リエゾン：山本教授 (HAC)	大学院医学系研究科(申請部局)、連合創薬医療情報研究科(協力部局)、医学部附属病院(協力部局)の申請により締結 USF: Charles Adams, PhD (Dean, Judy Genshaft Honors College, USF) USF: Kiki Caruson, PhD (Interim Vice President, USF World) GIFU: Hisataka Moriwaki, MD, PhD (President, GIFU)
2023年 6 月 1 日	医学交換留学協定 リエゾン：今福講師 (MEDC)	2018年 3 月 6 日の医学交換留学協定を更新 USF HEALTH: Charles J Lockwood, MD (Vice President USF Health, Dean, Morsani College of Medicine, USF) USF HEALTH: Lynette Menezes, PhD (Assistant Vice President International, USF Health) GIFU: Shinji Kambara, PhD (Vice President, International Affairs, Information and Evaluation, GIFU) GIFU: Shun Yamaguchi, MD, PhD (Dean, School of Medicine, GIFU) GIFU: Mayumi Yamamoto, MD, PhD, MBA (Director, HAC, GIFU)
2024年 1 月29日	連携協定 リエゾン：牛越教授 (CRM)	GIFU と HPCC と CAMLS との間で連携協定を締結 CAMLS: Yasuharu Okuda, MD (CEO, USF HPCC, CALMS) Acknowledged: Charles J Lockwood, MD (Executive Vice President USF Health) GIFU: Kazuhiro Yoshida, MD, PhD (President, GIFU)

表 2 各種教員の交流

1988年～留学	石塚達夫 (岐阜大学名誉教授)	ポスドクフェロー、USF College of Medicine、内科・生化学教室、JA Haley VA Hospital 研究部門、Dr. Robert U. Farese 研究室
1989年～留学	山北宜由 (現松波総合病院)	ポスドクフェロー、USF College of Medicine、内科・生化学教室、JA Haley VA Hospital 研究部門、Dr. Celso E. Gomez-Sanchez 研究室
1990年～留学	山田浩司 (現岐阜市民病院)	ポスドクフェロー、USF College of Medicine、内科・生化学教室、JA Haley VA Hospital 研究部門、Dr. Robert U. Farese 研究室
1995年～留学	山本真由美 (HAC)	ポスドクフェロー、USF College of Medicine、内科・生化学教室、JA Haley VA Hospital 研究部門、Dr. Denise R. Cooper 研究室
1998年修士修了	山本真由美 (HAC)	USF Business Administration, MBA for Physician 卒業
1999年修士修了	大庭志野 (現群馬大学医学部)	USF CPH, Master of Public Health Science 卒業、GIFU 医学部健康障害半減講座(寄附講座) 助教
1999年～留学	加納克徳 (加納内科リウマチクリニック院長)	ポスドクフェロー、USF College of Medicine、内科・生化学教室、JA Haley VA Hospital 研究部門、Dr. Robert U. Farese 研究室
2002年～留学	三浦淳 (みうら内科・糖尿病クリニック院長)	ポスドクフェロー、USF College of Medicine、内科・生化学教室、JA Haley VA Hospital 研究部門、Dr. Robert U. Farese 研究室
2005年10月視察	医学部附属病院 伊藤・松波看護副部長、山本教授 (HAC)	USF Nursing College, Tampa General Hospital 視察(医学部附属病院新設計画にむけて)
2008年 1 月視察	山本教授 (HAC)	USF College of Medicine 学生支援教授 Dr. Spector を訪問、情報交換
2009年 1 月視察	佐渡助教、山本教授 (HAC)	GIFU の学生相談業務向上のために、USF のカウンセリングセンター及びカウンセラー養成課程を視察

2015年6月交流	山本教授、西尾准教授、堀田助教 (HAC)	USF Health Service Center を視察・情報交換（保健管理センター業務向上にむけて）
2016年10月来日	Dana Peterson 学部長 (USF CPH)	GIFU 医学部を訪問、部局間協定締結のために USF CPH の学部長として調印署名
2017年8月視察	田島准教授（看護）、山本教授（HAC）	USF HEALTH との交流準備目的で USF 訪問視察
2018年1月来日	Matawal Makut 講師 (USF CPH)	GIFU を視察訪問、USF CPH 交流準備のために
2018年6月来日	酒井敦子 (USF HC)	GIFU を視察訪問、Honors College 交流準備のために
2022年8月視察	山本教授、三輪助教 (HAC)	USF を視察訪問・打ち合わせ、医学交換留学協定の更新準備のために
2022年9月～就任	山本眞由美 (HAC)	USF HEALTH の客員教授に就任
2023年3月視察	今福講師 (MEDC)	USF HEALTH 及び Tampa General Hospital を訪問、医学交換留学協定のリエゾンとして
2023年6月来日	Yasuharu Okuda 所長 (CAMLS)	GIFU を訪問し、特別講演及び MEDC・CRM 等と交流・情報交換、CAMLS 所長として
2024年1月訪問団	吉田学長以下、総勢13人 嶋教授(工学部、グローバル副機構長)、深田助教・藤林医員(消化器外科)、手塚教授(感染症内科)、川上准教授(MEDC)、久保田助教・伊藤助教(CRM)、杉原師長・百武主任(附属病院看護部)、山本教授(HAC)、山本容正客員教授(連合創薬医療情報研究科) CAMLS と連携協定調印、Law 学長表敬訪問、USF 主催歓迎夕食会、訪問視察 (Tampa General Hospital、Morsani College of Medicine、HC、CPH、College of Nursing、分子生物学研究部門、アルツハイマー研究所、Moffitt 癌センター、Wellness & Health Center、リクリエーションセンター、カウンセリングセンターなど)	
2024年1～3月短期留学	堀田准教授 (HAC)	Department of Child and Family Studies (Dr. Chih-Chin Chou) で research scholar として3か月短期研修留学
2024年4月視察	湊口助教 (医学部循環器内科)	短期留学医学生を受け入れるにあたり、USF College of Medicine, Tampa General Hospital, CAMLS を視察

表3 USF と GIFU の交換留学

2018年5月	川崎雄輝	Observership Program at Tampa General Hospital (学外臨床実習4週間)
2019年2月	柳本セルジュ達摩	Observership Program at Tampa General Hospital (学外臨床実習4週間)
2019年4月	橋本沙瑛子	Observership Program at Tampa General Hospital (学外臨床実習4週間)
2019年6月	Mausam Metha	USF College of Medicine 2年、HAC 5週間、成果 doi.org/10.1371/journal.pone.0285088
2020年	馬場大輔、森永崇文	(COVID-19パンデミックにより中止)
2021年	竹中暢康、前山京子	(COVID-19パンデミックにより中止)
2021年6月	【オンライン交流会】	GIFU 医学科学学生：竹中暢康、川上裕子、出原圭敏、USF College of Medicine 学生4人 Lynette Mebez, Jesse Casanova (USF College of Medicine) 西城教授、今福講師 (MEDC)、山本教授 (HAC)
2021年7月	Mathew Udine	オンライン留学、HAC のデータ分析、USF リサーチデイ発表
2021年7月	Ivana Radsavljevic	オンライン留学、HAC のデータ分析、USF リサーチデイ発表
2022年	出原圭敏、川上裕子	(COVID-19パンデミックにより中止)
2022年6月	Natalie Nagib	USF CPH 修士2年、HAC 8週間、成果 doi: 10.1016/j.psychres.2023.115244.
2022年6月	Naomi Hyes	USF CPH 修士2年、HAC 8週間
2022年6月	Cathelencia Francisque	USF College of Medicine 2年、HAC 5週間、成果 doi: 10.1038/s41598-023-34942-x. doi: 10.1111/hepr.13906.
2022年6月	【交流報告会】	福田仙一、高橋克弥、Natalie Nagib、Naomi Hyes、Cathelencia Francisque 今福講師 (MEDC)、三輪助教 (HAC)、山本教授 (HAC)
2023年1月	福田仙一	Observership Program at Tampa General Hospital (学外臨床実習4週間)
2023年2月	高橋克弥	Observership Program at Tampa General Hospital (学外臨床実習4週間)
2023年6月	Emma Underwood	USF CPH 修士2年、HAC 6週間、成果 doi: 10.3390/healthcare12090902.
2023年6月	【交流報告会】	福田仙一、高橋克弥、篠田琳、鳥居叶愛、川原理克、若山俊也、Emma Underwood 今福講師 (MEDC)、堀田准教授 (HAC)、山本教授 (HAC)



2024年 1 月	篠田琳	Observership Program at Tampa General Hospital (学外臨床実習 4 週間)
2024年 4 月	鳥居叶愛	Observership Program at Tampa General Hospital (学外臨床実習 4 週間)
2024年 4 月	川原理克	Observership Program at Tampa General Hospital (学外臨床実習 4 週間)
2024年 4 月	Ivana Radsavljevic	USF College of Medicine 4 年、医学部消化器内科 (清水教授) 3 週間
2024年 5 月	Shelby Kerr	USF College of Medicine 2 年、医学部循環器内科 (大倉教授) 5 週間
2024年 5 月	Emily Marie Pearson	USF College of Medicine 2 年、医学部感染症内科 (手塚教授) 7 週間
2024年 5 月	Nicole Nagib	USF CPH 修士 2 年、HAC 9 週間
2024年 6 月	【交流報告会】	篠田琳、鳥居叶愛、川原理克、Shelby Kerr、Emily Marie Pearson、Nicole Nagib、他 今福講師 (MEDC)、堀田准教授 (HAC)、山本教授 (HAC)
2024年 6 月	Angelica Silvestre	USF CPH 修士 2 年、HAC 5 週間
2024年 8 月	Dr. Meera Maunjundan	Biochemistry の講義をオンラインプラットフォームでバーチャル共修留学

表 4 USF 公衆衛生学部 (College of Public Health: CPH) とオナーズカレッジ (Honors College: HC) の岐阜訪問

2018年 5 月	CPH 学部学生17人	Dr. Mattawal Makut 医学部附属病院・看護学科実習室見学、邦楽部演奏、郡上八幡小学校・希望が丘子ども医療福祉センター訪問
	GIFU: HAC 山本教授	「日本の医療制度」講義
	GIFU: 小山准教授	「日本の災害対策」講義 (ぎふ防災・減災センター小山准教授)
	GIFU: 看護学科田島准教授	看護学科 3 年生と合同講義共修 (医学英語ロールプレイ)
	鵜飼観覧 (岐大生と交流)	今福講師 (MEDC)、Dr. Mattawal Makut (USF) 医学部生 7 人 (森部真由、柳本セルジュ達摩、上門弘宜、中井将仁、塩見涼菜、清水裕太、赤座慎)
2019年 5 月	CPH 学部学生16人	Dr. Mattawal Makut + Dr. Elizabeth Dunn
	HC 学部学生20人	Prof. Atsuko Sakai+staff 2 人 医学部附属病院・看護学科実習室見学、邦楽部演奏、郡上八幡小学校・希望が丘子ども医療福祉センター訪問
	GIFU: HAC 山本教授	「日本の医療制度」講義
	GIFU: 看護学科田島准教授	看護学科 3 年生と合同講義共修 (医学英語ロールプレイ)
	鵜飼観覧 (岐大生と交流)	今福講師、早川助教 (MEDC) 医学部生 7 人 (上田愛佳、馬場大輔、森部真由、森永崇文、浅井隆之、中西洋介、新井康允)
2023年 5 月	CPH 学部学生13人	Dr. Elizabeth Dunn + staff 2 人 邦楽部演奏、空手部・居合部見学、郡上八幡小学校訪問、
	GIFU: HAC 山本教授	「日本の医療制度」「岐阜大学における COVID-19対策」講義
	GIFU: 看護学科佐々木准教授	看護学科 3 年生と合同講義共修 (医学英語ロールプレイ)
	鵜飼観覧 (岐大生と交流)	今福講師 (MEDC)、Dr. Elizabeth Dunn + staff 2 人 (USF) 医学部生 9 人 (高橋克弥、澤元彌、福田仙一、谷島健太郎、岩瀬彩、中岡俊彰、西川将成、平栗檀、林龍矢)
2024年 5 月	CPH 学部学生18人	Dr. Elizabeth Dunn + staff 2 人
	HC 学部学生20人	Prof. Atsuko Sakai+staff 2 人 医学部附属病院見学、看護学科実習室見学、邦楽部演奏、空手部・居合部見学、郡上八幡小学校訪問
	GIFU: HAC 山本教授	「日本の医療制度について」講義
	GIFU: 看護学科佐々木准教授	看護学科 3 年生と合同講義共修 (医学英語ロールプレイ)
	MEDC: 川上准教授	医学科 1 年生と合同講義共修 (自身のキャリアアップについてグループ討論)
	鵜飼観覧 (岐大生と交流)	今福講師 (MEDC)、Dr. Elizabeth Dunn + staff 2 人、Prof. Atsuko Sakai+staff 2 人 5 月13日 医学部生 4 人 (中島友香、平栗檀、三芳幸、吉野百香) 5 月16日 医学部生 3 人 (篠田琳、田上大貴、村瀬要)
	鵜飼 踊り体験 (岐大生の企画)	5 月13日 医学部生 1 人 (加藤優奈) + 踊り子 3 人、今福講師 (MEDC)、Prof. Atsuko Sakai+staff 2 人

HAC: Health Administration Center (岐阜大学保健管理センター)

MEDC: Medical Education Development Center (岐阜大学医学教育開発センター)

CRM: Center for Regional Medicine (岐阜大学医学部附属地域医療医学センター)

HPCC: USF Health Professions Conferencing Corporation

CAMLS: Center for Advanced Medical Learning and Simulation

尚、USF HEALTH は、Mosani College of Medicine, College of Nursing, College of Pharmacy, College of Public Health から構成されている

ノーザン・ケンタッキー大学 (Northern Kentucky University)

教育学部英語教育講座
ノーザン・ケンタッキー大学リエゾン
巽 徹

1. ノーザン・ケンタッキー大学 (Northern Kentucky University)

ノーザン・ケンタッキー大学（以下、「NKU」という。）は、1968年に創立されたケンタッキー州の中では新しい大学ですが、州内最大規模の州立大学であり、様々な先進的プログラムが実施されています。NKUのキャンパスはケンタッキー州北部ハイランドハイツに位置します。大学から車で10分ほどのところには、オハイオ川を挟んで、オハイオ州第3の都市であるシンシナティがあり、シンシナティ市とシンシナティに隣接したケンタッキー州北部とインディアナ州東南部の一部を含んだ地域はグレーター・シンシナティ (Greater Cincinnati) と呼ばれ、地域の中心となる生活・文化圏を形成しています。また、3つの州にまたがって地理的・経済的につながり合いながら街が発展してきたことから、トライ・ステート (Tri State) とも呼ばれている地域でもあります。

トライ・ステートの中核であるシンシナティ市と岐阜市は、1988年に姉妹都市提携が行われ、昨年で35周年を迎えました。これまでも岐阜大学（以下、「本学」という。）とNKUの交流は、岐阜市とシンシナティ市の市民交流と時としてタイアップし、両地区の友好関係を深める役割も果たしてきました。



シンシナティ市の中心街を望む

2. 岐阜大学とノーザン・ケンタッキー大学



NKUのキャンパス

本学とNKUの大学間協定は、1990年10月に締結されました。本学は、NKUにとって最も古くからの海外協定大学であり、協定締結以来、学術交流ならびに学生交流を継続的に行ってきました。2012年11月には、本学の「秋の国際週間」の一環として、NKUからフランソワ・ル・ロイ氏を招き、「グレーター・シンシナティと日本」と題した講演会を開催し本学とNKUのかかわり、さらには、グレーター・シンシナティと日本とのかかわりについて、歴史的な側面から、また、経済・文化的な側面でのつながりについてお話しいただきました。自動車産業を中心とした企業のつながりに加え、伝統的な産業である陶器製造などにおいても、両大学が位置する地域には共通点があることなど、

新たな視点での相互理解が深まりました。

フランソワ氏の講演会を皮切りに、NKUから本学へは、学長・副学長の本学への訪問が2回（2015、2019）、国際担当理事の訪問が5回（2012、2015、2018、2019、2023）、留学コーディネーターならびに主に本学への留学生を輩出する日本語学科教員の訪問が3回（2015、2018、2020）行われました。本学からも

副学長、グローバル留学推進部門長、リエゾン担当者の訪問が頻繁に行われており（2011、2014、2018、2019、2023）、学術交流協定の更新や新たな留学プログラムの構想、本学におけるサマースクールの在り方、地域科学部の国際教養コースの留学先としての位置づけ、工学部や教育学部の学生を対象とした NKU におけるサマースクールの充実に関する議論が行われるなど、積極的な交流が行われています。コロナ禍においても、オンラインによる学生交流を行うなど、困難な状況にあっても両大学の努力により実質的な交流が盛んに行われてきました。2011年から2022年までの学生交流では、本学から計51名の学生が NKU で学び、NKU から計22名の学生が本学で学んだ実績となっています。

3. ノーザン・ケンタッキー大学における教育学部サマースクールプログラム

2013年8月に岐阜大学工学部の学生を対象とした最初の「NKU サマースクール」が実施されました。NKU のキャンパスが位置するグレート・シンシナティでは、当時、自動車関連企業や工作機械分野の日本企業が複数進出しており、NKU における英語研修に加えて、米国で活躍する日系企業の様子を学び、また、海外で活躍する日本人の姿から国際人としての心構えを身につけることを目的に実施されたプログラムでした。その後、実施母体が教育学部に移り、「NKU サマースクール」を教職志望の学生のニーズに合わせた内容に模様替えを行いました。リニューアルされた新たな「NKU サマースクール」では、英語研修、学校訪問、文化体験活動の主に3つのプログラムが組み込まれています。英語研修を基本としながら、NKU が連携する地元の小・中・高校への訪問を含む、現地での文化体験実習に焦点を当てたプログラムとして2015年8月に再スタートし、例年8月下旬から9月中旬に3週間にわたるプログラムをほぼ毎年実施しています（コロナ禍による中断を除く）。

2023度の「NKU サマースクール」のプログラムでは、小学校1校、中学校1校、高等学校1校及び日本語補習校1校を訪問し、児童生徒の発達段階に合った活動内容を考え、英語で説明や指示をしながら活動を行っていました。小学校では、日本の伝統的な子供の遊びである「福笑い」について英語で説明し、子どもたちに活動のポイントを示しながら、学生が自作した日本のアニメキャラクターの「福笑い」を用いて、児童と楽しく活動する様子が見られました。中・高では、日本の伝統的な音楽や踊りを現代風にアレンジした「YOSAKOI ソーラン」を取り上げ、踊りの動作一つ一つが意味する内容を英語で説明しながら、音楽に合わせて踊りの動作ができるように指導し、参加した現地の生徒、教員が一体感のある踊りができるような体験活動を行っていました。岐阜大学からの参加学生は、学校訪問における諸活動を通して、児童生徒が意欲的に取り組む活動の在り方について考え、英語を用いて自らの企画した活動が実施できた満足感を得られたものと思います。また、現地の学校を訪問し、児童生徒、教職員と交流することにより、アメリカの学校教育の様子を自ら観察し、日本と異なる学校生活の様子や教育制度の違い、また、それらの違いを生む背景となる考え方や文化についても同時に学び取っていたものと考えます。



訪問した Grant's Lick 小学校



Grant's Lick 小学校での活動の様子

以上のように、両大学間での交流が継続的に行われ、年々充実度を増してきていることがわかります。これらの交流の NKU 側の窓口は、主に「Center for Global Engagement & International Affairs」という部

門が担っています。本学からの交換留学生も、同センターのスタッフから、現地での学業面に限らず生活面のすべてにわたり留学初日から支援を受けています。また、「NKU サマースクール」においても、同センターが、企画の段階からプログラムの運営、参加学生への支援を実質的に行っています。同センタースタッフの皆さんのこれまでのご尽力に感謝を申し上げるとともに、両大学をつなぐリエゾンとして、今後とも両大学の学術交流の発展のために共に力を尽くしていきたいと考えております。



シンシナティ側からケンタッキーを望む



Bishop Brossart 高校での活動の様子

1. 令和5年度 グローカル推進機構名簿

所 属 ・ 職 名 等	氏 名	運 営 委 員 会	奨 学 金 等 選 考 委 員 会	部 門				国 際 企 画 部 門 W G	年 報	H P	短 期 派 遣 チーム	短 期 受 入 チーム	愛 岐 留 学 生 就 職 支 援 コ ン シ ー ア ム プ ロ ジ ェ ク ト チーム	J D シ ン ボ ジ ウ ム W G	任 期
				国 際 協 働 教 育 推 進 部 門	地 域 国 際 化 推 進 部 門	留 学 推 進 部 門	国 際 企 画 部 門								
副学長（国際・情報・評価（副）担当）	神原 信志	○												◎	4.4～6.3
グローバル推進機構機構長	小山 博之	◎	○										○	○	5.4～6.3
グローバル推進機構副機構長 （日本語・日本文化教育センター長）	橋本 慎吾	○	◎										○		4.4～6.3
グローバル推進機構・特任教授	三輪 真一	○		○	○								○	○	5.4～6.3
グローバル推進機構・特任助教	グレッグ・リチャード・トバ	○		○		○									5.10～6.3
グローバル推進機構・助教	松井 真弓	○		○	○	○	○	○	○	◎		○			4.4～6.3
グローバル推進機構・客員教授	柴田 大輔				○									○	－
グローバル推進機構・客員教授	青木 哲史				○								○	○	－
日本語・日本文化教育センター・教授	土谷 桃子	○				○						○			5.4～7.3
日本語・日本文化教育センター・教授	吉成 祐子						○			○					－
日本語・日本文化教育センター・助教	松尾 憲暁				○								○		－
国際事業課長	小林 恵子	○	○	○	○		◎	◎	○	○			○	○	5.4～7.3
国際総務室長	照元 直樹	○		○	○		○	○						○	5.4～7.3
留学支援室長	野村 友里	○			○	○	○	○					○		5.3～7.3
教育学部・教授	巽 徹	○				○					◎				5.4～7.3
教育学部・准教授	仲 潔					○					○				5.4～7.3
教育学部・助教	林 日佳理					○					○				5.4～7.3
地域科学部・教授	笠井 千勢					○					○				5.4～7.3
地域科学部・教授	合掌 顕						○								5.4～7.3
地域科学部・教授	神谷 宗明	○				○					○				4.4～6.3
医学系研究科・医学部・教授	千田 隆夫	○					○								5.4～7.3
医学系研究科・医学部・助教	山川 路代			○											5.4～7.3
医学教育開発研究センター・併任講師	今福輪太郎			○		○						◎			5.4～7.3
医学部・看護学科・准教授	佐々木彩子	○				○	○		○	○	○				5.4～7.3
工学部・教授	嶋 陸宏	○	○	○		◎					○	○			4.4～6.3
工学部・教授	久米 徹二	○		○	○		○			○				○	5.4～7.3
工学部・教授	リム リーワ			○	○									○	5.4～7.3
工学部・教授	伊藤 聡			○											5.4～7.3
工学部・教授	伊藤 貴司			○											5.4～7.3
工学部・教授	王 道洪			○											5.4～7.3
工学部・教授	小宮山正治			○											5.4～7.3
工学部・教授	高橋 周平			○											5.4～7.3
工学部・教授	杳水 祥一			○	○										5.4～7.3
工学部・教授	上宮 成之			○											5.4～7.3
工学部・教授	海老原昌弘			○											5.4～7.3
工学部・教授	加藤 邦人			○											5.4～7.3
工学部・教授	瀬瀬 守			○											5.4～7.3
工学部・教授	武野 明義			○											5.4～7.3
工学部・教授	伴 隆幸			○											5.4～7.3
工学部・教授	杉浦 隆						○								5.4～7.3



所 属 ・ 職 名 等	氏名	運営委員会	奨学金等選考委員会	部 門				国際企画部門WG	年 報	H P	短期派遣チーム	短期受入チーム	愛媛留学生就職支援コンソーシアムプロジェクトチーム	JDシンポジウムWG	任 期
				国際協働教育推進部門	地域国際化推進部門	留学推進部門	国際企画部門								
工学部・教授	伊藤 和晃			○											54～73
工学部・教授	山下 実			○											54～73
工学部・教授	小林 信介			○	○									○	54～73
工学部・教授	岡 夏央			○											54～73
工学部・教授	新田 高洋			○		○						○			54～73
工学部・教授	毛利 哲也	○				○						○			54～73
工学部・特任教授	村井 利昭			○											54～73
工学部・准教授	高橋 康宏			○											54～73
工学部・准教授	木下 幸治				○	○					○			○	54～73
工学部・准教授	小島 悠揮					○						○			54～73
工学部・准教授	高井 千加			○											54～73
工学部・准教授	山田 啓介			○											54～73
工学部・助教	佐野 栄俊			○											54～73
応用生物科学部・教授	海老原章郎	○		○	◎								◎	○	54～63
応用生物科学部・教授	西津 貴久			○	○		○								54～73
応用生物科学部・教授	上野 義仁			○											54～73
応用生物科学部・教授	石田 秀治			○											54～73
応用生物科学部・教授	岩橋 均			○											54～73
応用生物科学部・教授	光永 徹			○											54～73
応用生物科学部・教授	矢部 富雄			○											54～73
応用生物科学部・教授	長岡 利			○											54～73
応用生物科学部・教授	中川 智行			○			○								54～73
応用生物科学部・教授	柳瀬 笑子	○		◎	○		○		◎					○	54～73
応用生物科学部・教授	山田 邦夫	○													54～73
応用生物科学部・教授	山本 義治			○											54～73
応用生物科学部・准教授	小林佑理子			○		○					○				54～73
応用生物科学部・准教授	島田 昌也			○	○										54～73
応用生物科学部・准教授	清水 将文			○	○										54～73
応用生物科学部・准教授	鈴木 史朗				○									○	54～63
応用生物科学部・准教授	勝野那嘉子			○											54～73
応用生物科学部・准教授	北口 公司			○											54～73
応用生物科学部・准教授	今泉 鉄平			○	○										54～73
応用生物科学部・准教授	広田 勲					○						○			54～73
応用生物科学部・准教授	山内 恒生			○		○						○			54～73
応用生物科学部・助教	橋本 美涼			○											
社会システム経営学環・准教授	森部 絢嗣	○													54～73
社会システム経営学環・助教	川瀬 真弓					○					○				54～73
共同獣医学研究科・教授	志水 泰武	○													54～73
連合農学研究科・教授	中野 浩平	○		○											54～73
連合創薬医療情報研究科・准教授	古山 浩子	○													54～73
地域協学センター・准教授	大宮 康一			○	○										54～73
地域協学センター・准教授	小山 真紀	○													54～73

所 属 ・ 職 名 等	氏 名	運 営 委 員 会	奨 学 金 等 選 考 委 員 会	部 門				国 際 企 画 部 門 W G	年 報	H P	短 期 派 遣 チ ー ム	短 期 受 入 チ ー ム	愛 岐 留 学 生 就 職 支 援 コ ン シ ー ア ム プ ロ ジ ェ ク ト チ ー ム	J D シ ン ポ ジ ヴ ム W G	任 期
				国 際 協 働 教 育 推 進 部 門	地 域 国 際 化 推 進 部 門	留 学 推 進 部 門	国 際 企 画 部 門								
人事企画課主幹	後藤 康之						○								54～7.3
教務課長	山田 祐樹						○								5.4～7.3
学務部長	野々村晴子	○												○	4.4～6.3
国際総務室国際総務係	宮本亜由子			○	○		○	○	○	○				○	
	奈良 友香														
留学支援室留学支援係	田中 健一														
	山田美菜子		○		○	○	○	○			○	○	○		
	若園 悠聖														

※グローバル推進機構長、委員長、部門長、専攻長、リーダーは○

2. 協定一覧

●大学間協定（19ヵ国49大学）

2024年3月31日現在

	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	授業料相互 不徴収	交換可能 学生数*
1	カンピーナス大学	ブラジル	1984.8.27	有	2
2	サンディエゴ州立大学	米国	1985.5.7	有	2**
3	浙江大学	中国	1986.4.21	有	3
4	広西大学	中国	1986.4.24	有	4
5	電子科技大学	中国	1986.7.21	有	2
6	江南大学	中国	1986.9.3	有	3
7	ノーザンケンタッキー大学	米国	1990.9.26	有	2
8	ソウル科学技術大学校	韓国	1992.3.19	有	3
9	グリフィス大学	オーストラリア	1995.3.3	有	4
10	ユタ州立大学	米国	1997.5.29	有	2
11	ハノイ工科大学	ベトナム	1998.6.26	有	2
12	カセサート大学	タイ	1999.8.5	有	3
13	内蒙古農業大学	中国	2000.8.8	有	2
14	シドニー工科大学	オーストラリア	2000.8.14	有	3
15	バンノン大学	ハンガリー	2001.3.2	有	3
16	アングラス大学	インドネシア	2001.4.23	有	4
17	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001.8.23	有	2
18	エルフルト大学	ドイツ	2002.12.4	有	3
19	吉林大学	中国	2003.5.20	有	4
20	チェンマイ大学	タイ	2003.8.4	有	3
21	ダッカ大学	バングラデシュ	2004.6.17	有	3
22	キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	2005.1.10	有	3
23	華僑大学	中国	2005.3.29	有	3
24	同済大学	中国	2006.3.16	有	2
25	ランボン大学	インドネシア	2006.4.25	有	2
26	内蒙古大学	中国	2007.2.6	有	1
27	バイロイト大学	ドイツ	2008.8.22	有	4
28	ベンハー大学	エジプト	2009.3.18	有	2



	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	授業料相互 不徴収	交換可能 学生数*
29	高麗大学校	韓国	2010.1.15	有	2
30	カウナス工科大学	リトアニア	2010.3.8	有	4
31	ボゴール農科大学	インドネシア	2010.12.2	有	3
32	内蒙古師範大学	中国	2011.6.8	有	2
33	ヴィータウタス・マグヌス大学	リトアニア	2012.1.19	有	2
34	ガジャマダ大学	インドネシア	2012.9.13	有	3
35	スプラス・マレット大学	インドネシア	2013.7.8	有	3
36	パリ・サクレ大学	フランス	2014.12.16	有	3
37	インド工科大学グワハティ校	インド	2014.9.21	有	3
38	マレーシア国民大学	マレーシア	2016.9.21	有	2
39	マギル大学	カナダ	2017.3.8	無	－
40	アルバータ大学	カナダ	2017.3.21	無	－
41	レイクヘッド大学	カナダ	2017.10.11	有	2
42	マリアノ・マルコス州立大学	フィリピン	2018.9.10	有	2
43	フエ大学	ベトナム	2018.11.12	有	2
44	アッサム大学	インド	2018.11.20	有	2
45	サラマンカ大学	スペイン	2018.11.26	有	2
46	リール大学	フランス	2020.4.2	有	4
47	南フロリダ大学	米国	2020.12.15	無	－
48	ブラヴィジャヤ大学	インドネシア	2021.2.23	有	2
49	バンドン工科大学	インドネシア	2022.09.26	有	3

※毎年、1学年度の間に派遣または受入可能な最大限の人数を表しています。 ※※1年2名、半期4名

●部局間協定（26ヵ国1地域65学部）

2024年3月31日現在

協定部局	協定大学等名	国名	初回締結日	授業料相互 不徴収	交流対象者
教育学部	シーナカリンウィロート大学教育学部	タイ	2015.3.17	無	教員
	カールスルーエ教育大学	ドイツ	2015.10.21	有	学生・教員
	山西師範大学	中国	2015.12.7	有	学生・教員
地域科学部	アーカンソー大学フォートスミス校	米国	2015.6.8	有	学生・教員
	国立中央大学文学院	台湾	2021.1.14	有	学生・教員
医学部	浙江大学医学院	中国	2000.12.4	有	学生・教員
	コンケン大学医学部	タイ	2000.12.18	有	学生・教員
	忠北大学校医学部	韓国	2009.4.17	有	学生・教員
	ハワイ大学医学部	米国	2016.8.24	有	学生・教員
	ソウル大学校医科大学	韓国	2019.4.11	無	学生・教員
	シカゴ大学医学部	米国	2019.6.3	無	学生・教員
医学部・保健管理センター	南フロリダ大学医学学群	米国	2016.10.20	無 ^{*1}	教員 ^{*2}
工学部	全南大学校工学部	韓国	2002.2.6	有	学生・教員
	柳韓大学校工学系列	韓国	2010.9.29	有	学生・教員
	ベンクル大学数学自然科学部	インドネシア	2011.7.20	有	学生・教員
	サー・パラシュラムプ・カレッジ	インド	2012.9.17	有	学生・教員
	忠南大学校工学部	韓国	2013.1.18	有	学生・教員
	マドリード・カルロス三世大学工学部	スペイン	2013.7.9	有	学生・教員
	ドルトムント工科大学機械工学部	ドイツ	2014.6.23	有	学生・教員
	マンダレー大学自然科学系学部	ミャンマー	2014.8.25	有	学生・教員
	ヤダナボン大学自然科学系学部	ミャンマー	2014.12.16	有	学生・教員
	メティラ大学自然科学系学部	ミャンマー	2014.12.16	有	学生・教員

協定部局	協定大学等名	国名	初回締結日	授業料相互不徴収	交流対象者
工学部	アダンキマティ工科大学工学部	ケニア	2014.12.16	有	学生・教員
	トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学理工学部	マレーシア	2014.12.16	有	学生・教員
	慶北大学校工学部	韓国	2015.2.27	有	学生・教員
	アメリカ国立衛生研究所・国立心肺血液研究所	米国	2015.3.18	有	学生・教員
	バーデン・ヴュルテンベルク州立太陽エネルギー・水素研究センター	ドイツ	2015.3.20	無	学生・教員
	ブンハッタ大学	インドネシア	2015.7.30	有	学生・教員
	パダン州立大学数学自然科学部	インドネシア	2015.9.18	有	学生・教員
	チュラロンコン大学理学部	タイ	2015.12.2	有	学生・教員
	南京師範大学 エネルギー機械工学院	中国	2017.7.17	有	学生・教員
	ダゴン大学自然科学系学部	ミャンマー	2017.7.21	有	学生・教員
	インドネシア・イスラム大学土木工学・計画学部、数学・自然科学部	インドネシア	2018.2.23	無	学生・教員
	ブルネイ・ダルサラーム大学理学部	ブルネイ・ダルサラーム	2018.6.15	有	学生・教員
	ザンビア大学工学部	ザンビア	2019.1.30	有	学生・教員
	リアオ大学教員養成・教育学部	インドネシア	2020.3.3	無	教員
	長庚大学工学部	台湾	2020.3.18	有	学生・教員
	タイ国立電子コンピューター技術研究センター	タイ	2023.1.29	無	教員
	ジョモケニヤッタ農工大学	ケニア	2023.8.1	有	学生・教員
工学部・地方創生エネルギーシステム研究センター	東ティモール国立大学工学部	東ティモール	2016.8.29	有	学生・教員
工学部・流域圏科学研究センター	クラクフ工科大学環境電力工学部	ポーランド	2015.11.30	有	学生・教員
流域圏科学研究センター	UiTノルウェー北極大学生物・水産・経済学部	ノルウェー	2017.9.27	無	学生・教員
インフラマネジメント技術研究センター	中国科学院水利部水土保持研究所	中国	2008.8.12	無	教員
	中国水利水電科学研究院岩土工程研究所	中国	2009.7.24	無	教員
応用生物科学部	チュラロンコン大学理学部	タイ	1994.3.15	無	学生・教員
	コンケン大学農学部	タイ	2000.3.27	無	学生・教員
	コンケン大学学部間共同開発研究所	タイ	2000.3.27	無	学生・教員
	国立獣医科学検疫院獣医科学研究所	韓国	2008.11.4	無	教員
	モンゴル国立大学地理地質学部	モンゴル	2012.10.29	無	教員
	ガーナ大学基礎応用科学部	ガーナ	2015.8.20	無	教員
	ラジシャヒ大学農学部	バングラデシュ	2016.12.27	無	教員
	南太平洋大学自然科学・工学・環境学群	フィジー	2017.12.1	無	教員
	カザン連邦大学環境科学部	ロシア	2018.5.18	無	教員
	カザン医学アカデミー	ロシア	2018.12.10	無	教員
	ハンガリー科学アカデミー農学研究センター	ハンガリー	2018.12.10	無	学生・教員
	チュラロンコン大学理学部	タイ	2012.12.6	有	学生・教員
連合農学研究科	チュイロイ大学	ベトナム	2015.6.25	有	学生・教員
	ラオス国立大学林学部	ラオス	2018.3.21	有	学生・教員
	キングモンクット工科大学ラカバン校産業教育学部	タイ	2023.8.9	有	学生・教員
	チュラロンコン大学理学部	タイ	2012.12.6	有	学生・教員
連合獣医学研究科・共同獣医学研究科	ガーナ大学基礎応用科学部	ガーナ	2015.8.20	無	教員
連合創薬医療情報研究科	カフル・エル・シェイク大学獣医学部	エジプト	2009.11.15	有	学生・教員
	タイビン医科薬科大学医・薬科学技術センター	ベトナム	2020.3.31	無	学生・教員
複合材料研究センター	EMC 2 クラスター・IRT ジュール・ヴェルヌ	フランス	2014.3.13	無	学生・教員
地域連携スマート金型技術研究センター	台湾国立高雄科技大学先端金型研究開発センター	台湾	2019.12.27	無	学生・教員
科学研究基盤センター	タイビン医科薬科大学医・薬科学技術センター	ベトナム	2020.3.31	無	教員

※ 1, 2 南フロリダ大学との「医療従事者交流プログラム」においては、授業料等相互不徴収：有、交流対象者：学生・教員



3. 本学の国際関連活動

●学長表敬訪問（来訪）

日付	国・地域	訪問者	目的
5月2日	モロッコ (駐日モロッコ大使館)	ラシャッド・ブフラル大使	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換
5月18日	アメリカ (南フロリダ大学)	南フロリダ大学学生16名、引率教員2名	表敬あいさつ
6月7日	タイ (キングモンクット工科大学ラカバン校)	パタランサリッ農業教育学科長、アヌチャイ副学長(人材育成)・学部長補佐(国際)、スパブワニッ准教授、ジャオサップ准教授、テチャブチポーン准教授	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換、部局間学術交流協定書への署名式
6月14日	マレーシア (マレーシア国民大学)	カシム副学長(学術、国際担当)、アーマド理工学部長、マスト教養学部長、ジュソ講師、アブドゥラ氏	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換
6月23日	アメリカ (南フロリダ大学)	南フロリダ大学シミュレーションセンター オクダセンター長、南フロリダ大学オナーズカレッジ サカイ教授	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換
7月20日	フィリピン (マリアノ・マルコス州立大学)	アグルーピス学長、ドミンゴ国際担当部長、アキーノ企画部長、カヒガル大学教育学部長、バガーヤス校長(University Laboratory Schools)、ラミル教授、ラグラ氏、アグルーピス氏	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換
9月8日	フランス (リール大学)	リール大学 トゥールーズ副学長(国際)、ゴセ学長補佐(国際)、ウチムラ研究ディレクター、ドゥグルト教授、デュロ教授 在日フランス大使館 グレルミン氏、ボーデス氏	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換、博士学生共同指導システムについて検討
11月1日	アメリカ (ノーザンケンタッキー大学)	ロイ氏	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換
12月8日	インド (インド工科大学グワハティ校)	ダス教授、バグ准教授、Winter School 参加学生(インド工科大学グワハティ校6名、マレーシア国民大学2名)	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換

●学長表敬訪問（往訪）

日付	国・地域	訪問先	目的
12月16日～12月18日	モロッコ	ラバト国際大学	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換
2024年1月27日～2月1日	アメリカ	南フロリダ大学	表敬あいさつ、国際交流に関する意見交換、交流協定への署名式
2024年3月2日～3月3日	インド	インド工科大学グワハティ校	日印二国間シンポジウムへの参加

●令和5年度国際関連事業一覧

令和6年3月31日現在

開始	終了	名称	参加人数	主催
4月6日		サンフランシスコ州立大学国際交流担当者との打ち合わせ	1	機構
4月19日		海外留学フェア2023春	79	機構
4月26日		2023年度サマースクール(派遣)説明会	97	機構
4月28日		2023年度サマースクール(派遣)説明会	38	機構
5月2日		モロッコ王国特命全権大使 学長表敬	2	機構
5月8日		2023年度サマースクール(派遣)説明会	9	機構
5月10日	5月12日	全国大学 JDP 協議会幹事会(メール審議)	6	機構
5月15日		全学共通科目「異文化論(リトアニア学)」の取材・撮影	42	NHK
5月17日		郡上踊りワークショップ	21	機構(日セ)
5月17日		English Circle of Friends	24	English Club
5月17日		南フロリダ大学公衆衛生学部学生 学長表敬	22	保健
5月18日		南フロリダ大学公衆衛生学部学生 郡上八幡小学校との交流	18	保健
5月24日	5月26日	全国大学 JDP 協議会総会(メール審議)	12	機構
5月25日		グローバル化のためのSDGs勉強会(第1回)	34	機構

開始	終了	名称	参加人数	主催
5月29日		リトアニア勉強会	16	工
5月31日		リトアニア出張報告（村瀬幸雄 在岐阜リトアニア共和国名誉領事）	2	機構
6月2日		リトアニア出張報告（Zykas 駐日リトアニア共和国特命全権大使）	2	機構
6月7日		キングモンクット工科大学ラカバン校 学長表敬	5	連農
6月14日		マレーシア国民大学副学長一行 来学	4	機構
6月14日		名古屋出入国在留管理局との情報交換会	8	岐留協
6月16日	6月19日	フエ省に公式訪問及び世界文化遺産としてフエ古都遺跡群がユネスコにより認定された30周年、フエ宮廷雅楽がユネスコより認定された20周年の記念イベント 出席	2	機構
6月21日	7月19日	岐阜大学サマースクール2023	7	機構
6月21日		English Circle of Friends	9	English Club
6月23日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第2回）	21	機構
6月23日		南フロリダ大学シミュレーションセンター所長 学長表敬	6	保健
6月24日		インドネシア伝統楽器アングルン 公開講座	100	教育
6月25日		インドネシア伝統楽器アングルン ワークショップ（岐阜市国際交流協会 外国文化理解講座）	60	教育
6月26日		インドネシア バンドン聾学校生徒 パフォーマンス（岐阜聾学校）	40	教育
6月28日		2023年度海外渡航時の危機管理オリエンテーション	79	機構
7月4日		岐阜地域留学生交流推進協議会 総会	31	岐留協
7月4日		ラウンジチューター企画「七夕まつり」	22	機構（日セ）
7月4日		リトアニア勉強会	11	工
7月5日		能楽ワークショップ	51	機構（日セ）
7月7日		国際交流会館ウェルカムパーティ	57	機構
7月20日		マリアノ・マルコス州立大学 学長表敬	8	機構・連農
7月下旬	7月下旬	全国大学JDP協議会幹事会（メール審議）	6	機構
7月28日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第3回）	25	機構
7月28日		CVMPキックオフミーティング	15	機構
8月2日		ESL研修事前研修	59	機構
8月6日		日本語・日本文化研修留学生修了論文発表会（対面・オンライン）	29	機構（日セ）
8月19日	9月23日	ESL研修（グリフィス大学）	37	機構
8月24日		日本語・日本文化研修コース修了式	14	機構（日セ）
8月25日		第5回日印交流関係機関連絡会	3	JIEPP
8月26日	9月15日	NKUサマープログラム	8	教育
9月4日	9月30日	ESL研修（アルバータ大学）	10	機構
9月6日		全国大学JDP協議会幹事会	25	機構
9月8日		リール大学副学長一行 学長表敬	8	機構・糖鎖
9月16日		日本留学フェア「Namaste Japan 2023」への出展	2	IITG
9月18日		日本留学フェア「Academic Day」への出展	1	IITH
9月20日		リトアニア勉強会	19	機構
9月22日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第4回）	38	機構
9月27日		インド大学生招へい 大学・企業説明会	3	JST
9月30日		第2回日印大学等フォーラム	4	JST
10月1日		STSフォーラム2023 The 20th Annual Meeting in Kyoto	2	STSフォーラム
10月6日		日経SDGsフェス in どまんなか	1	機構
10月6日		日本語・日本文化研修コース、日本社会文化プログラム及び日本語研修コース開講式	33	機構（日セ）
10月11日		バイオエコノミーに関するシンポジウム「Bioeconomy 2023」への参加	3	IITG
10月12日		岐阜モスク見学会	7	機構
10月14日		ベタンク大会	56	ベタンクサークル
10月18日		インドネシア文化紹介イベント	43	機構
10月18日		新規渡日留学生オリエンテーション	44	機構
10月24日		リトアニア勉強会	21	機構
10月25日		岐阜地区ワークショップ	31	機構
10月25日		English Circle of Friends	11	English Club



開始	終了	名称	参加人数	主催
10月27日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第5回）	29	機構
10月27日		リトアニアNOW オープニングイベント・夕食懇談会	3	岐阜県
10月28日		留学生見学旅行	33	機構
10月30日		理系学生のためのカナダ留学 オンライン説明会	19	機構
10月31日		国際月間シンポジウム	377	機構
10月31日		国際交流会館ウェルカムパーティ	56	機構
11月1日		NKU 国際担当ディレクター 学長表敬予定	1	機構・教育
11月5日		CVMP ファイナルコンペティション	31	機構
11月8日		Roundtable Meeting 2023	32	連農
11月8日		IC-GU12 Joint Lecture Series	69	連農
11月8日		UGSAS-GU & BWEL Joint Poster Session	18	連農
11月9日		在名古屋中華人民共和国総領事館 訪問	10	機構
11月14日		サマースクール（派遣）参加学生フィードバック	16	機構
11月15日		十二単の着装と体験 ～日本の民族衣装～	36	機構（日セ）
11月16日	11月17日	岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023 学術セッション	92	機構
11月17日		リトアニア勉強会	16	機構
11月21日		リトアニア特別講演会（オンライン）	44	岐阜県・工
11月24日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第6回）	17	機構
11月26日		外国人留学生日本語弁論大会	60	岐留協
11月29日		海外留学フェア2023秋	25	機構
11月30日		国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会	2	合同会議協議会
11月30日		全国国立大学法人留学生センター長会議及び留学生課長等合同会議	2	合同会議協議会
12月6日	12月22日	ウィンタースクール	9	機構
12月7日		全国大学 JDP 協議会総会	117	機構
12月7日		岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023 メインシンポジウム	75	東海機構・機構
12月8日		岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023 産官学金連携セッション（岐阜大学シンポジウム）	128	岐阜大学・機構
12月12日		リトアニア勉強会	13	機構
12月13日		雅楽カルチャー体験コンサート ～日本の音楽と衣装～	44	機構（日セ）
12月15日	12月20日	ラバト国際大学訪問	4	機構
12月22日		アルバータ大学（春季EST）に係るオンライン顔合わせ	10	機構
12月22日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第7回）	17	機構
1月17日		ラウンジチューター企画「日本のお正月」	32	機構（日セ）
1月24日		シーナカリンウィロート大学（タイ）訪問	8	教育
1月26日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第8回）	26	機構
2月16日		グローバル化のためのSDGs勉強会（第9回）	22	機構
2月27日		リトアニア勉強会	12	機構
3月1日	3月16日	スプリングスクール	12	機構
3月3日	3月5日	ジョイント・ディグリーシンポジウム2024	12	機構・IITG
3月5日		VMU 農業アカデミー来訪	2	機構
3月5日	3月15日	フェ研修プログラム	10	機構、学環、地協
3月5日		岐阜大学留学説明会（上海林国栄学校）	100	機構
3月7日		日中大学間意見交換会（在上海日本国総領事館）	66	機構
3月11日		IITG 教員による講演会	10	工学
3月11日		岐阜大学基金特定事業「バロー・Vドラッグ海外研修奨学金助成事業」派遣学生による報告会	4	機構
3月12日		第6回日印交流関係機関連絡会	1	JIEPP
3月14日		大学の世界展開力強化事業（インド太平洋）採択校連絡会	1	広島大
3月19日		岐阜地域留学生交流推進協議会運営委員会	24	岐留協
合 計		111 件		

※参加人数について、来訪の場合は来訪者人数

4. 大学間学術交流協定先との交流状況

種 別			教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
アメリカ	サンディエゴ州立 大学	2021	0	0	1	0
		2022	2	0	2	0
		2023	1	0	1	0
	ノーザンケンタッキー 大学	2021	0	0	2	1
		2022	1	1	13	0
		2023	1	1	10	4
	ユタ州立大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	2	0	0	0
	ユタ大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	1	0
	南フロリダ大学	2021	0	0	0	0
		2022	3	0	2	0
		2023	13	1	3	0
	小 計		23	3	35	5
インド	アッサム大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	インド工科大学 グワハティ校	2021	0	0	0	0
		2022	25	10	13	14
		2023	19	5	18	0
	小 計		44	15	31	14
インドネシア	アンダラス大学	2021	0	0	0	1
		2022	0	1	0	0
		2023	0	1	0	0
	ガジャマダ大学	2021	0	0	0	0
		2022	1	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	スプラス・マレット 大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	2	3	0	0
	バンドン工科大学	2021	-	-	-	-
		2022	0	0	0	0
		2023	1	0	4	0
	ブラヴィジャヤ大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	ボゴール農科大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	4	0	0
		2023	0	1	0	0
	ランボン大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	1	0	0
		2023	0	0	0	0
	小 計		4	11	4	1

種 別			教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
エジプト	ベンハー大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	2
	小 計		0	0	0	2
オーストラリア	グリフィス大学	2021	0	0	0	0
		2022	5	0	33	0
		2023	2	0	36	0
	シドニー工科大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	3	0
		2023	0	0	1	0
	小 計		7	0	73	0
カナダ	アルバータ大学	2021	0	0	0	0
		2022	3	0	6	0
		2023	2	0	14	0
	マギル大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	4	0	0	0
	レイクヘッド大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	1	0
		2023	0	0	0	0
	小 計		9	0	21	0
韓国	高麗大学校	2021	0	0	1	0
		2022	0	0	1	0
		2023	0	0	0	0
	ソウル科学技術大学校	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	2
	木浦大学校	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	1
	小 計		0	0	2	3
スペイン	サラマンカ大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	1
		2023	0	0	0	1
	小 計		0	0	0	1
タイ	カセサート大学	2021	0	0	0	1
		2022	1	0	0	1
		2023	1	1	0	2
	チェンマイ大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	1	0
		2023	0	0	5	0
	キングモンクット 工科大学トンブリ校	2021	0	0	0	0
		2022	1	0	0	0
		2023	0	1	1	0
	小 計		3	2	7	4



種 別			教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
中国	内蒙古師範大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	2
	内蒙古大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	内蒙古農業大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	華僑大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	2
		2023	0	0	0	3
	吉林大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	1
		2023	0	0	0	1
	広西大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	1
		2023	0	0	0	5
	江南大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	2
	浙江大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	電子科技大学	2021	0	0	0	1
		2022	0	0	0	2
		2023	0	0	0	3
	同済大学	2021	0	0	0	0
		2022	2	0	0	0
		2023	0	0	1	0
	小 計		2	0	1	23
ドイツ	エルフルト大学	2021	0	0	2	0
		2022	0	0	2	0
		2023	0	0	0	0
	バイロイト大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	小 計		0	0	4	0
ハンガリー	パンノン大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	1	0	0	0
	小 計		1	0	0	0

種 別			教職員 派遣	教職員 受入	学生 派遣	学生 受入
バングラデシュ	ダッカ大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	2	0	0
	バングラデシュ 農業大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	小 計		0	2	0	0
フィリピン	マリアノ・マルコス 州立大学	2021	0	0	0	0
		2022	5	0	0	0
		2023	0	8	0	0
	小 計		5	8	0	0
ブラジル	カンピーナス大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	小 計		0	0	0	0
フランス	パリ・サクレ大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	リール大学	2021	0	0	0	0
		2022	2	1	0	4
		2023	8	7	1	4
	小 計		10	8	1	8
	ベトナム	ハノイ工科大学	2021	0	0	0
2022			1	0	0	0
2023			1	1	0	0
フエ大学		2021	0	0	0	1
		2022	0	0	0	1
		2023	7	0	10	1
小 計		9	1	10	3	
マレーシア		マレーシア国民大学	2021	0	0	0
	2022		17	0	3	4
	2023		5	8	4	2
	小 計		22	8	7	6
リトアニア	ヴィータウタス・ マグヌス大学	2021	0	0	0	0
		2022	12	3	0	0
		2023	1	2	2	0
	カウナス工科大学	2021	0	0	0	0
		2022	0	0	0	0
		2023	0	0	0	0
	小 計		13	5	2	0
	合 計		2021	0	0	6
2022			81	21	80	70
2023			71	42	112	35
総 計			152	63	198	110

5. 海外オフィス・研究施設

●岐阜大学海外オフィス

設置場所	国・地域	設置時期
岐阜大学上海オフィス	中国	2009年5月
岐阜大学ダッカ大学内オフィス	バングラデシュ	2009年8月
岐阜大学スプラス・マレット大学オフィス	インドネシア	2014年12月
岐阜大学広西大学内オフィス	中国	2015年3月

●共同研究施設

設置場所	国・地域	設置部門	設置時期
ボゴール農科大学	インドネシア	天然物化学	2014年12月
スプラス・マレット大学	インドネシア	環境科学	2014年12月
ダッカ大学	バングラデシュ	生化学	2015年10月
カセサート大学	タイ	微生物学	2016年2月
アングラス大学	インドネシア	ポストハーベスト工学	2016年11月
キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	ポストハーベスト工学	2017年9月

6. 国際共同研究等の採択実績

●（公財）田口福寿会国際学術交流助成金採択一覧

公益財団法人田口福寿会助成事業の助成金により、本学と学術交流協定を締結している外国の大学との交流を促進し、教育・研究の向上を図るため、協定大学との共同研究を行う者に対して助成を行った。令和2年度以前は、海外派遣・招へいに係る旅費助成を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により派遣・招へいが困難となったことを受け、令和3年度以降は、渡航を伴わない共同研究に対しても支援を行うものとし、外国旅費のほか、論文投稿費（英文校正費含む）、オンラインミーティングのライセンス取得に係る費用、消耗品費に対する助成を行った。

区分	採択者	学術交流先	研究課題	派遣・招へい期間
消耗品費等	保健管理センター 三輪 貴生（助教）	南フロリダ大学医学部 （アメリカ）	職域健康診断における代謝異常関連脂肪性肝疾患の実態解明と包括的介入戦略の確立	—
論文投稿費、 消耗品費	医学系研究科 手塚 宜行（特任教授）	ガーナ大学基礎応用科学部 （ガーナ）	ガーナにおける mcr-3 エンデミックの実態とそれを可能にする耐性遺伝子構造解析	—
	工学部 岡 夏央（准教授）	マレーシア国民大学理工学部 （マレーシア）	ドキシソルビシン（DOX）の重篤な副作用である心筋線維症の治療薬候補の探索	—
外国旅費、 消耗品費	応用生物科学部 松村 秀一（教授）	アングラス大学数理学部 （インドネシア）	スマトラ島産の淡水性フグ類に関する生態学・遺伝学・物理化学的研究	5月13日～ 5月21日 （9日間）

7. 留学生の地域貢献

●留学生の地域イベント等への派遣実績

日時	事業名	主催者	参加人数
5月21日	献血ボランティア活動	岐阜南ライオンズクラブ	4
6月23日	鵜飼交流会	国際ソロプチミスト岐阜	16
7月29日	一宮七夕ホームステイ	一宮市国際交流協会事務局（一宮市役所観光交流課）	5
8月7日	ぎふ長良川の鵜飼	岐阜観光コンベンション協会	32
8月31日	岐阜県魅力発見・企業訪問バスツアー	（公財）岐阜県国際交流センター	10
11月26日	第22回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会	岐阜地域留学生交流推進協議会	2
12月2日	多文化共生フォーラム～各国の「違い」を尊重して共に生きる社会とは？～世界の祭り～	岐阜県世界青年友の会	1
12月17日	ホームビジット	岐阜市国際交流協会	12
12月22日	クリスマスプレゼント会	国際ソロプチミスト岐阜	50
1月30日	国際理解講座～「岐阜大学留学生招へい」交流事業～	岐阜県世界青年友の会（大垣市立 時小学校、大垣市立日新小学校）	5

対応件数：10件

派遣数：137名

8. 令和5年度における各種広報資材

●国際協働教育推進関連

(1) 岐阜ジョイント・ディグリープログラムシンポジウム 2023

5回目となるジョイント・ディグリーシンポジウムはオンライン及び一部対面で開催。

岐阜ジョイント・ディグリープログラムシンポジウム 2023
アカデミックセッション フライヤー (A4, 1P)

岐阜ジョイント・ディグリープログラムシンポジウム 2023
in Webinar フライヤー (A4, 1P)

岐阜ジョイント・ディグリープログラムシンポジウム 2023
産官学金連携セッション フライヤー (A4, 1P)

(2) Collaborative Video Making Program (CVMP)

令和2年度より開催しているオンラインによるジョイント・ディグリー協定校間学生交流プログラム。

CVMP 2023

学生募集用ポスター (A4, 1P)



CVMP 2023 Final Competition フライヤー (A4, 1P)

日英で作成。



(3) ウィンタースクール

平成27年度から開催している JD 協定校の IITG 及び UKM からの留学生招へいプログラム。

ウィンタースクール2023 フライヤー (A4, 1P)



(4) スプリングスクールプログラム

平成30年度から開催している JD 協定校の IITG への学生派遣プログラム

スプリングスクールプログラム2023 フライヤー (A4, 1P)



(5) ウィンタースクール2023報告書 (A 4, 12P)
令和5年度ウィンタースクールの活動報告書を作成した。



THE 7TH WINTER SCHOOL REPORT

DECEMBER 6-22, 2023

Overview of the 7th Winter School

Objectives:
In April 2019, Gifu University launched International Joint Degree Programs (JDP) with both Indian Institute of Technology, Guwahati (IITG) and Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM). The Winter School is designed to provide opportunities to students from those institutions who are considering graduate studies a better understanding of Gifu University and Japan. The theme of this year's Winter School is "Studying science of Japanese tradition." The participants visited Japanese companies, interacted with Japanese students, engaged in research activities, and experienced Japanese culture. Gifu University hopes that the participants will serve as bridges between IITG/UKM and Gifu University, and play a role in fostering mutual understanding for years to come.

Number of Participants:
6 students from IITG (2 males and 4 females; 3 undergraduate and 3 master's)
2 students from UKM (2 females; 2 master's)

Contents:

- Opening Ceremony
- Gathering with Gifu University Students
- A Courtesy Visit to President
- Joint Degree Symposium and Booth Exhibition
- Japanese Class
- Laboratory Experiences
- Japanese Culture Experience (Gagaku)
- Tokyo Exhibition
- Off-Campus Lecture in Tajimi City
- Gathering with High School Students of Gifu City
- Accomplishment Reports and Closing Ceremony





Opening Ceremony

December 6 (Wed.)

Opening ceremony was held in Learning Commons 1A and 1B, General Education Building. After an opening speech by Dr. KAMBARA Shiro, Vice President (International Affairs, Information and (Deputy in Charge for) Evaluation), the participants introduced themselves and enjoyed communicating with other participants, relevant professors, and tutor students.



Gathering with Gifu University Students

December 6 (Wed.)

Gathering with Gifu University students was held in Teaching Staff Office of GU-GLOCAL Winter School participants met Gifu University JDP students, Spring School Program 2024 participants, and Collaborative Video Making Program (CVMP) 2023 participants and enjoyed talking with each other. Spring School Program and CVMP are exchange activities with Gifu University, IITG and UKM students. This gathering helped all participants get to know each other.



A Courtesy Visit to President

December 8 (Fri.)

The participants visited the Office of the President and held talks with President of Gifu University. They talked about their motivations and determination to make their studies at Gifu University to be most productive and fulfilling.



Joint Degree Symposium and Booth Exhibition

December 8 (Fri.)

Joint Degree (JD) Symposium 2023 on "Regional revitalization through collaboration between industry, government, and academia centered on joint degrees" was held in the Auditorium of Gifu University with a Zoom Webinar. The participants joined the symposium with translation system that translated Japanese in to English on the laptop from the Auditorium. After the symposium, they visited the Booth Exhibition that related with JD Symposium. They checked around some booths and asked questions.



Japanese Classes

December 11 (Mon.) and December 12 (Tue.)

Japanese language lessons were offered to the participants by the Center for Japanese Language and Culture. They learned basic Japanese language over a total of five-hour class sessions.



Laboratory Experiences

December 11 (Mon.) and December 12 (Tue.)

This experience was set up for the participants to learn more about the soil and ceramics of Japan. In the first part of the Laboratory Experience, participants took the lecture on the overview of earthen and ceramic wares. In the second part, participants learned about the Scanning Electron Microscope (SEM) and the Energy Dispersive X-ray Spectroscopy (EDX) at the Instrumental Analysis Center on campus and experienced the analysis with SEM and EDX. They also had a short lecture and experienced the operation of Nuclear Magnetic Resonance (NMR).



December 18 (Mon.) and December 19 (Tue.)

This experience was set up for the participants to learn more about the Japanese food and science. In the first part of the Laboratory Experiences, participants took the lecture on the overview of koji (malted rice) and joined the laboratory tour. In the second part, participants made koji (malted rice) and tasted Amazake (sweet sake, non-alcoholic).



Japanese Culture Experience (Gagaku)

December 13 (Wed.)

Japanese Culture Experience (Gagaku, Japanese old court music) was held in Washitsu (Japanese style room) in the Center for Japanese Language and Culture.

The participants took part in the event with Gifu University Japanese Language and Culture Studies Course students. They enjoyed the beautiful Japanese traditional culture. In the first part of the event were a concert and a lecture about the history of Gagaku. In the second part, students had chances to try the instruments and costumes.



Tokyo Excursion

December 14 (Thu.) – December 15 (Fri.)

This excursion was set up for the participants to learn more about Japanese industry and companies. Prior to the excursion, the participants took a special lecture about Japanese industry and companies on December 13 (Wed.).

During the Tokyo Excursion, the participants had the chance to visit a major research institute, company and government organization in Aichi, Kanagawa, and Tokyo. They took a tour of the Japan Fine Ceramics Center (Aichi), Morinaga & Co., Ltd. (Kanagawa), Sinfonia Technology Co., Ltd. (Tokyo), and JETRO Headquarters (Tokyo). We would like to express our appreciation to all the staff of the companies and JETRO for offering a warm welcome to the participants.



Off-Campus Lecture in Tajimi City

December 20 (Wed.)

This Off-Campus Lecture was set up for the participants to learn more about Mino ceramic ware, which is one of the famous local industries in Gifu. The participants visited the Mino Ceramic Art Museum, Tajimi (Gifu) and learned about the Mino ware. They also had a chance to experience a tea ceremony with using Mino ware. Participants later visited the Kokeigama (potter of Mino ware). After the facility tour, participants tried the pottery making.



Gathering with High School Students of Gifu City

December 21 (Thu.)

Gathering with Karo High School students was held in General Education Building. Winter School participants and 37 high school students made 7 groups for a group discussion. In the first part of the event, they had a lecture about global initiatives of Gifu University from Dr. EBIHARA Akio, Associate Director of the Organization for Promotion of Globalization, Gifu University. In the second part of the event, they had a brief lecture on UKM and studying abroad to Japan from JOP students from UKM. Finally, the high school students gave their presentation to the participants, and after that, all students enjoyed talking with each other. This gathering helped all participants get to know each other and learn about cultural differences.



Accomplishment Reports and Closing Ceremony

December 22 (Fri.)

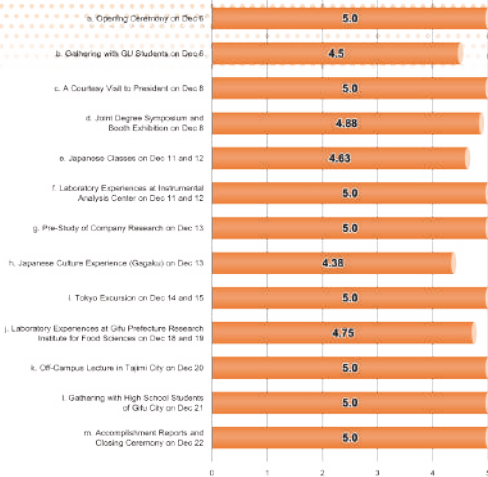
On the final day of Winter School 2023, Accomplishment Reports session was held in Learning Commons 1A and 1B, General Education Building. Dr. YOSHIDA Kazuhiko, President of Gifu University, relevant professors, and students joined this session. The participants gave their poster presentation about the activities in Winter School. In just two-week school activities, the participants had made a lot of progress and looked confident of their achievements. President Yoshida gave small gifts to the top three students. At the Closing Ceremony, Dr. KAMBARA awarded the Certificate of Completion to each participant. The participants, professors and students had a hard time to say goodbye to one another and are hoping to be reunited again. The 7th Winter School Program marked another successful milestone in the history of Winter School Programs.





Questionnaire to Participants of Winter School 2023

1. Satisfaction with the 7th Winter School



2. Comments from Participants

- Very good, please give more opportunities to participate.
- It was organized, all information was given and was very resourceful.
- We are really thankful to the students and all the professors who were involved in the Winter School. We enjoyed the complete stay, and loved the hospitality offered by you. Thank you, once again!
- I enjoyed the Winter School very much. It indeed is a very good initiative for cross-cultural exchange and exploration of future possibilities be it job or further studies.
- Winter School was one of the best experiences of my life. I brought a lot of memories. The knowledge that we received was phenomenal and the people of Japan are very very nice and helpful people.

Memories



GIFU UNIVERSITY

International General Affairs Office
Gifu University Organization for Promotion of Globalization
1-1 Yanagido, Gifu City, Gifu, JAPAN



●地域国際化推進関連

(1) グローカル化のための令和5年度SDGs勉強会（計9回）

学生・教職員・地域企業を対象とした地域社会の国際化に向けたSDGs勉強会を実施。

グローバル化のための令和5年度SDGs勉強会
フライヤー（A4, 1P）

東海国立大学機構 経済大学
東海国立大学機構 グローカル推進機構

グローバル化のための 令和5年度 SDGs勉強会

Zoomを使用して開催します / 各回15:00~16:00 **参加費無料**

経済大学グローバル推進機構、地域国際化推進部門では、大学が育つ国際的な、人・情報・ネットワークを基盤に活動いたします。主として、地域社会・東海地域の「グローバル化」の推進を目指しています。この勉強会は、学内外の専門家と講師として招き、学生の学生、教育職員が地域の国際化とともに、学び、議論する場として開催いたします。

【対象者】自治体、企業、教育機関等の関係者

回次	開催日時	テーマ	講師
第1回	6月23日(土)	地域の国際化とSDGsの関係とは?	村瀬 昌 氏 経済大学学生国際関係科 教授
第2回	6月29日(金)	ライフサイクル・マネジメントによる持続可能な開発目標の達成	村上 雅明 氏 三重大学工学部環境学 准教授
第3回	7月6日(金)	健康長寿社会実現を目指したグローバル課題	佐藤 洋 氏 経済大学法学部 教授
第4回	8月20日(月)	バイオマスエネルギーを基盤とした先進的バイオエネルギー産業	佐藤 昌 氏 経済大学工学部 教授
第5回	8月27日(日)	東海圏連携からみたバイオマスエネルギー産業	佐藤 昌 氏 経済大学工学部 教授
第6回	9月3日(日)	持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組み	佐藤 昌 氏 経済大学工学部 教授
第7回	9月10日(日)	グローバルヘルスの視点からみた国際関係	佐藤 昌 氏 経済大学工学部 教授
第8回	9月17日(日)	東海圏連携からみた国際関係	佐藤 昌 氏 経済大学工学部 教授
第9回	9月24日(日)	グローバル化のためのSDGsとは	佐藤 昌 氏 経済大学工学部 教授

国際事業課 国際経営室 TEL 058-293-2139
※お申し込み方法、詳細はグローバル推進機構ホームページをご覧ください。
URL: <https://www.glocal.gtu-u.ac.jp/region/sdgs/session/>
※本、関係者等が対象となる場合は、ホームページにて案内いたします。

主催 東海国立大学機構経済大学 グローカル推進機構

●留学促進関連

(1) 留学フェア

本学学生に向けた、グローバル推進機構主催の各種留学プログラムを紹介するイベントを年2回実施。

海外留学フェア2023春 フライヤー (A4, 1P)



海外留学フェア2023秋 フライヤー (A4, 1P)



(2) study abroad

本学学生に向けた留学ガイドブックを発行。留学に必要な手続きや協定大学の情報等が掲載されており、本学HP上でも公開している。

study abroad 岐阜大学 留学ガイドブック2023 (A4, 32P)



(3) 夏期 ESL・EST 留学説明会

夏休みに開催される海外協定大学への留学プログラムに関する説明会。

2023年度サマースクール(派遣)説明会
フライヤー (A4, 1P)



(4) サマースクール(受入)

日本語レベル初級から N3 レベルの協定大学学生に向けた受入プログラム。

2023年度岐阜大学サマースクール
フライヤー (A4, 1 P)



(5) 海外渡航危機管理オリエンテーション

留学や海外旅行を予定している学生・教職員などを対象とし、幅広く危機管理意識を醸成することを目的として開催しているイベント。

2023年度海外渡航危機管理オリエンテーション
フライヤー (A4, 1 P)



●国際企画関連

(1) NEWS Letter

年2回発行している対外的な広報フライヤー。令和5年度は55号(10月)と56号(3月)を日英でそれぞれ発行。新入生へも配付している。

NEWS Letter 2023 October 55 (A4, 4 P) 日英で作成

NEWS Letter 2024 March 56 (A4, 4 P) 日英で作成



(2) 秋の国際月間

10月に国際月間を開催し、国際交流の各種イベントを実施。

国際月間フライヤー (A4, 1P) 日英で作成



(3) 国際月間特別シンポジウム

脳科学者の茂木 健一郎氏、経営者の塩野 誠氏、吉田 和弘 学長による国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのかー ChatGPT 時代を生き残れ! 国際化に必要な能力は本当に英語なのか?ー」を実施。

国際月間特別シンポジウム フライヤー (A4, 1P)



●留学生就職促進関連

(1) 岐阜地区ワークショップ

愛岐留学生就職支援コンソーシアムと岐阜大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構、岐阜県貿易情報センターの共催で外国人留学生を対象としたワークショップを開催した。

2023年度岐阜地区ワークショップフライヤー（A4, 1P）

日英で作成

外国人留学生対象

留学生のための就職支援プログラム

参加費 無料

2023年度 愛岐留学生就職支援 コンソーシアム
岐阜地区ワークショップ

愛岐留学生就職支援コンソーシアムの
県内4機関（岐阜大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、JETROの岐阜）で
行うこの取組は、地元産産企業に
就職でマッチングの機会を創出します。
留学生に、積極的に参加してほしいイベントです。
今年も企業と留学生による交流会を実施します。

日時 2023.10.25 (水) 13:15~16:30

会場 岐阜大学全学共通教育講義棟105講義室
コモンスTA-1B 〒501-8512 岐阜市神宮町1-1

参加費 主に日本語

定員 留学生 30名程度・企業 30名程度

対象 愛岐留学生就職支援コンソーシアム加盟大学の留学生・岐阜県留学生交流推進協議会加盟大学の留学生・県内企業

当日のスケジュール

13:15~13:45	開場 (13:00 開場)	14:50~15:10	休憩
13:45~13:50	開会挨拶	15:10~16:25	【第2期】企業と留学生による 交流会
13:50~14:50	【第1期】懇話会に付ける国際人権の意識を高める付随: 企業支援と留学生支援の観点から 岐阜大学、岐阜県、岐阜県経営者協会、 JETRO 4機関からの情報提供	16:25~16:30	閉会の言葉

下記の情報にメールで申し込んでください。お申し込みの際は、お名前・①の欄を必ず記入ください。

① 氏名 ② フリガナ ③ 大学・学部 ④ 学部・研究科 ⑤ 学年
⑥ 学歴番号（岐阜大学在籍者のみ） ⑦ 国籍 ⑧ 所属機関の名称 ⑨ 連絡先（TEL & Eメール）

岐阜大学グローバルイノベーション推進部 留学支援課（担当）
TEL 058-293-2011 E-mail: cghog@t.gifu-u.ac.jp

※ 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、内容の変更（オンラインによる実施）・中止となる場合がございます。

オンラインによる個別カウンセリングを行い、留学生のみなさんの就業活動の準備をサポートします。
参加してお申し込みください。

申込締切
2023
10.2(月)

●広報動画

(1) Glocal Lesson

「地球規模で考えながら地域の課題を解決する」グローバル人材の育成を目指す岐阜大学グローバル推進機構が配信・対面・リアルタイムで提供する学習プログラムを更新した。

会員登録はこちらから



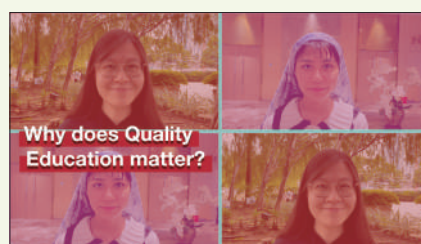
(2) Collaborative Video Making Program

Collaborative Video Making Program に参加した岐阜大学、インド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学の学生が協力して作成した、国際交流促進動画。英語で作成。(3分)

Green Utopia (Group 1)



Invest in Education (Group 2)



Our World, Our Choices (Group 3)



A better place for you and I (Group 4)



編集後記

令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の法律上の分類が「2類感染症相当」から季節性インフルエンザなどと同等の「5類」に引き下げられました。これにより、岐阜大学の国際交流事業もついにCOVID-19の呪縛から解放され、学生・教員の海外派遣数、外国人研究者・来訪者受入実績もコロナ禍以前の水準に近づいてきました。やはり国際交流は現地に出向いて「Face to Face」で交流することで得るものが多く、その経験は何者にも変え難いものとなります。今年度以降、「Face to Face」による国際交流事業のさらなる活性化が大いに期待できると確信しております。

一方、このコロナ禍で人的交流が制限された中でもさまざまな創意工夫と関係各位の努力により、世界各地の学术交流協定締結大学・機関との多くの国際交流事業は途切れることなく脈々と受け継がれてきました。令和5年度は、このコロナ禍で培った新たなノウハウを活用して新たな方向性での国際交流を進めていく、まさに「ポストコロナ元年」になったと感じています。令和6年度は、これまでのコロナ禍を乗り越えた自信を胸に、その経験と知識を最大限に生かして、岐阜大学ならではのキラリと光る国際交流事業の新展開に期待したいと考えています。

最後になりましたが、本年度も「年報」の編集作業にご協力いただきました各部局の皆様、編集作業を滞りなく遂行いただきましたグローバル推進機構の皆様に、心から御礼を申し上げます。

2024年6月

編集担当
年報ワーキンググループ
応用生物科学部 中川 智行

岐阜大学グローバル推進機構 国際企画部門 年報ワーキンググループ

中川 智行（応用生物科学部）
古田 知美（グローバル推進機構）
松井 真弓（グローバル推進機構）
グローバル推進機構国際総務室・留学支援室

岐阜大学国際交流年報2023

2024年6月 発行

編集

岐阜大学グローバル推進機構

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL：058-293-3351
E-mail：kokusaik@t.gifu-u.ac.jp
HP：https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/

印刷・製本 西濃印刷株式会社
〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

